

第二章 調査結果の概要 ～単純集計結果を中心に～

第二章 調査結果の概要～単純集計結果を中心に～

この章では、調査結果のうち、主として単純集計結果をとおして把握することができる調査結果の概要を明らかにします。市民が人権・同和問題について、どう認識し、どう考えているか、その概要を把握します。

第1節 人権・同和問題に関する学習経験

この節は、市民が人権・同和問題に関して、どんな契機で、どんな内容の学習を経験したと受け止めているか、学習経験の受け止めに関する実態を把握しようとする部分です。家庭や地域社会においてはもちろん、学校や社会教育施設などにおける人権・同和教育や啓発活動をどの程度経験しているのか、その実態を探ります。

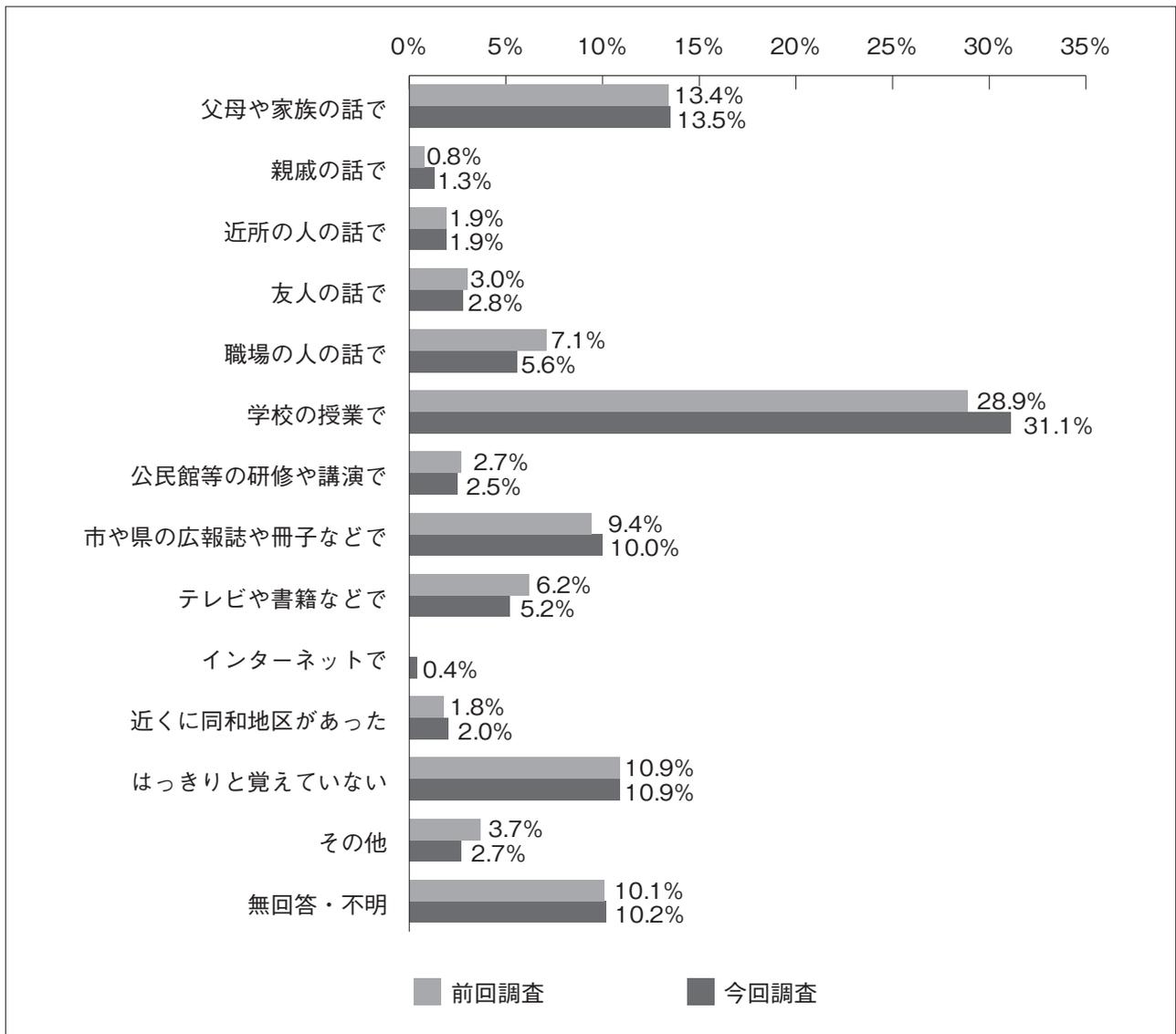
1 同和問題の学習経験

市民意識に根強く残り、早急に解決を迫られる差別問題として同和問題がありますが、では、市民は同和問題をどのように知ったのでしょうか。表2-1を見ていきましょう。

問15 あなたが、同和問題をはじめて知ったきっかけは何ですか。(○は1つだけ)

表2-1

		回答者数	父母や家族の話で	親戚の話で	近所の人の話で	友人の話で	職場の人の話で	学校の授業で	研修や講演で	公民館等のなどで	市や県の広報誌や冊子などで	籍などテレビや書籍などで	インターネットで	近くに同和地区があつた	はつきり覚えていない	その他	無回答・不明
市全体		1,415 100.0% (100.0)	191 13.5% (13.4)	18 1.3% (0.8)	27 1.9% (1.9)	39 2.8% (3.0)	79 5.6% (7.1)	440 31.1% (28.9)	36 2.5% (2.7)	141 10.0% (9.4)	74 5.2% (6.2)	5 0.4% (0.4)	29 2.0% (1.8)	154 10.9% (10.9)	38 2.7% (3.7)	144 10.2% (10.1)	
性別	男性	530 100.0% (100.0)	61 11.5% (13.4)	8 1.5% (0.8)	9 1.7% (1.1)	20 3.8% (2.8)	50 9.4% (11.0)	141 26.6% (25.2)	10 1.9% (3.2)	48 9.1% (7.3)	35 6.6% (7.1)	2 0.4% (0.4)	11 2.1% (2.3)	64 12.1% (13.6)	17 3.2% (3.7)	54 10.2% (8.6)	
	女性	885 100.0% (100.0)	130 14.7% (13.4)	10 1.1% (0.9)	18 2.0% (2.5)	19 2.1% (3.1)	29 3.3% (4.4)	299 33.8% (31.5)	26 2.9% (2.4)	93 10.5% (10.8)	39 4.4% (5.6)	3 0.3% (0.3)	18 2.0% (1.5)	90 10.2% (9.0)	21 2.4% (3.8)	90 10.2% (11.2)	
年齢別	10歳代	123 100.0% (100.0)	7 5.7% (4.3)	1 0.8% (1.2)	0 0.0% (0.0)	0 0.0% (1.2)	2 1.6% (1.9)	63 51.2% (57.8)	0 0.0% (0.0)	2 1.6% (1.2)	3 2.4% (1.2)	3 2.4% (1.2)	0 0.0% (0.0)	27 22.0% (18.6)	8 6.5% (9.9)	7 5.7% (2.5)	
	20歳代	193 100.0% (100.0)	9 4.7% (9.9)	2 1.0% (0.4)	0 0.0% (0.0)	0 0.0% (1.1)	4 2.1% (3.4)	120 62.2% (56.9)	2 1.0% (0.4)	6 3.1% (4.2)	3 1.6% (1.9)	1 0.5% (0.5)	1 0.5% (0.8)	22 11.4% (9.2)	4 2.1% (3.4)	19 9.8% (8.4)	
	30歳代	245 100.0% (100.0)	22 9.0% (9.2)	3 1.2% (0.4)	0 0.0% (0.0)	2 0.8% (1.7)	8 3.3% (5.7)	134 54.7% (52.0)	5 2.0% (3.5)	5 2.0% (3.1)	5 2.0% (3.5)	0 0.0% (0.0)	4 1.6% (0.9)	18 7.3% (10.5)	6 2.4% (2.2)	33 13.5% (7.4)	
	40歳代	241 100.0% (100.0)	53 22.0% (17.5)	3 1.2% (0.6)	2 0.8% (1.9)	8 3.3% (4.1)	16 6.6% (9.8)	76 31.5% (19.0)	2 0.8% (1.9)	12 5.0% (10.8)	15 6.2% (7.6)	0 0.0% (0.0)	2 0.8% (1.0)	21 8.7% (9.5)	5 2.1% (4.1)	26 10.8% (12.1)	
	50歳代	331 100.0% (100.0)	52 15.7% (19.3)	5 1.5% (1.2)	11 3.3% (2.5)	19 5.7% (3.1)	28 8.5% (10.3)	33 10.0% (8.1)	8 2.4% (3.4)	62 18.7% (15.3)	27 8.2% (8.7)	1 0.3% (0.3)	8 2.4% (2.5)	35 10.6% (7.8)	9 2.7% (3.4)	33 10.0% (14.3)	
	60歳代	282 100.0% (100.0)	48 17.0% (14.0)	4 1.4% (1.0)	14 5.0% (5.5)	10 3.5% (5.1)	21 7.4% (7.9)	14 5.0% (3.4)	19 6.7% (5.8)	54 19.1% (15.4)	21 7.4% (10.6)	0 0.0% (0.0)	14 5.0% (4.8)	31 11.0% (13.4)	6 2.1% (1.7)	26 9.2% (11.3)	



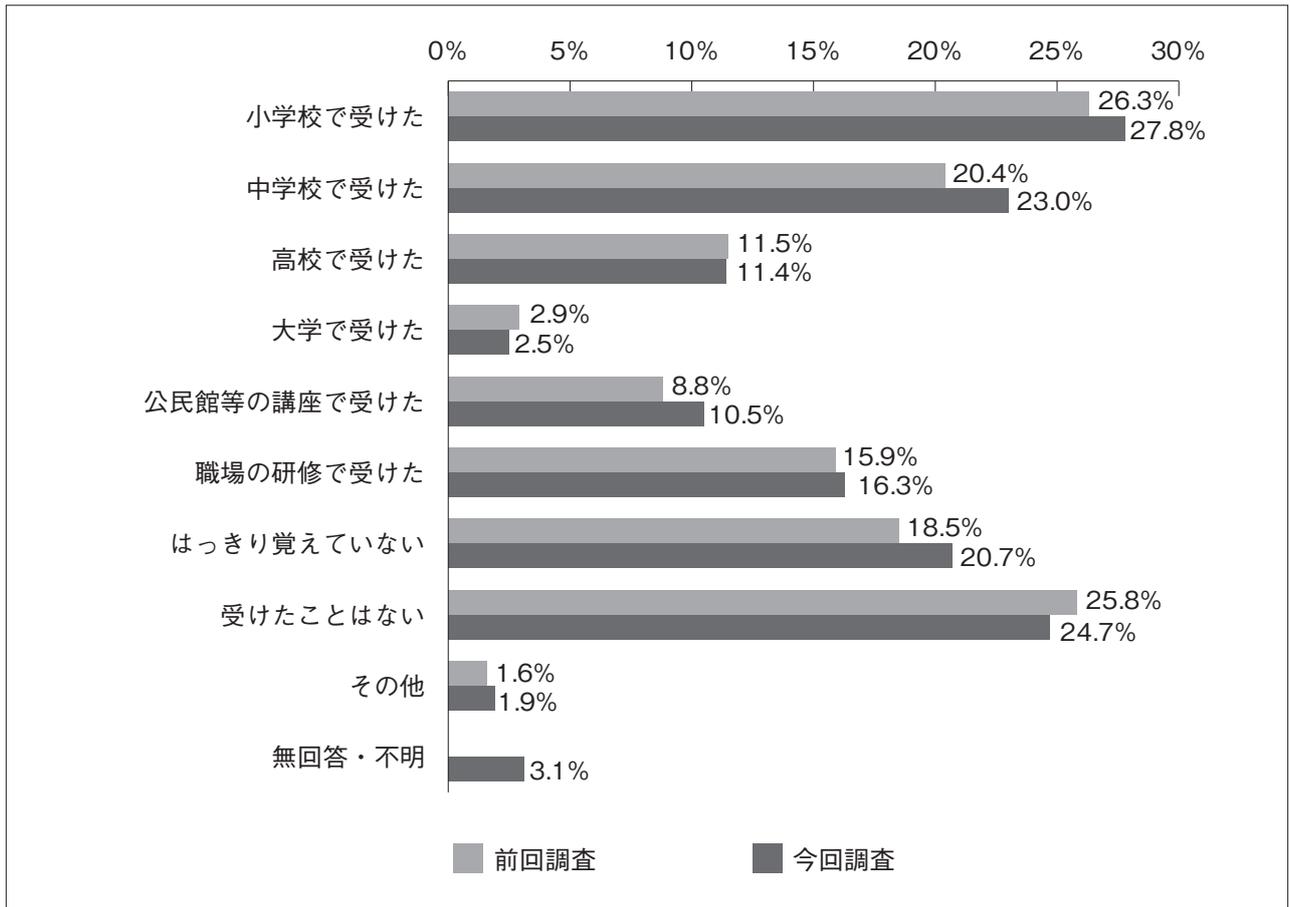
全体として、「はっきりと覚えていない」「無回答・不明」が合わせて20%以上もありますが、比率の上で特に高いのが「学校の授業で」知ったという回答です。これは前回調査より2.2ポイント伸びており、少しずつではありますが学校で行う人権・同和教育の浸透がうかがえます。また、40歳代以下で特に「学校の授業で」知った比率が高く、若い年代では学校教育が、50歳代、60歳代以上の年代では「父母や家族の話で」知ったと答えた人の比率が高くなる傾向があります。

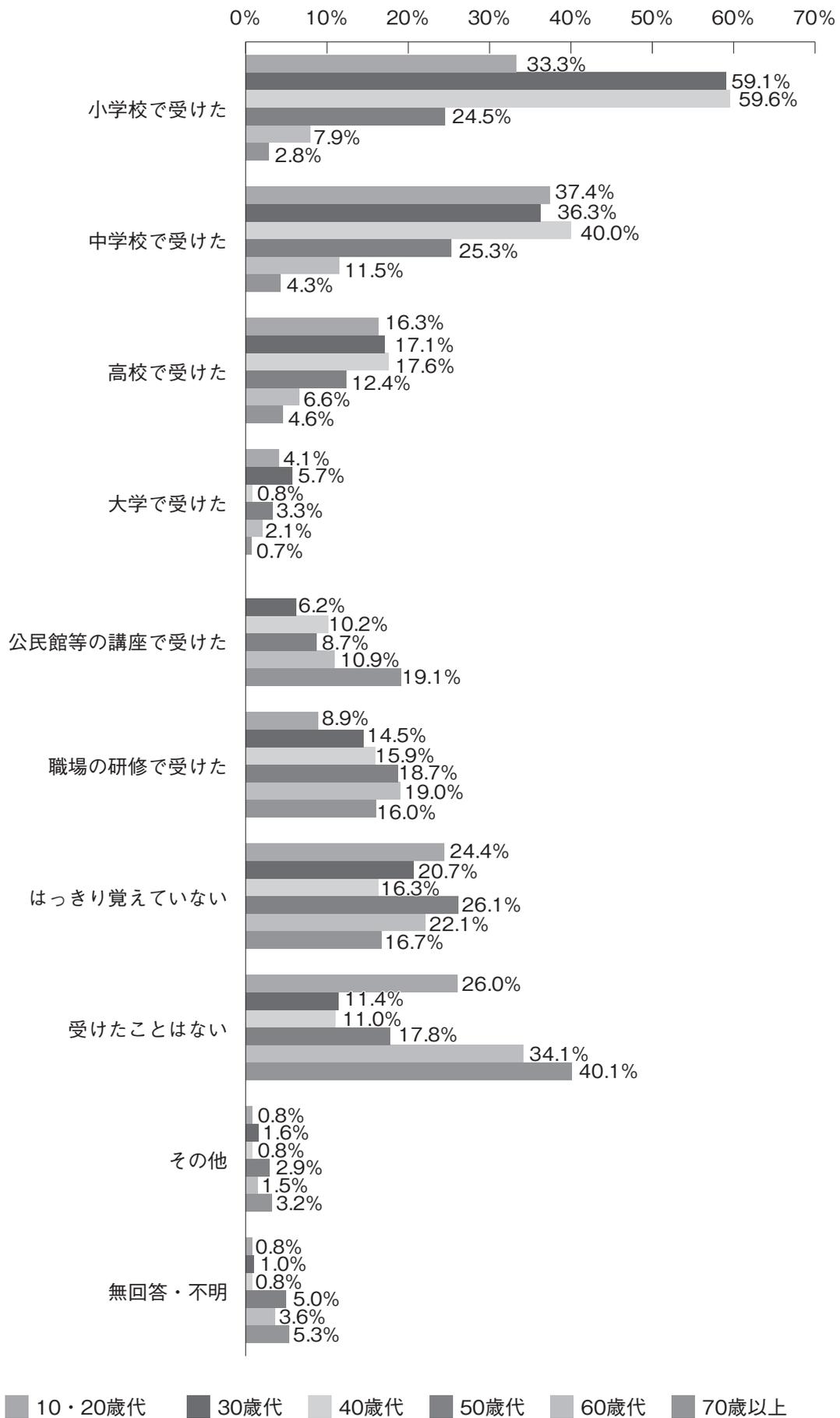
人権が尊重される社会をつくるには、問題を正確に認識し、人権意識を高め、豊かな感性を持って問題解決に当たろうとする意欲を高める必要があります。それには、人権に関する教育や啓発が必要だと考えられます。では、市民は、人権・同和教育や人権啓発活動にどのように参加しているでしょう。表2-2を見ていきましょう。

問 20 あなたは、これまで、学校・職場・地域などで、同和問題についての学習を受けたことがありますか。(〇はいくつでも)

表2-2

		回 答 者 数	小 学 校 で 受 け た	中 学 校 で 受 け た	高 校 で 受 け た	大 学 で 受 け た	公 民 館 等 の 講 座 で 受 け た	職 場 の 研 修 で 受 け た	は っ き り 覚 え て い な い	受 け た こ と は な い	そ の 他	無 回 答 ・ 不 明
市 全 体		1,415 100.0% (100.0)	394 27.8% (26.3)	325 23.0% (20.4)	161 11.4% (11.5)	35 2.5% (2.9)	148 10.5% (8.8)	231 16.3% (15.9)	293 20.7% (18.5)	350 24.7% (25.8)	27 1.9% (1.6)	44 3.1%
性 別	男 性	530 100.0% (100.0)	121 22.8% (22.2)	113 21.3% (19.3)	59 11.1% (11.4)	11 2.1% (2.6)	37 7.0% (8.0)	130 24.5% (23.5)	98 18.5% (17.3)	152 28.7% (25.6)	5 0.9% (0.8)	13 2.5%
	女 性	885 100.0% (100.0)	273 30.8% (29.1)	212 24.0% (21.2)	102 11.5% (11.6)	24 2.7% (3.1)	111 12.5% (9.3)	101 11.4% (10.7)	195 22.0% (19.3)	198 22.4% (26.0)	22 2.5% (2.1)	31 3.5%
年 齢 別	10 歳 代 20 歳 代	123 100.0% (100.0)	41 33.3% (48.4)	46 37.4% (41.0)	20 16.3% (20.5)	5 4.1% (6.2)	0 0.0% (0.0)	11 8.9% (8.1)	30 24.4% (19.3)	32 26.0% (17.4)	1 0.8% (0.0)	1 0.8%
	30 歳 代	193 100.0% (100.0)	114 59.1% (56.1)	70 36.3% (32.8)	33 17.1% (17.9)	11 5.7% (4.2)	12 6.2% (3.1)	28 14.5% (11.5)	40 20.7% (22.5)	22 11.4% (11.5)	3 1.6% (0.4)	2 1.0%
	40 歳 代	245 100.0% (100.0)	146 59.6% (52.8)	98 40.0% (33.6)	43 17.6% (20.1)	2 0.8% (6.1)	25 10.2% (10.5)	39 15.9% (15.3)	40 16.3% (14.0)	27 11.0% (12.7)	2 0.8% (1.7)	2 0.8%
	50 歳 代	241 100.0% (100.0)	59 24.5% (13.7)	61 25.3% (17.8)	30 12.4% (10.8)	8 3.3% (2.9)	21 8.7% (9.5)	45 18.7% (22.5)	63 26.1% (17.8)	43 17.8% (25.7)	7 2.9% (2.9)	12 5.0%
	60 歳 代	331 100.0% (100.0)	26 7.9% (5.3)	38 11.5% (8.1)	22 6.6% (4.4)	7 2.1% (0.6)	36 10.9% (11.8)	63 19.0% (17.4)	73 22.1% (21.2)	113 34.1% (37.7)	5 1.5% (1.2)	12 3.6%
	70歳以上	282 100.0% (100.0)	8 2.8% (3.1)	12 4.3% (4.1)	13 4.6% (2.7)	2 0.7% (0.0)	54 19.1% (13.4)	45 16.0% (16.1)	47 16.7% (15.8)	113 40.1% (40.8)	9 3.2% (2.4)	15 5.3%





数値からわかるのは、教育や啓発を「受けたことはない」と答えた人が前回調査より 1.1 ポイント減少したことです。前回調査と比べると、「小・中学校で受けた」「公民館等や職場で研修を受けた」と答えた人の比率は上がっています。一方で、「高校・大学で受けた」と答えた人の比率はわずかですが下がっています。年代別にみると 10 歳代・20 歳代で、「学校で受けた」と答えた人の比率が下がり、「受けたことはない」「はっきり覚えていない」と答えた人の比率が上がっている点は気になります。学校教育において、同和問題に対する確かな認識を身につけるための取り組みが望まれます。

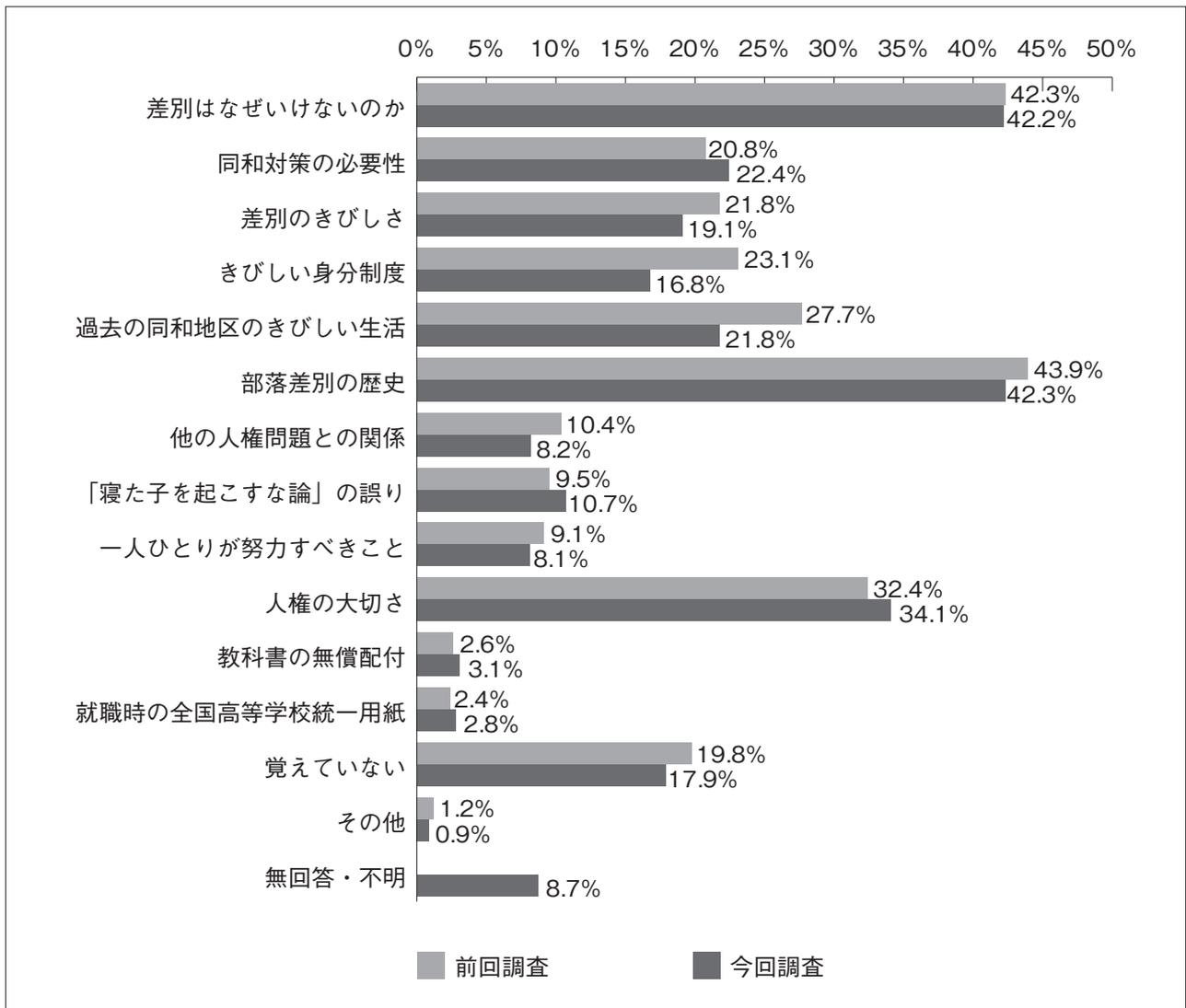
2 同和問題の学習内容

では、市民は学校や社会教育施設、職場などでどんな内容の学習を経験しているでしょう。表2-3から探ってみましょう。

問 21 それはどのような内容だったのでしょうか。(○はいくつでも)

表2-3

	回 答 者 数	か 差 別 は な ぜ い け な い の	同 和 対 策 の 必 要 性	差 別 の き び し さ	き び し い 身 分 制 度	過 去 の 同 和 地 区 の き び し い 生 活	部 落 差 別 の 歴 史	他 の 人 権 問 題 と の 関 係	「 寝 た 子 を 起 こ す な 論 」 の 誤 り	一 人 ひ と り が 努 力 す べ き こ と	人 権 の 大 切 さ	教 科 書 の 無 償 配 付	就 職 時 の 全 国 高 等 学 校 統 一 用 紙	覚 え て い な い	そ の 他	無 回 答 ・ 不 明	
市 全 体	1076 100.0% (100.0)	454 42.2% (42.3)	241 22.4% (20.8)	206 19.1% (21.8)	181 16.8% (23.1)	235 21.8% (27.7)	455 42.3% (43.9)	88 8.2% (10.4)	115 10.7% (9.5)	87 8.1% (9.1)	367 34.1% (32.4)	33 3.1% (2.6)	30 2.8% (2.4)	193 17.9% (19.8)	10 0.9% (1.2)	94 8.7%	
性 別	男 性	381 100.0% (100.0)	182 47.8% (43.7)	98 25.7% (26.7)	78 20.5% (21.9)	65 17.1% (24.5)	81 21.3% (26.9)	174 45.7% (46.6)	38 10.0% (11.9)	45 11.8% (11.5)	28 7.3% (10.4)	135 29.9% (29)	11 3.4% (3.8)	56 14.7% (17.9)	3 0.8% (0.7)	26 6.8%	
	女 性	695 100.0% (100.0)	272 39.1% (41.3)	143 20.6% (16.7)	128 18.4% (21.8)	116 16.7% (22.1)	154 22.2% (28.3)	281 40.4% (42.1)	50 7.2% (9.4)	70 10.1% (8.1)	59 8.5% (8.3)	232 33.4% (31.3)	22 3.2% (2.5)	17 2.4% (1.4)	137 19.7% (21.2)	7 1.0% (1.5)	68 9.8%
年 齢 別	10 歳 代	93 100.0% (100.0)	36 38.7% (47.2)	3 3.2% (13.4)	14 15.1% (26.8)	10 10.8% (24.4)	14 15.1% (28.3)	41 44.1% (52.8)	4 4.3% (10.2)	4 4.3% (1.6)	2 2.2% (11.0)	30 32.3% (33.9)	2 2.2% (1.6)	3 3.2% (3.1)	27 29.0% (25.2)	1 1.1% (1.6)	4 4.3%
	20 歳 代	171 100.0% (100.0)	85 49.7% (38.8)	37 21.6% (17.2)	50 29.2% (24.7)	35 20.5% (25.1)	48 28.1% (28.2)	83 48.5% (43.2)	14 8.2% (5.7)	17 9.9% (8.8)	20 11.7% (11.0)	57 33.3% (25.6)	7 4.1% (3.5)	5 2.9% (1.3)	42 24.6% (27.3)	1 0.6% (0.9)	4 2.3%
	30 歳 代	218 100.0% (100.0)	95 43.6% (50.3)	50 22.9% (26.4)	39 17.9% (22.3)	36 16.5% (30.5)	60 27.5% (30.5)	112 51.4% (43.7)	11 5.0% (14.2)	20 9.2% (13.2)	18 8.3% (7.6)	71 32.6% (30.5)	9 4.1% (4.1)	10 4.6% (3.0)	34 15.6% (16.2)	1 0.5% (2.0)	5 2.3%
	40 歳 代	199 100.0% (100.0)	80 40.2% (49.8)	48 24.1% (27.8)	36 18.1% (26.9)	38 19.1% (25.6)	38 19.1% (29.5)	85 42.7% (49.3)	21 10.6% (14.1)	29 14.6% (13.7)	15 7.5% (11.9)	73 36.7% (43.2)	8 4.0% (4.0)	7 3.5% (4.4)	32 16.1% (16.7)	2 1.0% (0.4)	18 9.0%
	50 歳 代	221 100.0% (100.0)	99 44.8% (37.2)	55 24.9% (14.8)	40 18.1% (15.3)	35 15.8% (12.6)	44 19.9% (20.2)	77 34.8% (38.8)	22 10.0% (9.8)	25 11.3% (8.2)	19 8.6% (7.1)	72 32.6% (32.2)	6 2.7% (0.5)	3 1.4% (0.5)	37 16.7% (19.1)	1 0.5% (0.5)	33 14.9%
	60 歳 代	174 100.0% (100.0)	59 33.9% (27.3)	48 27.6% (22.4)	27 15.5% (12.6)	27 15.5% (18.2)	31 17.8% (29.4)	57 32.8% (35.7)	16 9.2% (7.7)	20 11.5% (7.7)	13 7.5% (4.9)	64 36.8% (28.0)	1 0.6% (0.7)	2 1.1% (1.4)	21 12.1% (14.0)	4 2.3% (2.1)	30 17.2%
70歳以上																	



学習内容に関する全体的傾向については、前回調査から大きな変化はありません。ただ、学習内容を個別に見ますと、歴史的理解に関わる学習をさらに深めていく必要があります。

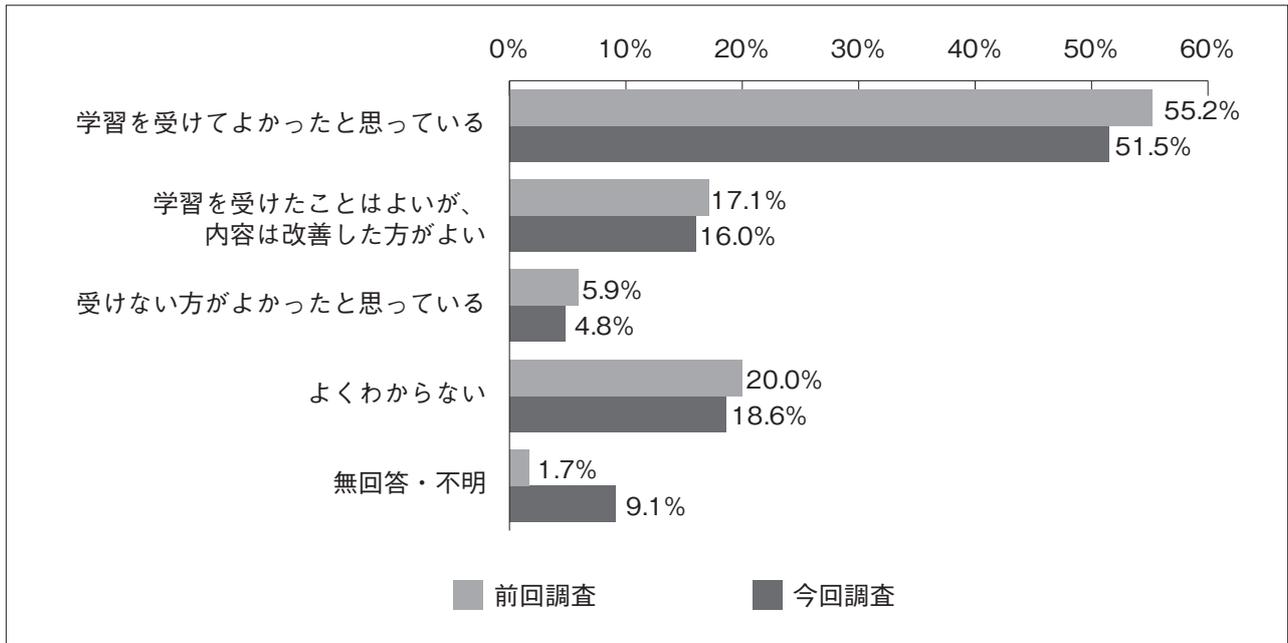
3 同和問題の学習に対する評価

では、市民はこうした学習に対してどのように評価しているでしょう。表2-4から探ってみましょう。

問 22 こうした学習を受けたことについて、今どう感じていますか。(○は1つだけ)

表2-4

		回答者数	学習を受けてよかった と思っている	学習を受けたことはよいが、 内容は改善した方がよい	受けない方がよかった と思っている	よくわからない	無回答・不明
市 全 体		889 100.0% (100.0)	458 51.5% (55.2)	142 16.0% (17.1)	43 4.8% (5.9)	165 18.6% (20.0)	81 9.1% (1.7)
性 別	男 性	326 100.0% (100.0)	180 55.2% (53.3)	65 19.9% (21.2)	11 3.4% (6.1)	50 15.3% (17.7)	20 6.1% (1.7)
	女 性	563 100.0% (100.0)	278 49.4% (56.5)	77 13.7% (14.3)	32 5.7% (5.8)	115 20.4% (21.7)	61 10.8% (1.7)
年 齢 別	10 歳 代	67 100.0% (100.0)	52 77.6% (55.4)	6 9.0% (15.2)	2 3.0% (2.2)	4 6.0% (27.2)	3 4.5% (0.0)
	20 歳 代						
	30 歳 代	132 100.0% (100.0)	65 49.2% (52.9)	25 18.9% (15.5)	7 5.3% (8.4)	33 25.0% (21.9)	2 1.5% (1.3)
	40 歳 代	184 100.0% (100.0)	93 50.5% (48.1)	35 19.0% (21.6)	8 4.3% (6.8)	40 21.7% (22.2)	8 4.3% (1.2)
	50 歳 代	169 100.0% (100.0)	83 49.1% (68.8)	26 15.4% (16.2)	8 4.7% (5.8)	36 21.3% (8.1)	16 9.5% (1.2)
	60 歳 代	184 100.0% (100.0)	93 50.5% (52.7)	33 17.9% (18.6)	10 5.4% (7.0)	28 15.2% (17.1)	20 10.9% (4.7)
	70歳以上	153 100.0% (100.0)	72 47.1% (50.4)	17 11.1% (14.5)	8 5.2% (3.4)	24 15.7% (29.9)	32 20.9% (1.7)



「学習を受けてよかったと思っている」「学習を受けたことはよいが、内容は改善した方がよい」が、前回調査同様に高い比率ではありますが、前回調査よりは数値は低下しています。しかし、逆に「受けない方がよかったと思っている」と答える比率も下がっています。こうした明確な態度を避け、「無回答・不明」と答えた人の比率が高まっています。ただ、10歳代・20歳代の回答を見ると、「学習を受けてよかったと思っている」と答えた人が、前回より22.2ポイント高くなっています。若い年代に、「正確な学習は大切だ」という意識が芽生え始めていると考えてよいかもしれません。

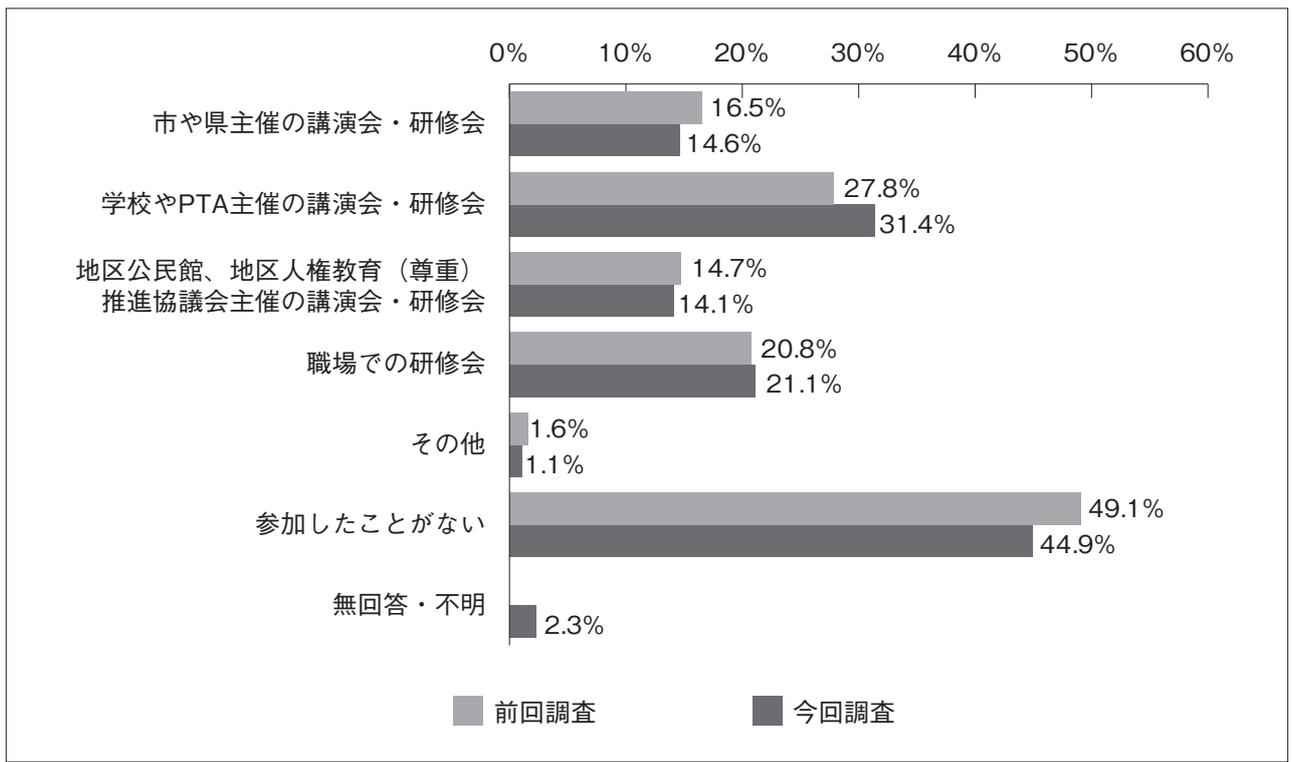
4 社会教育における人権問題の学習経験

人権問題の学習を社会教育の視点に立ち表2-5、表2-6から見ていきましょう。

問10 あなたは、次にあげる人権問題に関する講演会や研修会に参加したことがありますか。
(○はいくつでも)

表2-5

		回 答 者 数	市 や 県 主 催 の 講 演 会 ・ 研 修 会	学 校 や P T A 主 催 の 講 演 会 ・ 研 修 会	地 区 公 民 館 、 地 区 人 権 教 育 (尊 重) 推 進 協 議 会 主 催 の 講 演 会 ・ 研 修 会	職 場 で の 研 修 会	そ の 他	参 加 し た こ と が な い	無 回 答 ・ 不 明
市 全 体		1,415 100.0% (100.0)	206 14.6% (16.5)	444 31.4% (27.8)	199 14.1% (14.7)	298 21.1% (20.8)	15 1.1% (1.6)	636 44.9% (49.1)	32 2.3%
性 別	男 性	530 100.0% (100.0)	84 15.8% (18.5)	90 17.0% (14.5)	64 12.1% (13.6)	149 28.1% (27.5)	7 1.3% (2.0)	265 50.0% (52.2)	10 1.9%
	女 性	885 100.0% (100.0)	122 13.8% (15.1)	354 40.0% (37.0)	135 15.3% (15.6)	149 16.8% (16.1)	8 0.9% (1.4)	371 41.9% (46.9)	22 2.5%
年 齢 別	10 歳 代	123 100.0% (100.0)	8 6.5% (6.2)	42 34.1% (21.7)	3 2.4% (0.6)	21 17.1% (13.7)	2 1.6% (1.2)	63 51.2% (65.2)	1 0.8%
	20 歳 代								
	30 歳 代	193 100.0% (100.0)	18 9.3% (6.9)	51 26.4% (23.3)	13 6.7% (4.6)	47 24.4% (18.3)	2 1.0% (0.8)	99 51.3% (59.9)	5 2.6%
	40 歳 代	245 100.0% (100.0)	29 11.8% (21.8)	112 45.7% (41.5)	28 11.4% (20.1)	55 22.4% (23.1)	1 0.4% (2.2)	94 38.4% (37.1)	3 1.2%
	50 歳 代	241 100.0% (100.0)	38 15.8% (18.4)	102 42.3% (34.6)	26 10.8% (12.7)	59 24.5% (27.0)	3 1.2% (0.6)	90 37.3% (40.0)	5 2.1%
	60 歳 代	331 100.0% (100.0)	57 17.2% (18.4)	78 23.6% (26.8)	45 13.6% (20.2)	71 21.5% (19.9)	2 0.6% (2.2)	158 47.7% (49.5)	10 3.0%
70歳以上	282 100.0% (100.0)	56 19.9% (22.6)	59 20.9% (18.2)	84 29.8% (23.6)	45 16.0% (19.2)	5 1.8% (2.7)	132 46.8% (49.0)	8 2.8%	



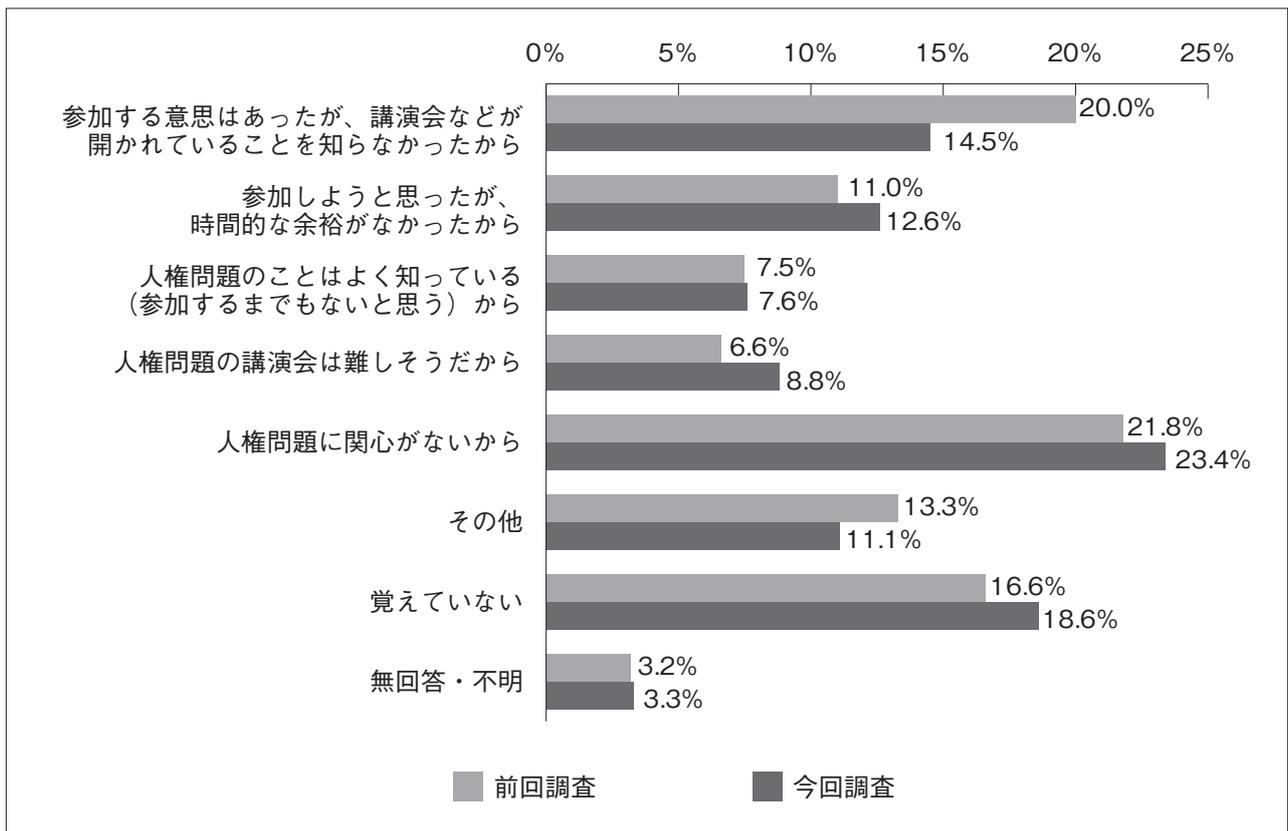
【「6 参加したことがない」と答えた方にお尋ねします。その理由をあげてください。】

(○は1つだけ)

(問 10 人権問題の学習経験)

表2-6

		回 答 者 数	参加する 意 思 は あ っ た が 、 講 演 会 な ど が 開 か れ て い る こ と を 知 ら な か っ た か ら	参 加 し よ う と 思 っ た が 、 時 間 的 な 余 裕 が な か っ た か ら	人 権 問 題 の こ と は よ く 知 っ て い る (参 加 す る ま で も な い と 思 う) か ら	人 権 問 題 の 講 演 会 は 難 し そ う だ か ら	人 権 問 題 に 関 心 が な い か ら	そ の 他	覚 え て い な い	無 回 答 ・ 不 明
市 全 体		633 100.0% (100.0)	92 14.5% (20.0)	80 12.6% (11.0)	48 7.6% (7.5)	56 8.8% (6.6)	148 23.4% (21.8)	70 11.1% (13.3)	118 18.6% (16.6)	21 3.3% (3.2)
性 別	男 性	264 100.0% (100.0)	42 15.9% (18.9)	32 12.1% (10.7)	22 8.3% (8.0)	17 6.4% (5.3)	71 26.9% (26.6)	21 8.0% (12.7)	52 19.7% (14.8)	7 2.7% (3.0)
	女 性	369 100.0% (100.0)	50 13.6% (20.8)	48 13.0% (11.2)	26 7.0% (7.1)	39 10.6% (7.6)	77 20.9% (18.1)	49 13.3% (13.7)	66 17.9% (18.1)	14 3.8% (3.4)
年 齢 別	10 歳 代	63 100.0% (100.0)	12 19.0% (18.1)	4 6.3% (6.7)	2 3.2% (1.9)	10 15.9% (10.5)	12 19.0% (24.8)	3 4.8% (19.0)	18 28.6% (17.1)	2 3.2% (1.9)
	20 歳 代	98 100.0% (100.0)	12 12.2% (20.4)	11 11.2% (13.4)	3 3.1% (5.1)	11 11.2% (4.5)	17 17.3% (19.7)	14 14.3% (17.8)	27 27.6% (17.2)	3 3.1% (1.9)
	30 歳 代	94 100.0% (100.0)	11 11.7% (17.6)	11 11.7% (9.4)	2 2.1% (8.2)	9 9.6% (5.9)	31 33.0% (21.2)	13 13.8% (10.6)	15 16.0% (23.5)	2 2.1% (3.5)
	40 歳 代	89 100.0% (100.0)	16 18.0% (20.6)	15 16.9% (9.5)	4 4.5% (10.3)	6 6.7% (7.1)	16 18.0% (23.8)	12 13.5% (7.9)	19 21.3% (17.5)	1 1.1% (3.2)
	50 歳 代	158 100.0% (100.0)	23 14.6% (24.5)	19 12.0% (12.6)	16 10.1% (7.5)	12 7.6% (6.9)	45 28.5% (19.5)	17 10.8% (15.1)	19 12.0% (9.4)	7 4.4% (4.4)
	60 歳 代	131 100.0% (100.0)	18 13.7% (16.8)	20 15.3% (11.9)	21 16.0% (11.2)	8 6.1% (5.6)	27 20.6% (23.1)	11 8.4% (8.4)	20 15.3% (18.9)	6 4.6% (4.2)
	70歳以上									



全体的傾向は、前回調査とほぼ同じです。ただ、学習した場を「学校やPTA主催の講演会・研修会」と答えた人の比率がかなり高まっている点が特徴的です。現在、学校やPTAにおいて、保護者啓発が積極的に取り組まれています。こうした取り組みが影響している可能性がうかがえます。年代別にみると、40歳代、50歳代がともに40%以上の比率で「学校やPTA主催の講演会・研修会」に参加したと答えており、前回調査よりも数値が伸びています。

5 社会教育における人権問題の学習情報

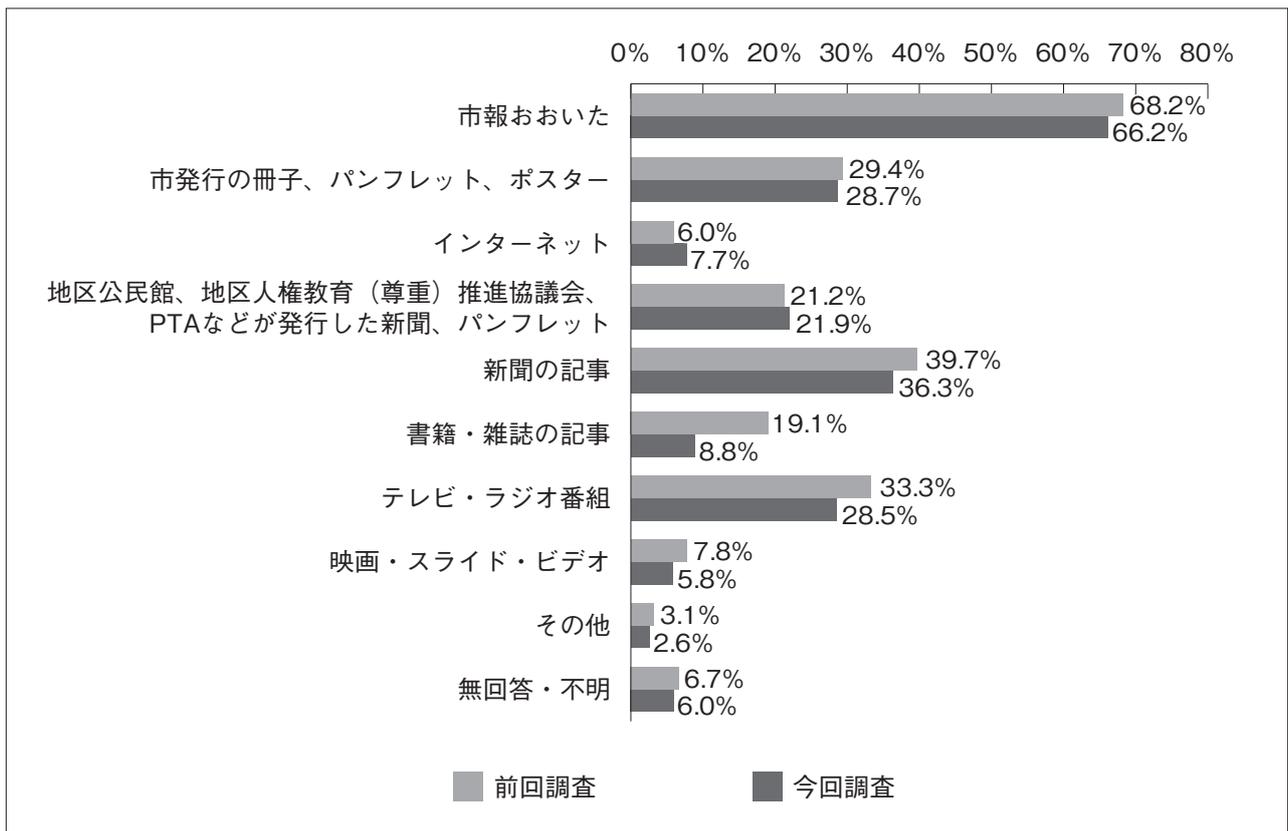
表2-7から、市民が社会教育の場で人権問題に接する情報源について見ていきましょう。

問11 次のうちで、最近、人権問題について読んだり、見たりしたものは何ですか。

(○はいくつでも)

表2-7

		回 答 者 数	市 報 お お い た	市 発 行 の 冊 子 、 パン フレ ット 、 ポ ス タ ー	イ ン タ ー ネ ッ ト	重 要 な 地 区 公 民 館 、 地 区 人 権 教 育 (尊 重 推 進 協 議 会 、 P T A な ど が 発 行 し た 新 聞 、 パ ン フ レ ッ ト	新 聞 の 記 事	書 籍 ・ 雑 誌 の 記 事	テ レ ビ ・ ラ ジ オ 番 組	映 画 ・ ス ラ イ ド ・ ビ デ オ	そ の 他	無 回 答 ・ 不 明
市 全 体		1,415 100.0% (100.0)	937 66.2% (68.2)	406 28.7% (29.4)	109 7.7% (6.0)	310 21.9% (21.2)	513 36.3% (39.7)	125 8.8% (19.1)	403 28.5% (33.3)	82 5.8% (7.8)	37 2.6% (3.1)	85 6.0% (6.7)
性 別	男 性	530 100.0% (100.0)	309 58.3% (60.0)	155 29.2% (27.3)	52 9.8% (9.0)	107 20.2% (17.3)	211 39.8% (44.9)	52 9.8% (21.6)	150 28.3% (34.9)	29 5.5% (6.8)	17 3.2% (3.2)	31 5.8% (7.4)
	女 性	885 100.0% (100.0)	628 71.0% (73.8)	251 28.4% (30.9)	57 6.4% (4.0)	203 22.9% (23.9)	302 34.1% (36.1)	73 8.2% (17.3)	253 28.6% (32.2)	53 6.0% (8.6)	20 2.3% (3.0)	54 6.1% (6.2)
年 齢 別	10 歳 代 20 歳 代	123 100.0% (100.0)	45 36.6% (39.8)	29 23.6% (13.7)	26 21.1% (18.0)	11 8.9% (8.1)	23 18.7% (22.4)	9 7.3% (16.1)	38 30.9% (37.3)	12 9.8% (8.1)	5 4.1% (6.2)	13 10.6% (9.9)
	30 歳 代	193 100.0% (100.0)	113 58.5% (62.6)	47 24.4% (19.8)	21 10.9% (8.0)	38 19.7% (18.7)	49 25.4% (27.9)	14 7.3% (10.7)	40 20.7% (23.3)	12 6.2% (7.6)	8 4.1% (5.3)	15 7.8% (8.0)
	40 歳 代	245 100.0% (100.0)	149 60.8% (65.5)	60 24.5% (29.7)	26 10.6% (7.9)	63 25.7% (30.1)	64 26.1% (33.6)	18 7.3% (19.7)	54 22.0% (25.8)	11 4.5% (8.7)	7 2.9% (1.3)	15 6.1% (8.3)
	50 歳 代	241 100.0% (100.0)	164 68.0% (71.1)	63 26.1% (35.2)	24 10.0% (5.7)	61 25.3% (20.6)	100 41.5% (41.0)	21 8.7% (25.7)	70 29.0% (34.6)	13 5.4% (10.2)	3 1.2% (2.5)	12 5.0% (6.0)
	60 歳 代	331 100.0% (100.0)	244 73.7% (78.5)	107 32.3% (32.1)	9 2.7% (1.6)	59 17.8% (21.5)	131 39.6% (47.4)	30 9.1% (18.1)	98 29.6% (36.4)	18 5.4% (5.9)	9 2.7% (2.8)	21 6.3% (5.6)
	70歳以上	282 100.0% (100.0)	222 78.7% (76.4)	100 35.5% (37.3)	3 1.1% (1.4)	78 27.7% (24.0)	146 51.8% (54.8)	33 11.7% (21.6)	103 36.5% (41.1)	16 5.7% (6.8)	5 1.8% (1.7)	9 3.2% (4.5)



人権問題の情報源として多くの市民が活用しているのは「市報おおいた」です。人権に関する情報源として市報がよく読まれており、内容やレイアウトの工夫がより一層期待されます。

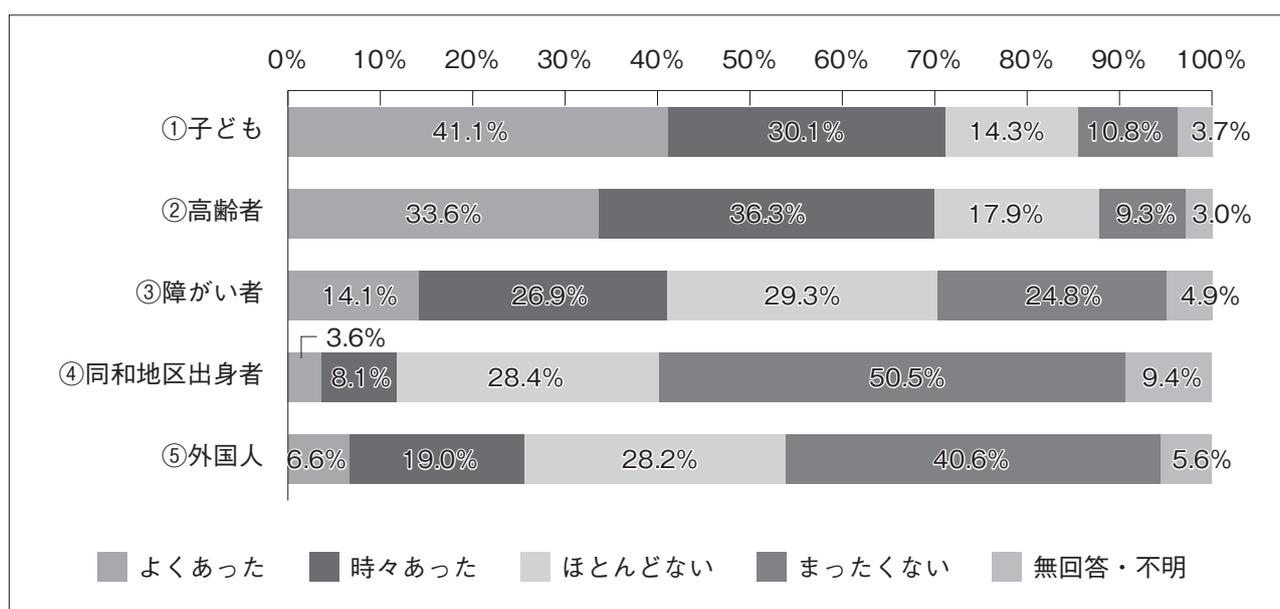
6 社会教育における人権問題の学習契機

人権意識の根底には、人や社会に発生する不条理な出来事に出会い、それまでの学習経験とのすり合わせの過程で矛盾を感知し、怒りを感じたり悩んだりするところの葛藤があります。この点から市民の意識を表2-8から見ていきましょう。

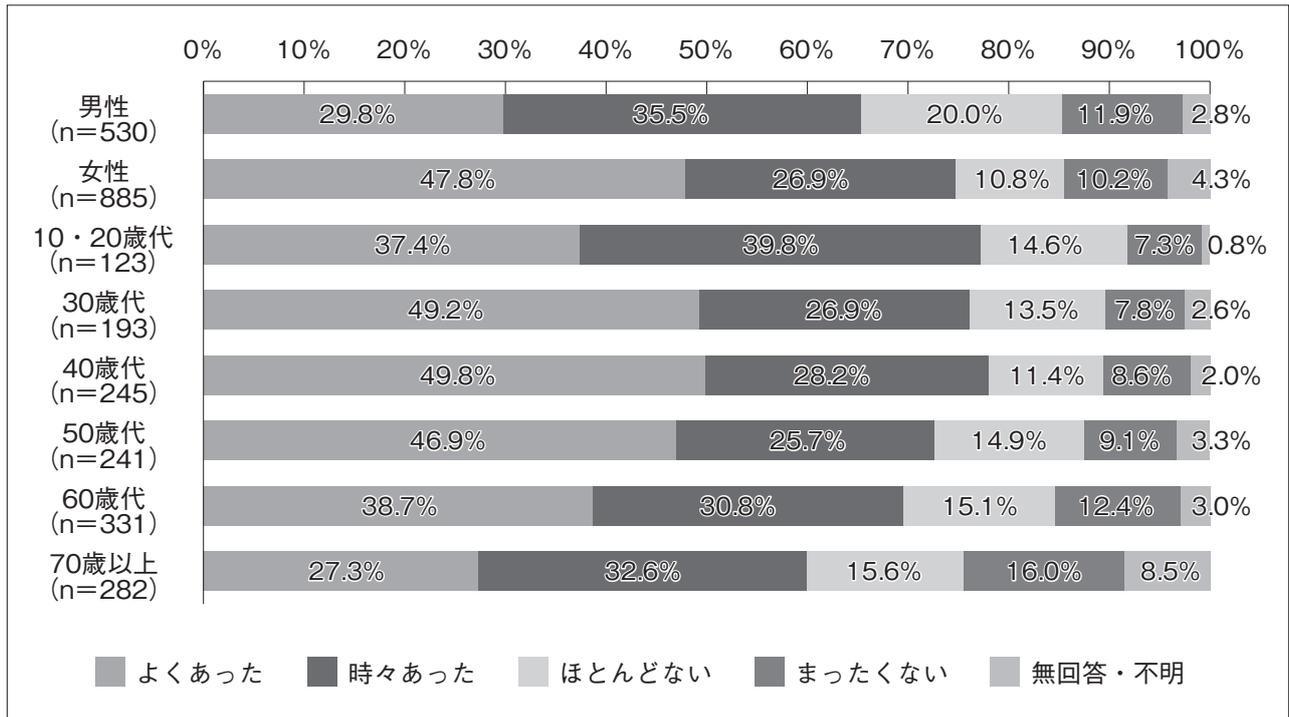
問12 あなたは、これまでの生活の中で、次の①～⑤の方とふれあうこと（一緒に働いたり、活動したり、交流会に参加したりすること）がありましたか。（○はそれぞれ1つ）

表2-8

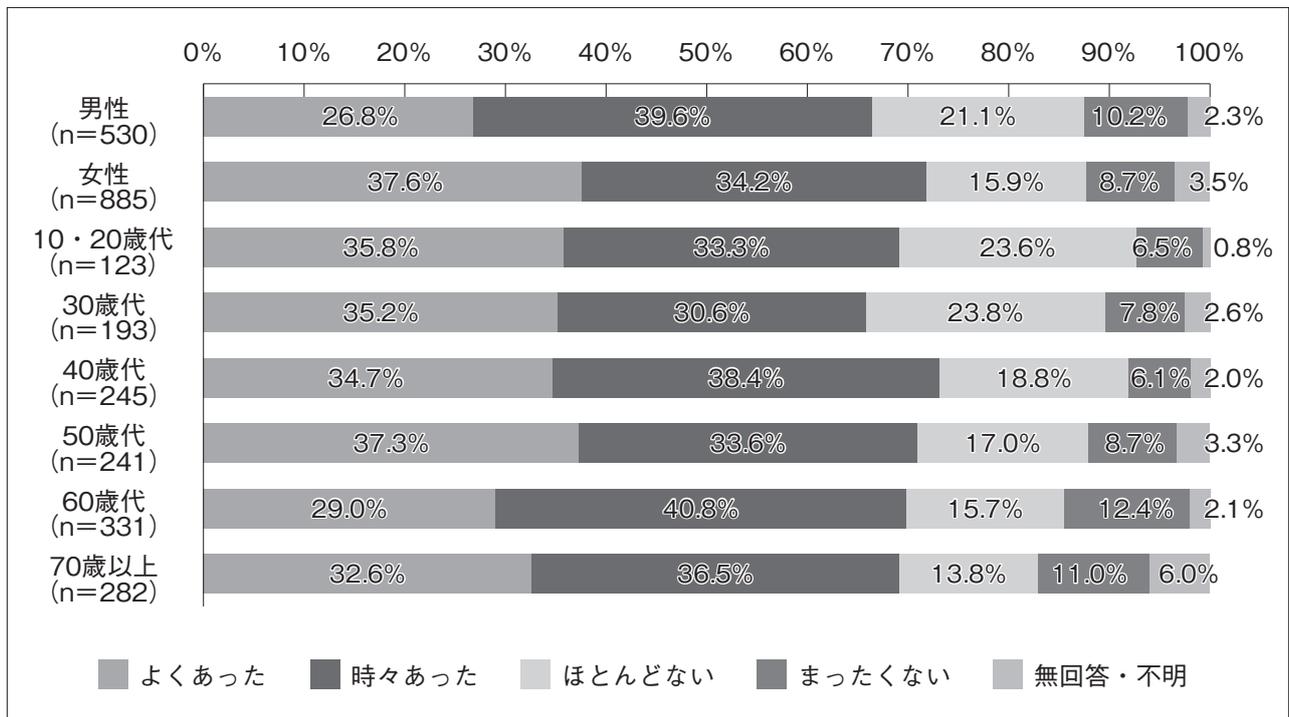
	回答者数	よくあった	時々あった	ほとんどない	まったくない	無回答・不明
①子ども	1,415 100.0% (100.0)	581 41.1% (33.9)	426 30.1% (29.2)	202 14.3% (17.1)	153 10.8% (12.3)	53 3.7% (7.6)
②高齢者	1,415 100.0% (100.0)	475 33.6% (32.0)	513 36.3% (31.8)	253 17.9% (17.8)	131 9.3% (12.0)	43 3.0% (6.5)
③障がい者	1,415 100.0% (100.0)	199 14.1% (14.4)	380 26.9% (21.3)	415 29.3% (29.7)	351 24.8% (25.6)	70 4.9% (9.0)
④同和地区出身者	1,415 100.0% (100.0)	51 3.6% (2.4)	115 8.1% (6.5)	402 28.4% (24.9)	714 50.5% (51.3)	133 9.4% (14.9)
⑤外国人	1,415 100.0% (100.0)	93 6.6% (5.4)	269 19.0% (13.9)	399 28.2% (26.0)	575 40.6% (43.7)	79 5.6% (10.9)



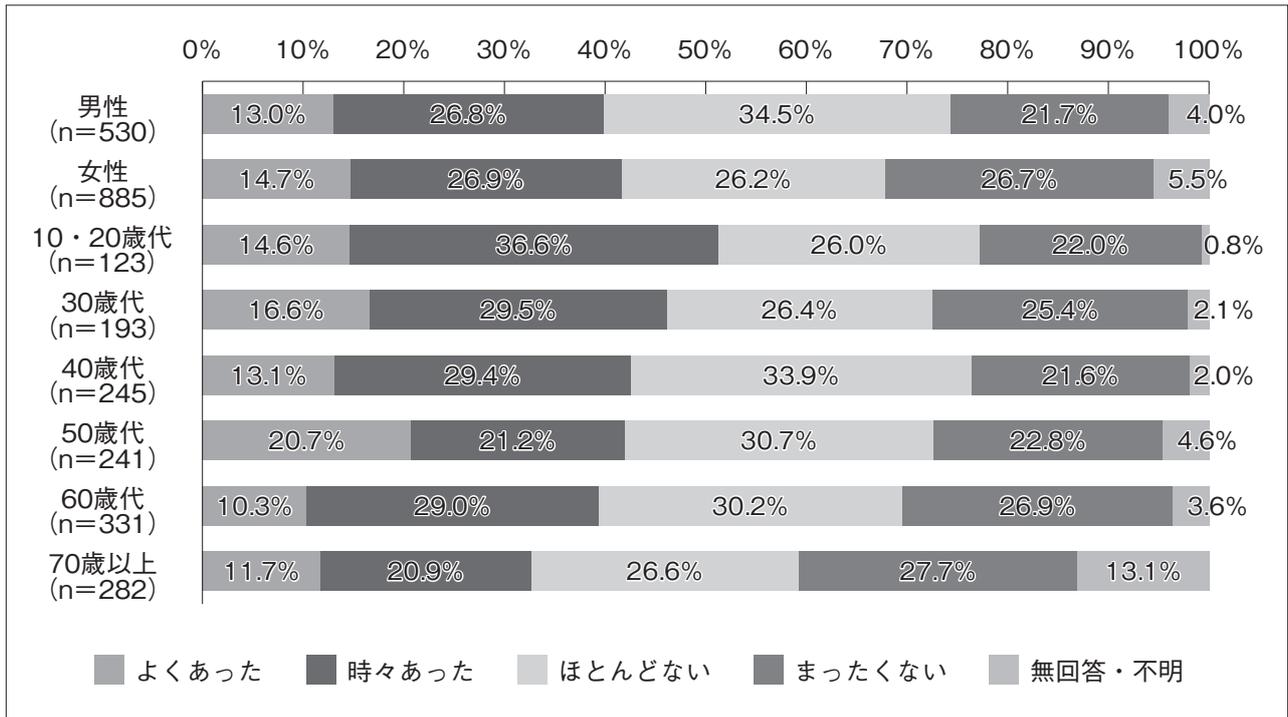
①子ども



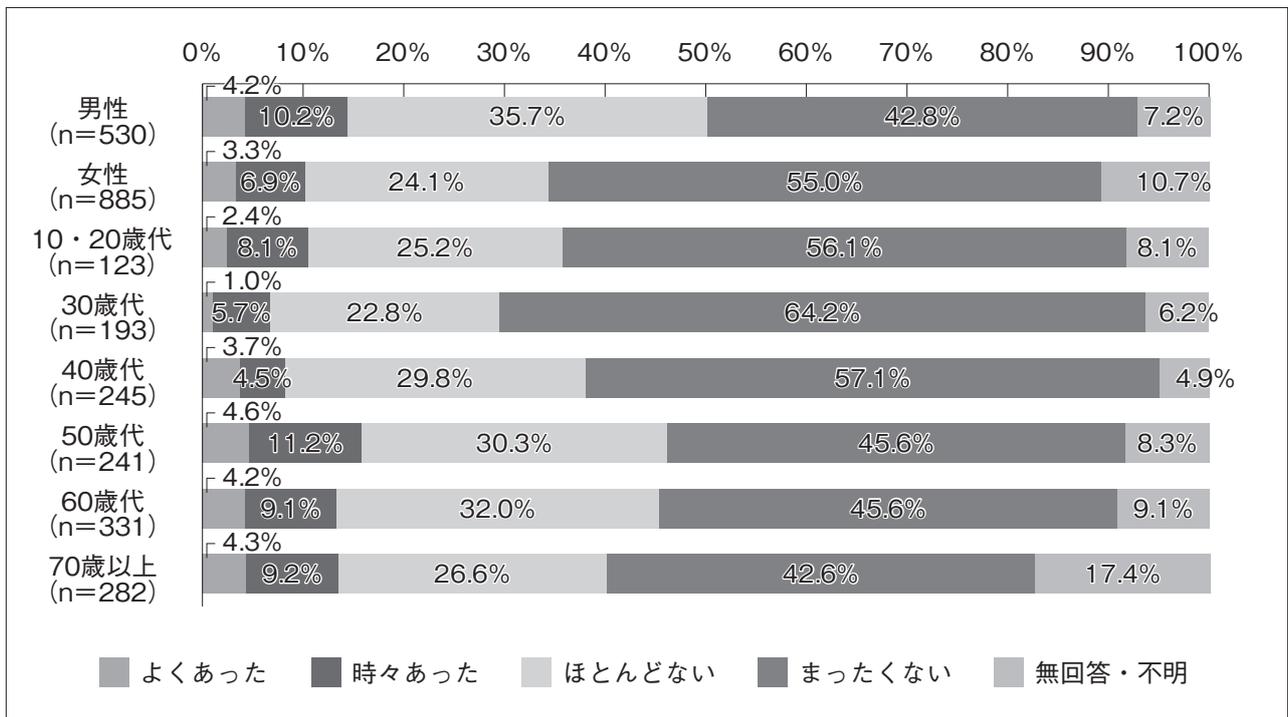
②高齢者



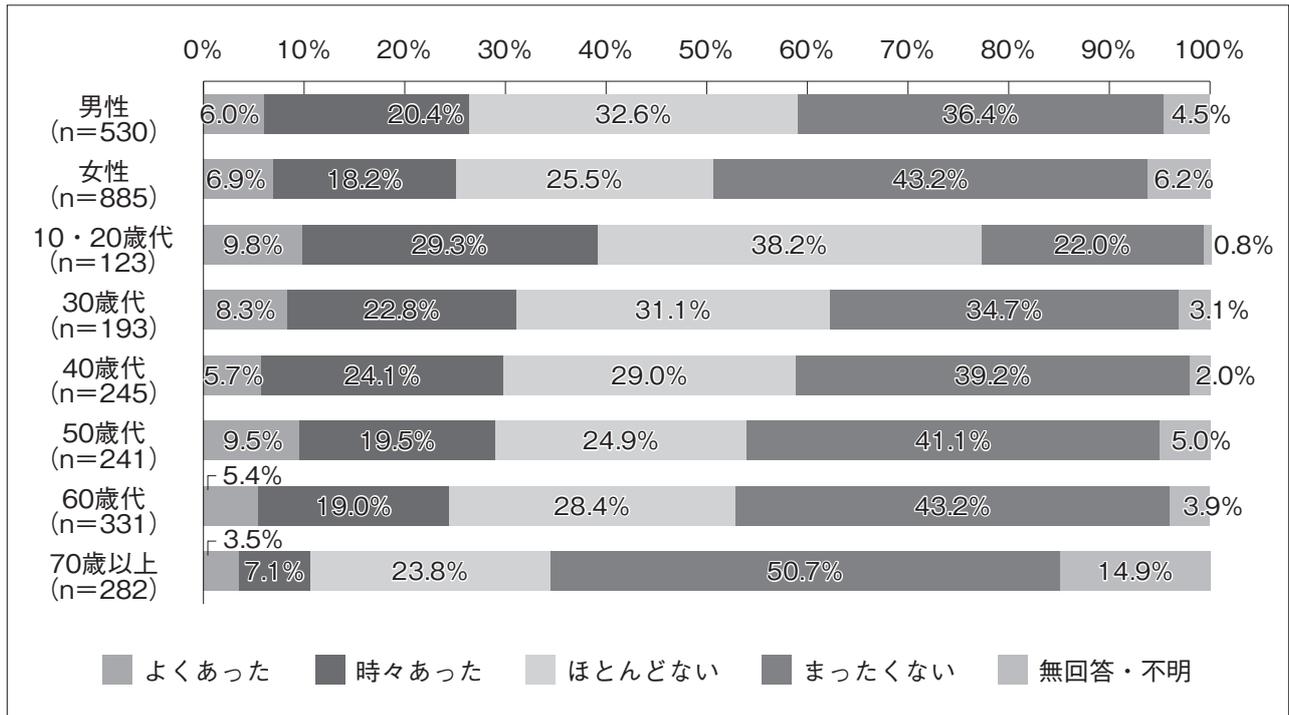
③障がい者



④同和地区出身者



⑤外国人



全体的に、「子ども」「高齢者」「障がい者」「同和地区出身者」「外国人」のどの人々にも、ふれあいが「よくあった」「時々あった」と答えた人の比率を合計した数値が高まっています。全般的傾向としては、大分市の場合、人とのふれあいは、深まり広がっているように思われます。

子どもとのふれあいは、30歳代から50歳代まで幅広く、全体で71.2%の市民が経験しています。高齢者とのふれあいは、性別や年代にほとんど無関係に行われています。障がい者とのふれあいは、70歳以上で少し低下しますが、他の年代や性別では大きな差はありません。同和地区出身者とのふれあいは、女性より男性の方が、若い年代よりも50歳代、60歳代の方がふれあいの機会が多いことがわかります。職場が一緒になった、付きあっているうちに親しくなったなど、加齢に伴う職場の人間関係の変化とその受け止め方が影響しているように思われます。外国人とのふれあいは、若い年代ほど高く、加齢とともに低下します。70歳以上になると、外国人とのふれあいは、急速に低下しますが、離職や社会参加から少しずつ遠のくことが背景になっている可能性があります。

第2節 人権・同和問題に関する学習成果

前節で人権学習に対する関心の有無が学習経験と関連していることを指摘しましたが、おおむね、学習は前回調査よりも前向きに取り組まれているように思われます。では、それは、一定の「成果」ないし「効果」を挙げているのでしょうか。

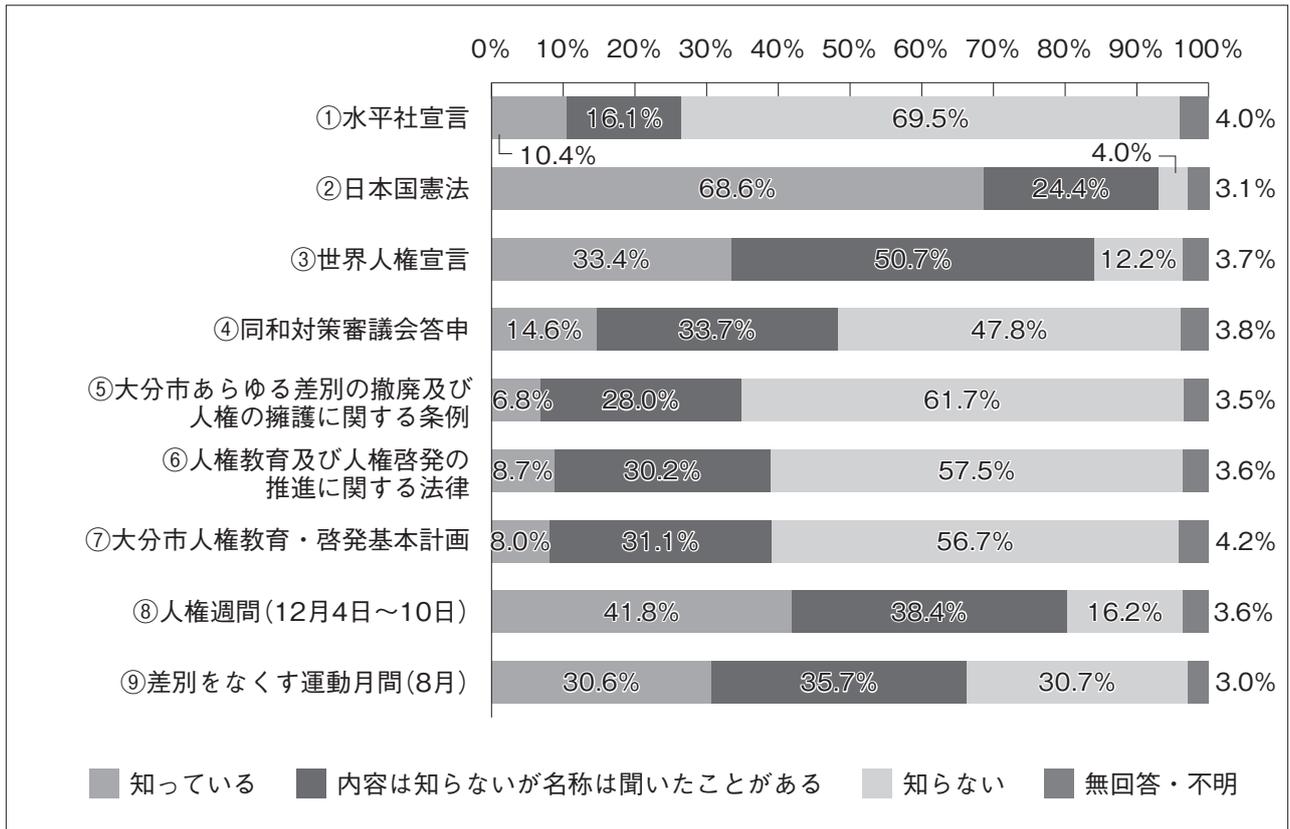
1 人権に関する宣言や法令の認識状況

まず、「水平社宣言」「世界人権宣言」「日本国憲法」などの認識状況に対する回答を、表2-9から見ていきましょう。

問5 あなたは、次の人権に関する宣言や法令等についてご存じですか。次にあげる①～⑨のすべてについてお答えください。(○はそれぞれ1つ)

表2-9

	合計	知っている	内容は知らないが名称は聞いたことがある	知らない	無回答・不明
①水平社宣言	1,415 100.0% (100.0)	147 10.4% (8.9)	228 16.1% (18.1)	984 69.5% (67.8)	56 4.0% (5.1)
②日本国憲法	1,415 100.0% (100.0)	970 68.6% (69.9)	345 24.4% (24.9)	56 4.0% (2.8)	44 3.1% (2.4)
③世界人権宣言	1,415 100.0% (100.0)	472 33.4% (35.4)	717 50.7% (46.8)	173 12.2% (13.5)	53 3.7% (4.2)
④同和対策審議会答申	1,415 100.0% (100.0)	207 14.6% (14.6)	477 33.7% (33.7)	677 47.8% (47.8)	54 3.8% (3.8)
⑤大分市あらゆる差別の撤廃及び人権の擁護に関する条例	1,415 100.0% (100.0)	96 6.8% (8.7)	396 28.0% (30.8)	873 61.7% (56.2)	50 3.5% (4.2)
⑥人権教育及び人権啓発の推進に関する法律	1,415 100.0% (100.0)	123 8.7% (8.7)	427 30.2% (30.2)	814 57.5% (57.5)	51 3.6% (3.6)
⑦大分市人権教育・啓発基本計画	1,415 100.0% (100.0)	113 8.0% (11.5)	440 31.1% (36.1)	803 56.7% (47.7)	59 4.2% (4.7)
⑧人権週間（12月4日～10日）	1,415 100.0% (100.0)	591 41.8% (39.1)	544 38.4% (37.7)	229 16.2% (20.1)	51 3.6% (3.2)
⑨差別をなくす運動月間（8月）	1,415 100.0% (100.0)	433 30.6% (29.6)	505 35.7% (35.1)	434 30.7% (31.8)	43 3.0% (3.5)



全体的傾向は、前回調査と類似しています。「水平社宣言」や「大分市あらゆる差別の撤廃及び人権の擁護に関する条例」「大分市人権教育・啓発基本計画」などについては、十分認知されていない状況があります。人権問題の学習をする中で、人権感覚が磨かれることも多いと思われます。本市が策定した条例等についても周知する方法を検討しなければならないことをうかがわせます。

以下、概要を見ていきましょう。

2 水平社宣言について

表2-10

		回答者数	知っている	内容は知らないが名称は聞いたことがある	知らない	無回答・不明
市 全 体		1,415 100.0% (100.0)	147 10.4% (8.9)	228 16.1% (18.1)	984 69.5% (67.8)	56 4.0% (5.1)
性 別	男 性	530 100.0% (100.0)	73 13.8% (11.7)	112 21.1% (21.9)	328 61.9% (62.8)	17 3.2% (3.5)
	女 性	885 100.0% (100.0)	74 8.4% (7.0)	116 13.1% (15.5)	656 74.1% (71.4)	39 4.4% (6.2)
年 齢 別	10 歳 代	123 100.0% (100.0)	15 12.2% (10.6)	24 19.5% (23.0)	81 65.9% (65.2)	3 2.4% (1.2)
	20 歳 代	193 100.0% (100.0)	24 12.4% (7.6)	42 21.8% (21.4)	121 62.7% (69.1)	6 3.1% (1.9)
	30 歳 代	245 100.0% (100.0)	20 8.2% (10.5)	38 15.5% (15.3)	181 73.9% (73.8)	6 2.4% (0.4)
	40 歳 代	241 100.0% (100.0)	28 11.6% (10.2)	28 11.6% (16.8)	177 73.4% (69.5)	8 3.3% (3.5)
	50 歳 代	331 100.0% (100.0)	29 8.8% (5.9)	52 15.7% (18.7)	238 71.9% (69.2)	12 3.6% (6.2)
	60 歳 代	282 100.0% (100.0)	31 11.0% (9.9)	44 15.6% (15.4)	186 66.0% (60.3)	21 7.4% (14.4)
	70歳以上					

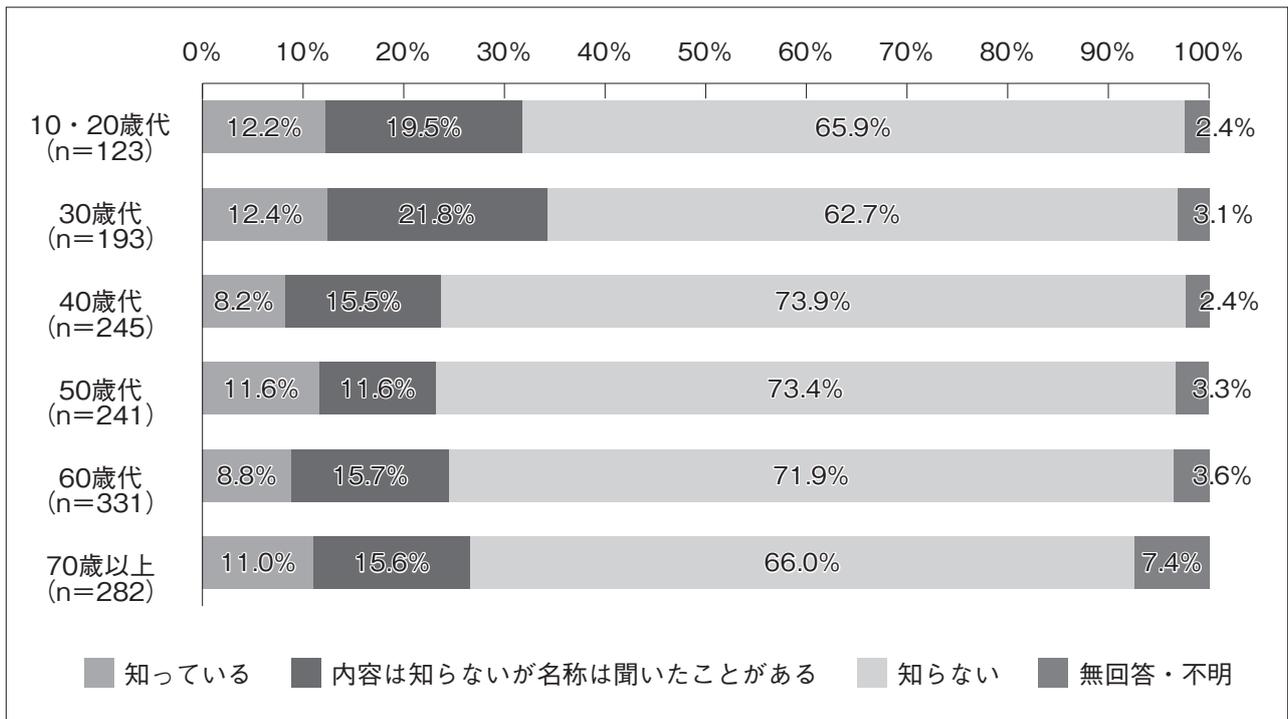


表2-10から、「知っている」と答えた人は全体的に少ないですが、女性より男性の方が、50歳代、60歳代以上の年代よりも、若い年代の方が知っている人が多いことがわかります。社会教育の場で取り上げられる機会が少ない内容であることは考えられますが、学校で学んだという記憶を若い人たちが、思い出している側面がうかがわれることから、継続的にライフステージに応じて、学習できる環境づくりが必要だと思われます。

3 日本国憲法について

表2-11

		回答者数	知っている	内容は知らないが名称は聞いたことがある	知らない	無回答・不明
市 全 体		1,415 100.0% (100.0)	970 68.6% (69.9)	345 24.4% (24.9)	56 4.0% (2.8)	44 3.1% (2.4)
性 別	男 性	530 100.0% (100.0)	379 71.5% (74.7)	119 22.5% (20.5)	20 3.8% (2.9)	12 2.3% (1.9)
	女 性	885 100.0% (100.0)	591 66.8% (66.6)	226 25.5% (27.9)	36 4.1% (2.7)	32 3.6% (2.8)
年 齢 別	10 歳 代	123 100.0% (100.0)	81 65.9% (68.9)	37 30.1% (28.0)	2 1.6% (2.5)	3 2.4% (0.6)
	20 歳 代	193 100.0% (100.0)	148 76.7% (71.4)	37 19.2% (26.0)	4 2.1% (1.9)	4 2.1% (0.8)
	30 歳 代	245 100.0% (100.0)	177 72.2% (77.7)	57 23.3% (18.3)	10 4.1% (3.5)	1 0.4% (0.4)
	40 歳 代	241 100.0% (100.0)	174 72.2% (74.0)	52 21.6% (24.1)	7 2.9% (0.6)	8 3.3% (1.3)
	50 歳 代	331 100.0% (100.0)	216 65.3% (67.9)	92 27.8% (26.8)	13 3.9% (1.6)	10 3.0% (3.7)
	60 歳 代	282 100.0% (100.0)	174 61.7% (61.0)	70 24.8% (26.0)	20 7.1% (6.8)	18 6.4% (6.2)
	70歳以上					

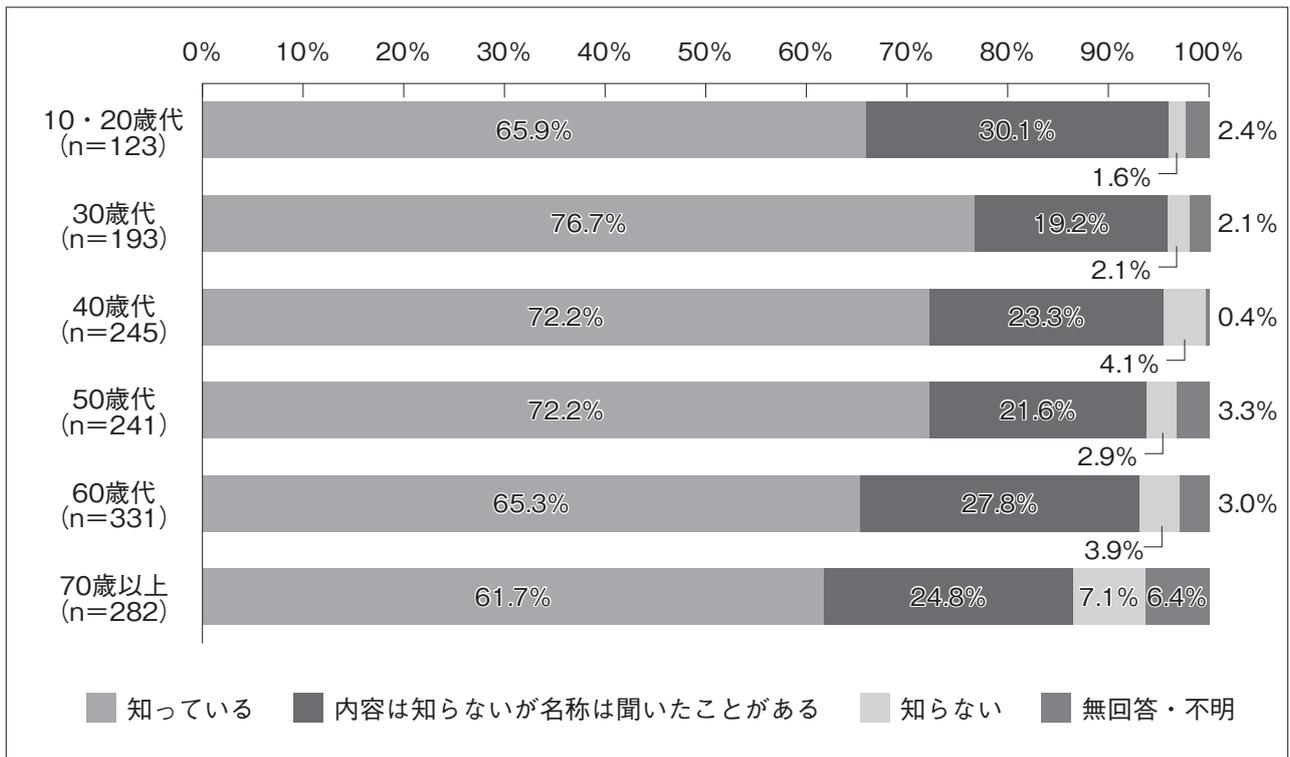


表2-11に見るように、多くの方が「知っている」と回答しています。前回調査では「知っている」と答えた人の比率は、40歳代で最も高く、加齢に伴って少しずつ比率の低下が見られましたが、今回調査では、30歳代で最も高くなっています。30歳代だけで見ると5.3ポイント上がっています。

4 世界人権宣言について

表2-12

		回答者数	知っている	内容は知らないが名称は聞いたことがある	知らない	無回答・不明
市 全 体		1,415 100.0% (100.0)	472 33.4% (35.4)	717 50.7% (46.8)	173 12.2% (13.5)	53 3.7% (4.2)
性 別	男 性	530 100.0% (100.0)	186 35.1% (38.4)	266 50.2% (45.8)	61 11.5% (11.9)	17 3.2% (3.9)
	女 性	885 100.0% (100.0)	286 32.3% (33.3)	451 51.0% (47.5)	112 12.7% (14.7)	36 4.1% (4.5)
年 齢 別	10 歳 代	123 100.0% (100.0)	44 35.8% (39.8)	62 50.4% (49.1)	14 11.4% (10.6)	3 2.4% (0.6)
	20 歳 代					
	30 歳 代	193 100.0% (100.0)	69 35.8% (32.8)	96 49.7% (51.9)	24 12.4% (14.1)	4 2.1% (1.1)
	40 歳 代	245 100.0% (100.0)	92 37.6% (39.7)	117 47.8% (46.3)	32 13.1% (12.7)	4 1.6% (1.3)
	50 歳 代	241 100.0% (100.0)	89 36.9% (41.3)	131 54.4% (48.3)	15 6.2% (7.3)	6 2.5% (3.2)
	60 歳 代	331 100.0% (100.0)	85 25.7% (34.9)	188 56.8% (45.8)	43 13.0% (14.3)	15 4.5% (5.0)
	70歳以上	282 100.0% (100.0)	93 33.0% (26.0)	123 43.6% (41.1)	45 16.0% (21.2)	21 7.4% (11.6)

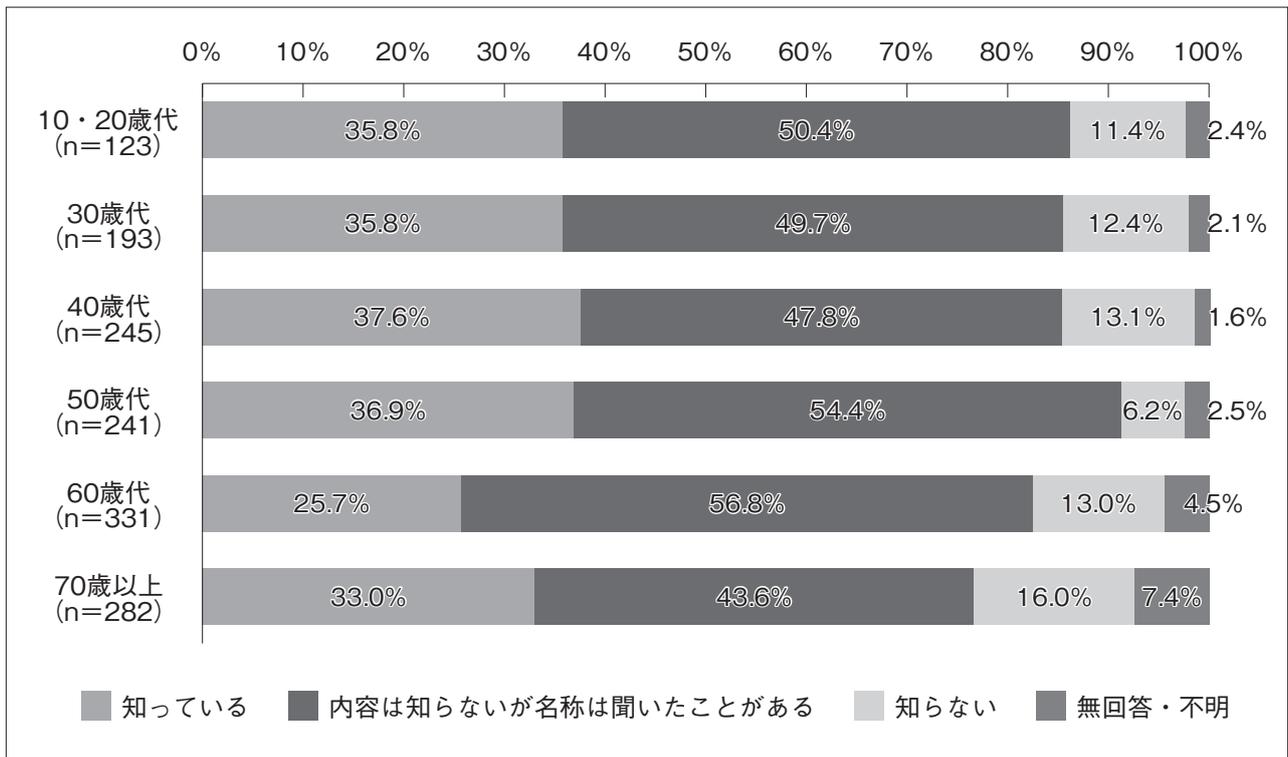


表2-12からわかるように、前回調査よりも「知っている」と答えた人の数値は、2.0ポイントほど下がっています。ただ、30歳代だけを見ると、3.0ポイント上がっており、日本国憲法と同じように、この年代の学習成果が少し目立ちます。

5 同和対策審議会答申について

表2-13

		回答者数	知っている	内容は知らないが名称は聞いたことがある	知らない	無回答・不明
市 全 体		1,415 100.0% (100.0)	207 14.6% (13.2)	477 33.7% (34.7)	677 47.8% (47.6)	54 3.8% (4.5)
性 別	男 性	530 100.0% (100.0)	92 17.4% (15.7)	191 36.0% (33.3)	230 43.4% (47.4)	17 3.2% (3.5)
	女 性	885 100.0% (100.0)	115 13.0% (11.5)	286 32.3% (35.6)	447 50.5% (47.7)	37 4.2% (5.2)
年 齢 別	10 歳 代	123 100.0% (100.0)	3 2.4% (3.1)	24 19.5% (21.1)	92 74.8% (74.5)	4 3.3% (1.2)
	20 歳 代					
	30 歳 代	193 100.0% (100.0)	13 6.7% (6.5)	52 26.9% (23.3)	122 63.2% (68.3)	6 3.1% (1.9)
	40 歳 代	245 100.0% (100.0)	19 7.8% (10.5)	64 26.1% (27.9)	158 64.5% (60.7)	4 1.6% (0.9)
	50 歳 代	241 100.0% (100.0)	42 17.4% (14.3)	89 36.9% (42.2)	101 41.9% (40.0)	9 3.7% (3.5)
	60 歳 代	331 100.0% (100.0)	65 19.6% (18.7)	134 40.5% (42.7)	122 36.9% (33.6)	10 3.0% (5.0)
	70歳以上	282 100.0% (100.0)	65 23.0% (19.9)	114 40.4% (40.8)	82 29.1% (27.4)	21 7.4% (12.0)

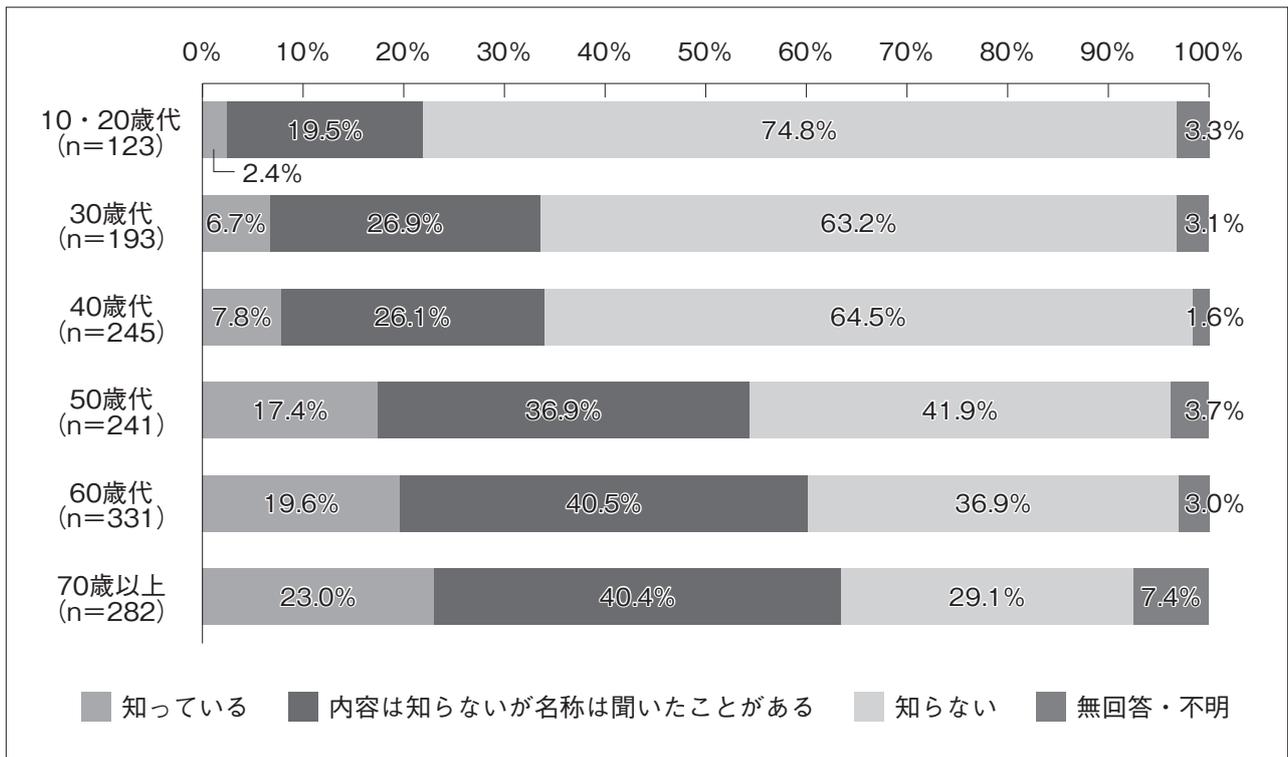


表2-13に見るように、この答申について「知っている」と答えた人の比率は、他の項目と異なり、加齢とともに高まっていることがわかります。これは、社会教育の場で学ぶことが多いことを示す数値かもしれません。社会人として職場や地域生活で近隣の住民と交流したり協力したりする経験を重ねた方が、答申内容などに関心を高くする側面がうかがえます。

6 大分市あらゆる差別の撤廃及び人権の擁護に関する条例について

表2-14

		回答者数	知っている	内容は知らないが名称は聞いたことがある	知らない	無回答・不明
市 全 体		1,415 100.0% (100.0)	96 6.8% (8.7)	396 28.0% (30.8)	873 61.7% (56.2)	50 3.5% (4.2)
性 別	男 性	530 100.0% (100.0)	47 8.9% (9.3)	151 28.5% (31.3)	318 60.0% (56.2)	14 2.6% (3.2)
	女 性	885 100.0% (100.0)	49 5.5% (8.4)	245 27.7% (30.5)	555 62.7% (56.2)	36 4.1% (4.9)
年 齢 別	10 歳 代	123 100.0% (100.0)	3 2.4% (2.5)	19 15.4% (18.0)	98 79.7% (78.9)	3 2.4% (0.6)
	20 歳 代	193 100.0% (100.0)	8 4.1% (4.6)	43 22.3% (19.8)	137 71.0% (74.4)	5 2.6% (1.1)
	30 歳 代	245 100.0% (100.0)	7 2.9% (5.7)	45 18.4% (26.2)	190 77.6% (67.7)	3 1.2% (0.4)
	40 歳 代	241 100.0% (100.0)	15 6.2% (10.8)	69 28.6% (37.1)	149 61.8% (49.5)	8 3.3% (2.5)
	50 歳 代	331 100.0% (100.0)	27 8.2% (11.5)	111 33.5% (41.7)	181 54.7% (41.7)	12 3.6% (5.0)
	60 歳 代	282 100.0% (100.0)	36 12.8% (13.0)	109 38.7% (32.5)	118 41.8% (41.4)	19 6.7% (13.0)
	70歳以上					

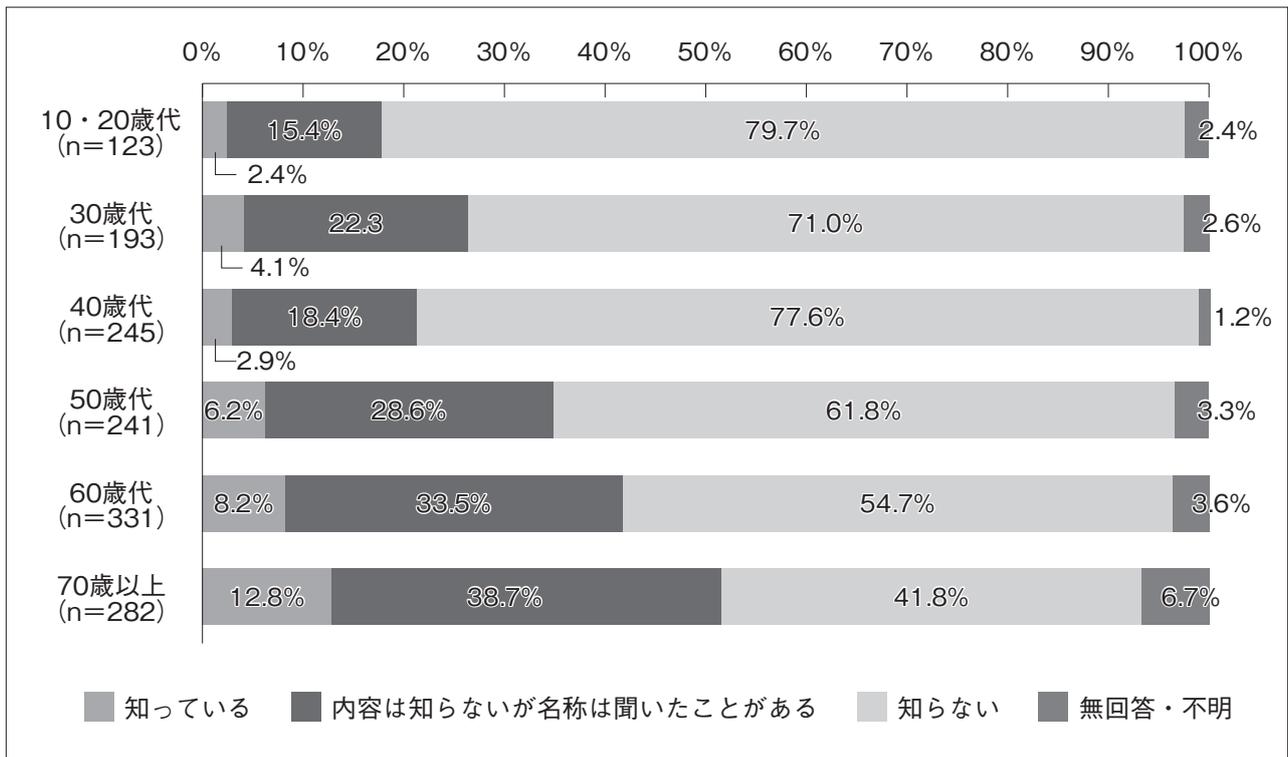


表2-14に見るとおり、全体としては、前回調査よりも「知っている」と答えた人の比率は、低くなっています。条例などの場合、特に問題がなければ通常は忘れられたようになる場合が多いですが、社会教育の場面で、こうした条例が制定されていることについて、折に触れて指摘し啓発する必要があるように思われます。

7 人権教育及び人権啓発の推進に関する法律について

※この設問は前回調査にはありません。

表2-15

		回答者数	知っている	内容は知らないが名称は聞いたことがある	知らない	無回答・不明
市 全 体		1,415 100.0%	123 8.7%	427 30.2%	814 57.5%	51 3.6%
性 別	男 性	530 100.0%	50 9.4%	159 30.0%	305 57.5%	16 3.0%
	女 性	885 100.0%	73 8.2%	268 30.3%	509 57.5%	35 4.0%
年 齢 別	10 歳 代	123 100.0%	5 4.1%	29 23.6%	84 68.3%	5 4.1%
	20 歳 代					
	30 歳 代	193 100.0%	12 6.2%	51 26.4%	125 64.8%	5 2.6%
	40 歳 代	245 100.0%	12 4.9%	48 19.6%	180 73.5%	5 2.0%
	50 歳 代	241 100.0%	25 10.4%	74 30.7%	135 56.0%	7 2.9%
	60 歳 代	331 100.0%	26 7.9%	122 36.9%	173 52.3%	10 3.0%
	70歳以上	282 100.0%	43 15.2%	103 36.5%	117 41.5%	19 6.7%

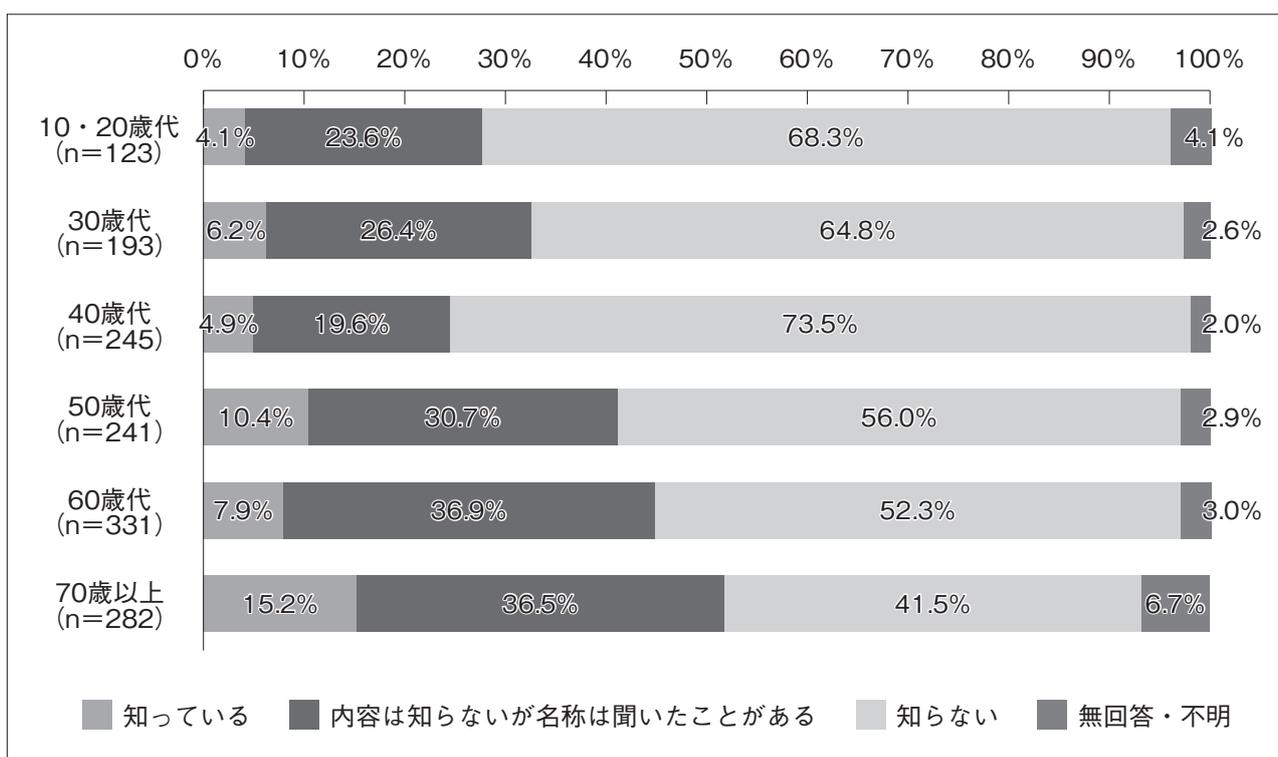


表2-15に見るように、これは、まだ十分知られていないように思われます。年齢別では、おおむね年代が高まるに連れて「知っている」と答えた人が、微増傾向にあるといえます。「経済先進国」だけでなく「人権文化先進国」にもカウントされる日本をめざそうとする場合、人権・同和教育や啓発の実効力を上げる必要があります。

8 大分市人権教育・啓発基本計画について

表2-16

		回答者数	知っている	内容は知らないが名称は聞いたことがある	知らない	無回答・不明
市 全 体		1,415 100.0% (100.0)	113 8.0% (11.5)	440 31.1% (36.1)	803 56.7% (47.7)	59 4.2% (4.7)
性 別	男 性	530 100.0% (100.0)	47 8.9% (11.1)	146 27.5% (34.9)	321 60.6% (49.8)	16 3.0% (4.2)
	女 性	885 100.0% (100.0)	66 7.5% (11.8)	294 33.2% (36.9)	482 54.5% (46.1)	43 4.9% (5.2)
年 齢 別	10 歳 代	123 100.0% (100.0)	6 4.9% (3.1)	25 20.3% (28.0)	86 69.9% (67.7)	6 4.9% (1.2)
	20 歳 代					
	30 歳 代	193 100.0% (100.0)	10 5.2% (6.5)	52 26.9% (35.5)	124 64.2% (56.9)	7 3.6% (1.1)
	40 歳 代	245 100.0% (100.0)	13 5.3% (11.4)	62 25.3% (31.4)	164 66.9% (56.3)	6 2.4% (0.9)
	50 歳 代	241 100.0% (100.0)	14 5.8% (15.2)	91 37.8% (36.8)	129 53.5% (44.8)	7 2.9% (3.2)
	60 歳 代	331 100.0% (100.0)	27 8.2% (14.6)	113 34.1% (42.7)	180 54.4% (36.8)	11 3.3% (5.9)
	70歳以上	282 100.0% (100.0)	43 15.2% (13.4)	97 34.4% (36.6)	120 42.6% (36.6)	22 7.8% (13.4)

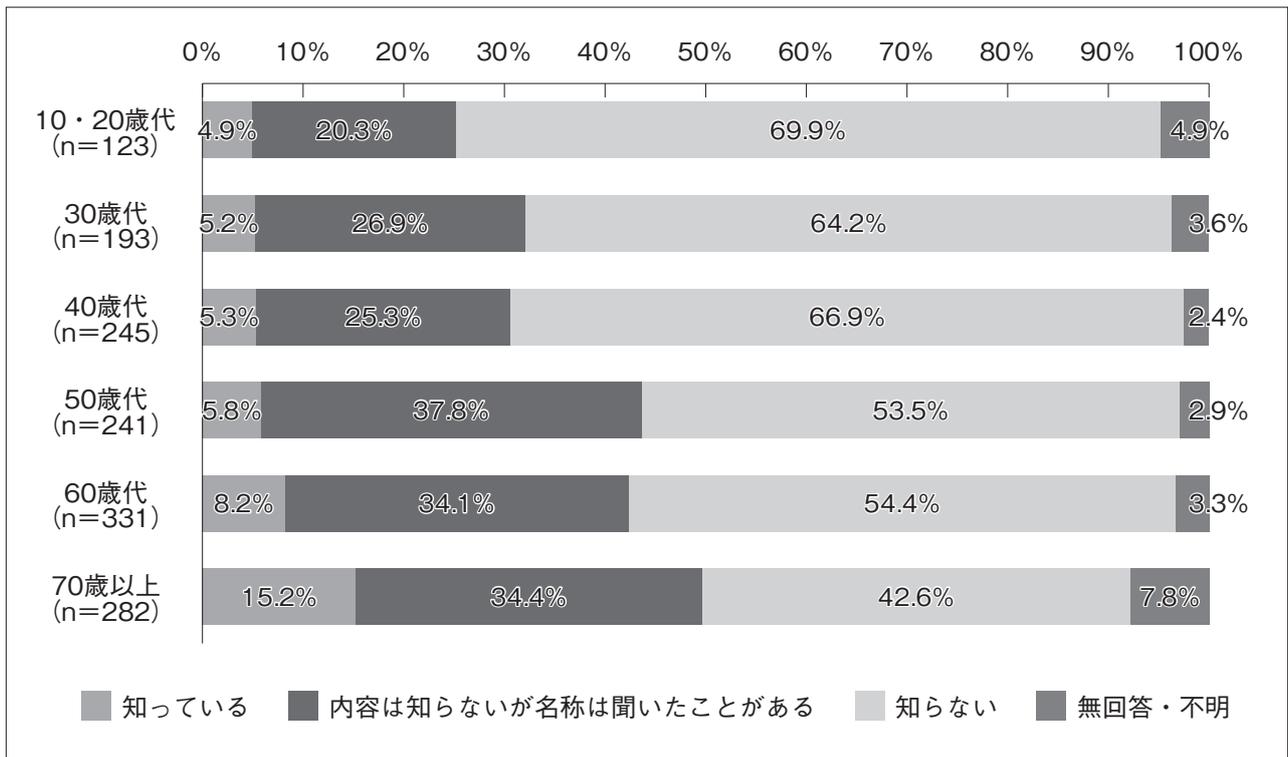


表2-16に見られるように、この計画を「知っている」と答えた人の数はとても少なく、全体で8.0%となっています。ただ、70歳以上の高齢期の人たちには、前回調査よりも1.8ポイントの上昇が見られます。

9 人権週間（12月4日～10日）について

表2-17

		回答者数	知っている	内容は知らないが名称は聞いたことがある	知らない	無回答・不明
市 全 体		1,415 100.0% (100.0)	591 41.8% (39.1)	544 38.4% (37.7)	229 16.2% (20.1)	51 3.6% (3.2)
性 別	男 性	530 100.0% (100.0)	222 41.9% (36.1)	191 36.0% (37.2)	101 19.1% (24.1)	16 3.0% (2.6)
	女 性	885 100.0% (100.0)	369 41.7% (41.1)	353 39.9% (38.0)	128 14.5% (17.3)	35 4.0% (3.6)
年 齢 別	10 歳 代	123 100.0% (100.0)	45 36.6% (32.3)	45 36.6% (47.2)	30 24.4% (20.5)	3 2.4% (0.0)
	20 歳 代					
	30 歳 代	193 100.0% (100.0)	74 38.3% (40.5)	95 49.2% (43.9)	19 9.8% (14.5)	5 2.6% (1.1)
	40 歳 代	245 100.0% (100.0)	112 45.7% (45.9)	99 40.4% (38.4)	33 13.5% (15.3)	1 0.4% (0.4)
	50 歳 代	241 100.0% (100.0)	110 45.6% (46.0)	95 39.4% (33.0)	25 10.4% (19.0)	11 4.6% (1.9)
	60 歳 代	331 100.0% (100.0)	142 42.9% (34.9)	121 36.6% (38.0)	60 18.1% (24.6)	8 2.4% (2.5)
	70歳以上	282 100.0% (100.0)	108 38.3% (33.2)	89 31.6% (30.8)	62 22.0% (24.7)	23 8.2% (11.3)

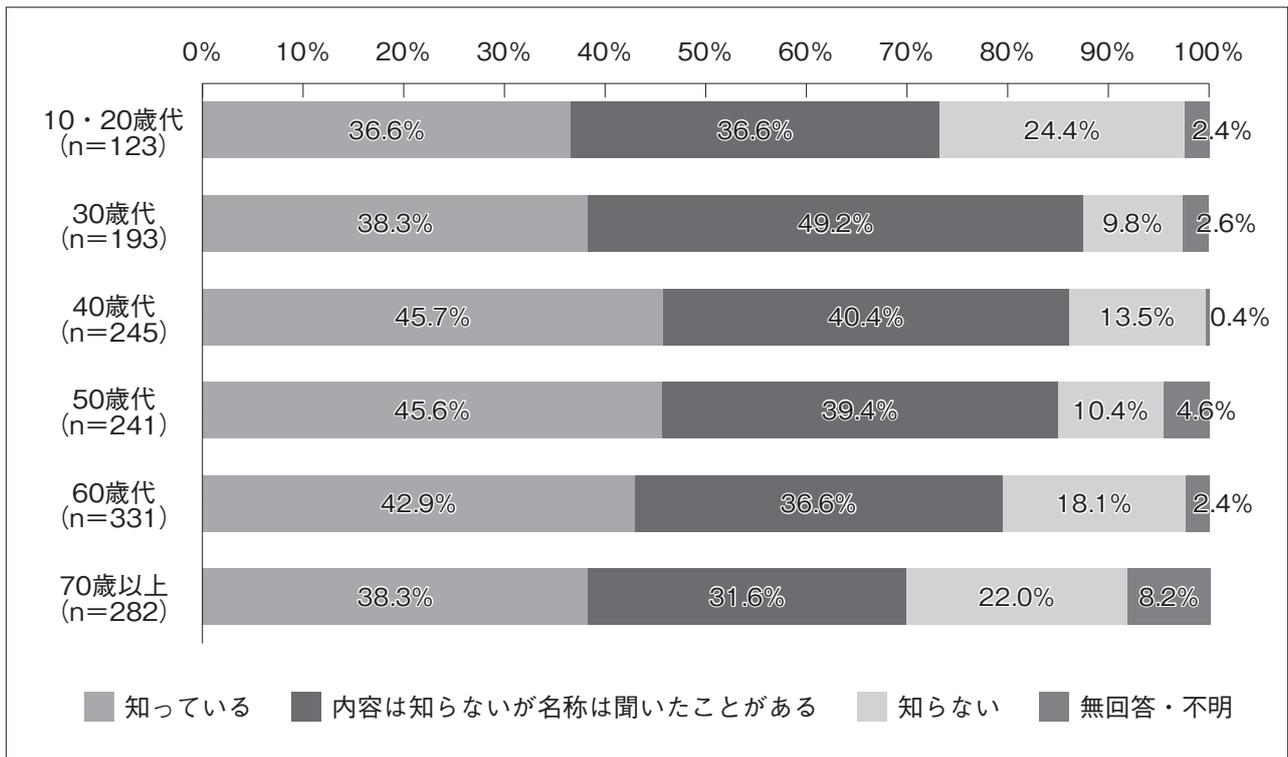


表2-17に見られるように、人権週間については、相応に認知されているように思われます。全体で2.7ポイントの上昇があったほか、前回調査では十分には認知されていなかった10歳代・20歳代の認知も4.3ポイント高まった点が目立ちます。課題は、これを契機に人権意識の内実を高めることにあります。

10 差別をなくす運動月間（8月）について

表2-18

		回答者数	知っている	内容は知らないが名称は聞いたことがある	知らない	無回答・不明
市 全 体		1,415 100.0% (100.0)	433 30.6% (29.6)	505 35.7% (35.1)	434 30.7% (31.8)	43 3.0% (3.5)
性 別	男 性	530 100.0% (100.0)	158 29.8% (26.7)	175 33.0% (33.0)	181 34.2% (37.3)	16 3.0% (2.9)
	女 性	885 100.0% (100.0)	275 31.1% (31.5)	330 37.3% (36.6)	253 28.6% (28.0)	27 3.1% (3.9)
年 齢 別	10 歳 代	123 100.0% (100.0)	30 24.4% (14.9)	36 29.3% (41.6)	53 43.1% (42.9)	4 3.3% (0.6)
	20 歳 代					
	30 歳 代	193 100.0% (100.0)	49 25.4% (27.5)	84 43.5% (37.8)	56 29.0% (33.6)	4 2.1% (1.1)
	40 歳 代	245 100.0% (100.0)	79 32.2% (30.6)	84 34.3% (38.4)	78 31.8% (30.6)	4 1.6% (0.4)
	50 歳 代	241 100.0% (100.0)	69 28.6% (32.4)	90 37.3% (33.7)	73 30.3% (31.4)	9 3.7% (2.5)
	60 歳 代	331 100.0% (100.0)	103 31.1% (31.8)	120 36.3% (35.5)	101 30.5% (29.3)	7 2.1% (3.4)
	70歳以上	282 100.0% (100.0)	103 36.5% (33.2)	91 32.3% (27.7)	73 25.9% (28.4)	15 5.3% (10.6)

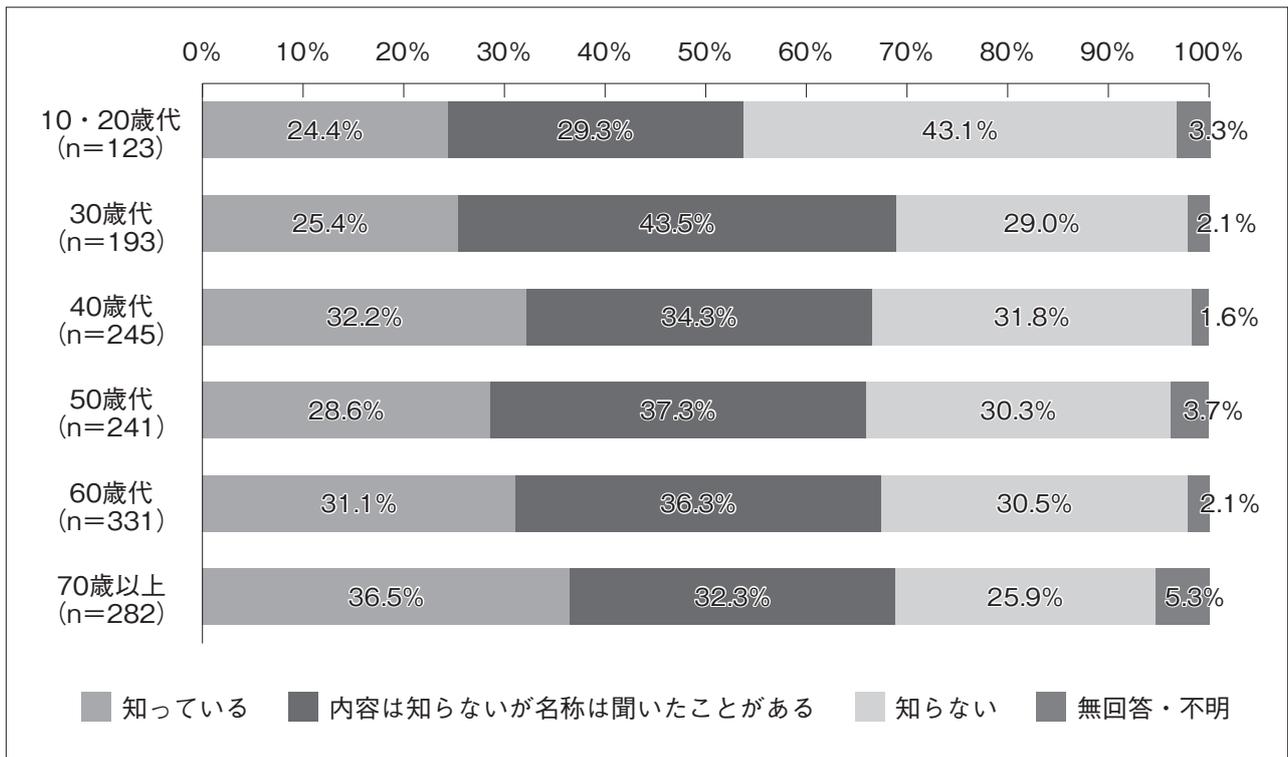


表2-18に見られるように、全体的傾向は、前回調査とほぼ同様です。ただ、顕著なのは、10歳代・20歳代で認知度が急激に高くなってきた点です。9.5ポイントの上昇が見られます。学校教育の影響が大きな要因と思われます。

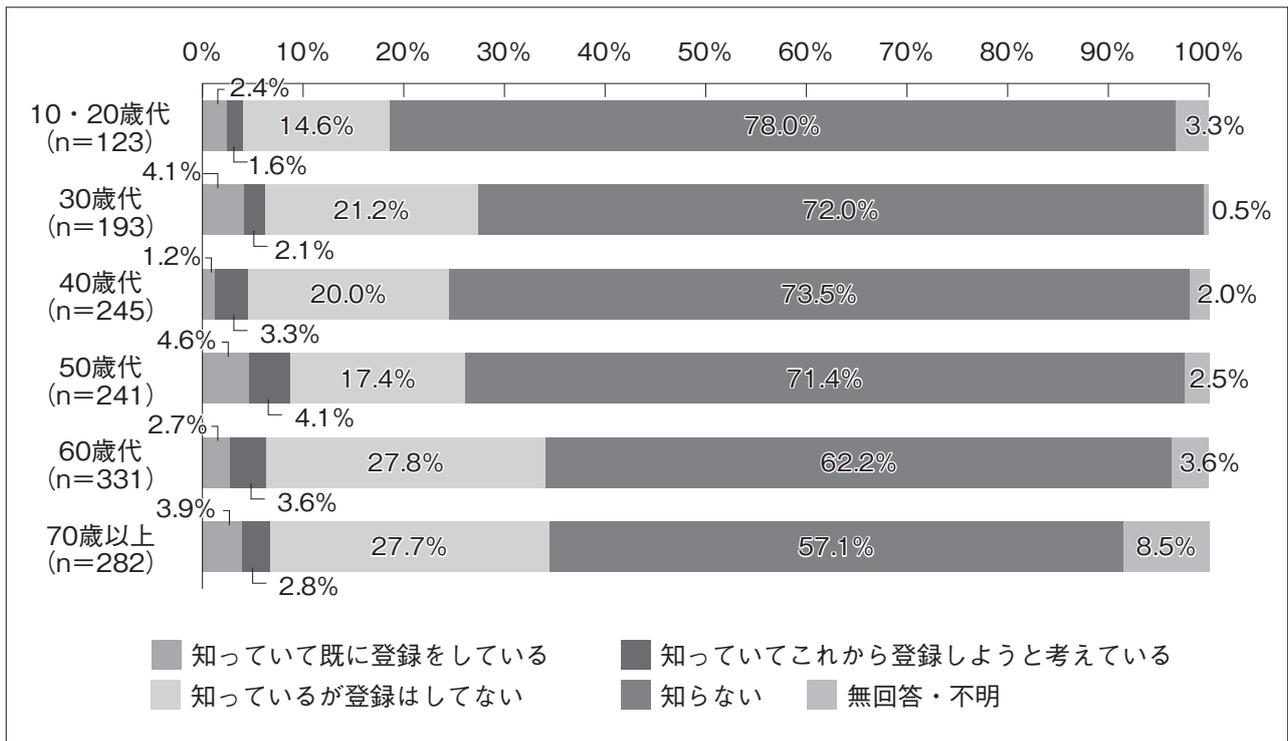
11 「本人通知制度」について

問 29 あなたは、平成 24 年度（2012 年度）から大分市で始まった「本人通知制度」をご存じですか。（○は 1 つだけ）

※この設問は前回調査にはありません。

表 2-19

		回答者数	知っていて 既に登録を している	知っていて これから登 録しようと 考えている	知っている が登録はし てない	知らない	無回答・不明
市 全 体		1,415 100.0%	45 3.2%	44 3.1%	320 22.6%	954 67.4%	52 3.7%
性 別	男 性	530 100.0%	22 4.2%	17 3.2%	121 22.8%	356 67.2%	14 2.6%
	女 性	885 100.0%	23 2.6%	27 3.1%	199 22.5%	598 67.6%	38 4.3%
年 齢 別	10 歳 代	123 100.0%	3 2.4%	2 1.6%	18 14.6%	96 78.0%	4 3.3%
	20 歳 代						
	30 歳 代	193 100.0%	8 4.1%	4 2.1%	41 21.2%	139 72.0%	1 0.5%
	40 歳 代	245 100.0%	3 1.2%	8 3.3%	49 20.0%	180 73.5%	5 2.0%
	50 歳 代	241 100.0%	11 4.6%	10 4.1%	42 17.4%	172 71.4%	6 2.5%
	60 歳 代	331 100.0%	9 2.7%	12 3.6%	92 27.8%	206 62.2%	12 3.6%
	70歳以上	282 100.0%	11 3.9%	8 2.8%	78 27.7%	161 57.1%	24 8.5%



大分市では、平成24年（2012年）10月から、本人の代理人や第三者に戸籍謄本や住民票の写しなどを交付したとき、その事実を本人に通知することにより、不正請求の早期発見や、個人情報の不正利用を防止・抑制するために、「本人通知制度」を定めました。この制度の認知状況を表2-19に探してみると、「知っていて既に登録をしている」3.2%、「知っていてこれから登録しようと考えている」3.1%、「知っているが登録はしてない」22.6%となり、67.4%の市民がまだこの制度を知らないことがわかります。個人情報の悪質な利用などから身を守る意味からも、制度の周知が必要です。

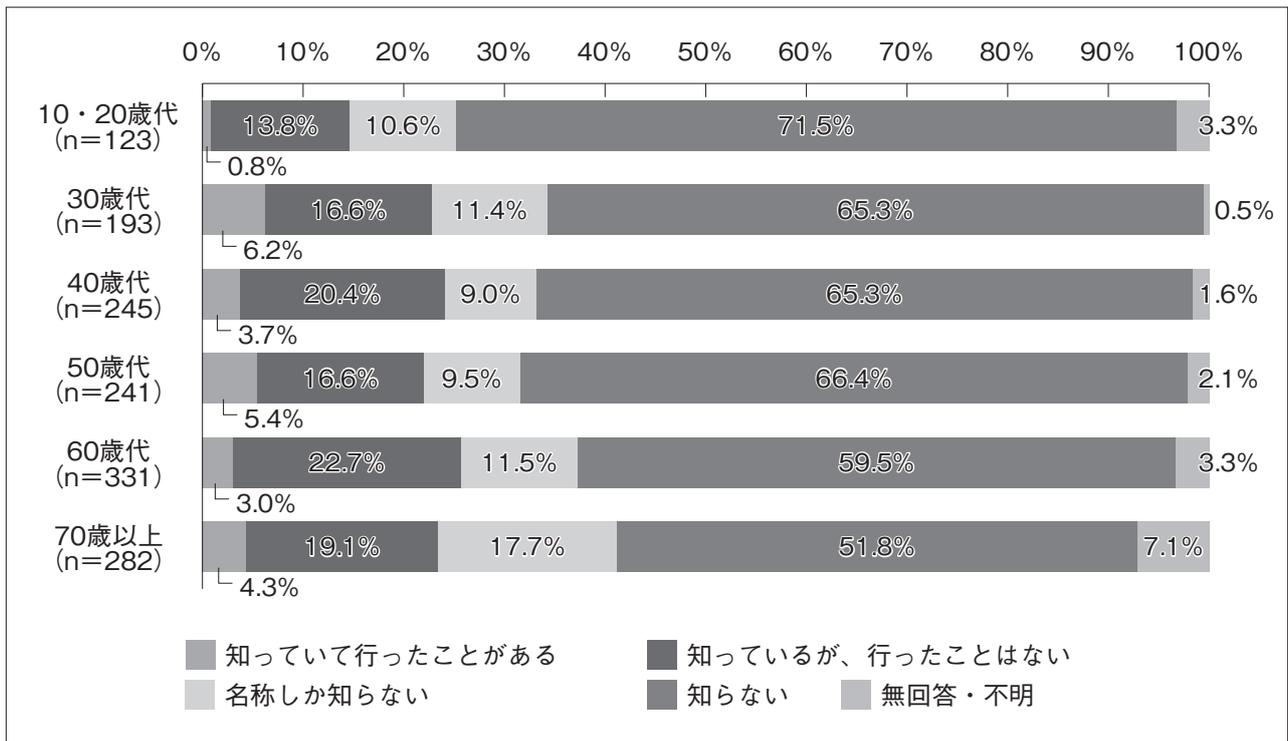
12 「人権啓発センター（ヒューレおおいた）」について

問 30 平成 25 年度（2013 年度）に開館したホルトホール大分（大分市金池南一丁目 5 番 1 号）の 1 階にある「人権啓発センター（ヒューレおおいた）」をご存じですか。（○は 1 つだけ）

※この設問は前回調査にはありません。

表 2-20

		回答者数	知っていて 行ったこと がある	知っている が、行った ことはない	名称しか 知らない	知らない	無回答・不明
市 全 体		1,415 100.0%	57 4.0%	268 18.9%	168 11.9%	877 62.0%	45 3.2%
性 別	男 性	530 100.0%	22 4.2%	104 19.6%	64 12.1%	326 61.5%	14 2.6%
	女 性	885 100.0%	35 4.0%	164 18.5%	104 11.8%	551 62.3%	31 3.5%
年 齢 別	10 歳 代	123 100.0%	1 0.8%	17 13.8%	13 10.6%	88 71.5%	4 3.3%
	20 歳 代						
	30 歳 代	193 100.0%	12 6.2%	32 16.6%	22 11.4%	126 65.3%	1 0.5%
	40 歳 代	245 100.0%	9 3.7%	50 20.4%	22 9.0%	160 65.3%	4 1.6%
	50 歳 代	241 100.0%	13 5.4%	40 16.6%	23 9.5%	160 66.4%	5 2.1%
	60 歳 代	331 100.0%	10 3.0%	75 22.7%	38 11.5%	197 59.5%	11 3.3%
	70 歳 以上	282 100.0%	12 4.3%	54 19.1%	50 17.7%	146 51.8%	20 7.1%



平成 25 年（2013 年）に開館した「ホルトホール大分」の 1 階に、人権啓発等を目的に「人権啓発センター（ヒューレおおいた）」を設置しました。このセンターの認知について見ていきましょう。

表 2 - 20 によりますと、「知っているが、行ったことはない」18.9%で、まだ十分な認知状況とはいえません。資料の展示も豊富に整備されているので、市民への今後の周知が必要です。

第3節 因習などに関する受け止め方

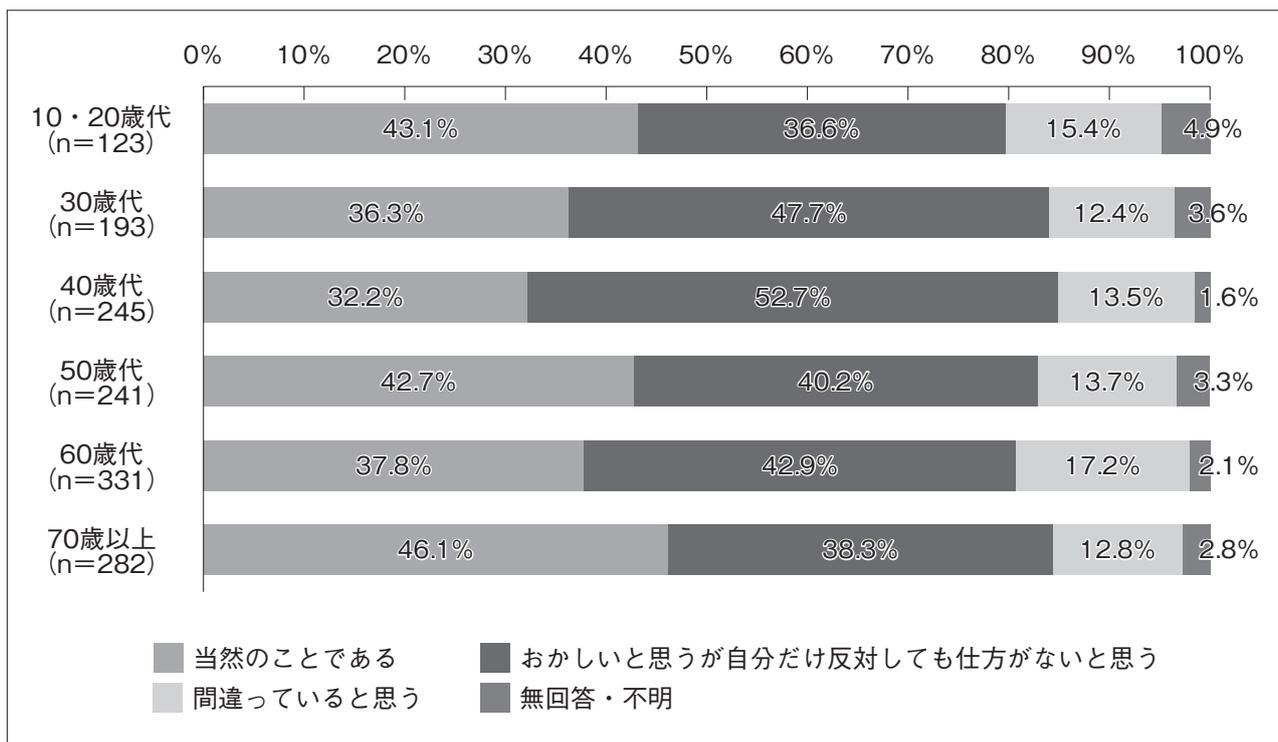
学習成果は、単に知的な学習をしたというだけでは態度や行動の変化・改善にまで至らないことが多々あります。私たちは、因習や習慣化した思考・行動などにとらわれてしまうことがあるからです。この点について探ってみましょう。

問6 日本には、様々な言い伝えや考え方がありますが、あなたの考えに、より近いのはどれですか。次にあげる①～⑤のすべてについてお答えください。(○はそれぞれ1つ)

1 結婚式を行う時の「大安」「仏滅」などについて

表2-21

		回答者数	当然のことである	おかしいと思うが自分だけ反対しても仕方がないと思う	間違っていると思う	無回答・不明
市 全 体		1,415 100.0% (100.0)	560 39.6% (46.7)	613 43.3% (40.3)	202 14.3% (10.8)	40 2.8% (2.2)
性 別	男 性	530 100.0% (100.0)	219 41.3% (44.9)	209 39.4% (41.5)	89 16.8% (11.6)	13 2.5% (2.0)
	女 性	885 100.0% (100.0)	341 38.5% (48.0)	404 45.6% (39.5)	113 12.8% (10.3)	27 3.1% (2.3)
年 齢 別	10 歳 代	123 100.0% (100.0)	53 43.1% (54.0)	45 36.6% (35.4)	19 15.4% (9.9)	6 4.9% (0.6)
	20 歳 代					
	30 歳 代	193 100.0% (100.0)	70 36.3% (47.3)	92 47.7% (45.0)	24 12.4% (6.5)	7 3.6% (1.1)
	40 歳 代	245 100.0% (100.0)	79 32.2% (42.4)	129 52.7% (44.5)	33 13.5% (12.2)	4 1.6% (0.9)
	50 歳 代	241 100.0% (100.0)	103 42.7% (39.4)	97 40.2% (42.9)	33 13.7% (15.6)	8 3.3% (2.2)
	60 歳 代	331 100.0% (100.0)	125 37.8% (47.7)	142 42.9% (40.5)	57 17.2% (10.3)	7 2.1% (1.6)
	70歳以上	282 100.0% (100.0)	130 46.1% (52.4)	108 38.3% (32.5)	36 12.8% (9.6)	8 2.8% (5.5)



前回調査と比較しながら表2-21を見ていきましょう。「当然のことである」「おかしいと思うが自分だけ反対しても仕方がないと思う」と答えた人の比率の合計が4.1ポイント低下し、「間違っていると思う」と答えた人の比率が3.5ポイント上昇しています。他に変化が見られたのは、前回調査は、女性の方が「当然のことである」と考える比率が高かったのが、今回調査では、男性の方が女性より「当然のことである」と答えた人の比率が高くなったことです。また、前回調査同様に、10歳代・20歳代が50歳代、60歳代の人たちよりも「当然のことである」と答えた人が多くなっています。ただし、10歳代・20歳代には「間違っていると思う」と答えた人の比率も高く、考え方が二極化している面が見られます。

2 葬儀を行う時の「清め塩」について

表2-22

		回答者数	当然のことである	おかしいと思う が自分だけ反対しても仕方がないと思う	間違っている と思う	無回答・不明
市 全 体		1,415 100.0% (100.0)	425 30.0% (33.5)	472 33.4% (35.3)	458 32.4% (27.7)	60 4.2% (3.5)
性 別	男 性	530 100.0% (100.0)	186 35.1% (33.5)	174 32.8% (38.1)	155 29.2% (25.0)	15 2.8% (3.4)
	女 性	885 100.0% (100.0)	239 27.0% (33.5)	298 33.7% (33.4)	303 34.2% (29.6)	45 5.1% (3.5)
年 齢 別	10 歳 代	123 100.0% (100.0)	55 44.7% (50.3)	36 29.3% (29.2)	25 20.3% (18.0)	7 5.7% (2.5)
	20 歳 代					
	30 歳 代	193 100.0% (100.0)	71 36.8% (43.9)	60 31.1% (34.7)	52 26.9% (19.5)	10 5.2% (1.9)
	40 歳 代	245 100.0% (100.0)	71 29.0% (31.0)	97 39.6% (39.7)	69 28.2% (27.9)	8 3.3% (1.3)
	50 歳 代	241 100.0% (100.0)	71 29.5% (23.5)	75 31.1% (30.8)	87 36.1% (42.2)	8 3.3% (3.5)
	60 歳 代	331 100.0% (100.0)	79 23.9% (28.3)	109 32.9% (40.5)	133 40.2% (28.3)	10 3.0% (2.8)
	70歳以上	282 100.0% (100.0)	78 27.7% (33.2)	95 33.7% (34.9)	92 32.6% (24.0)	17 6.0% (7.9)

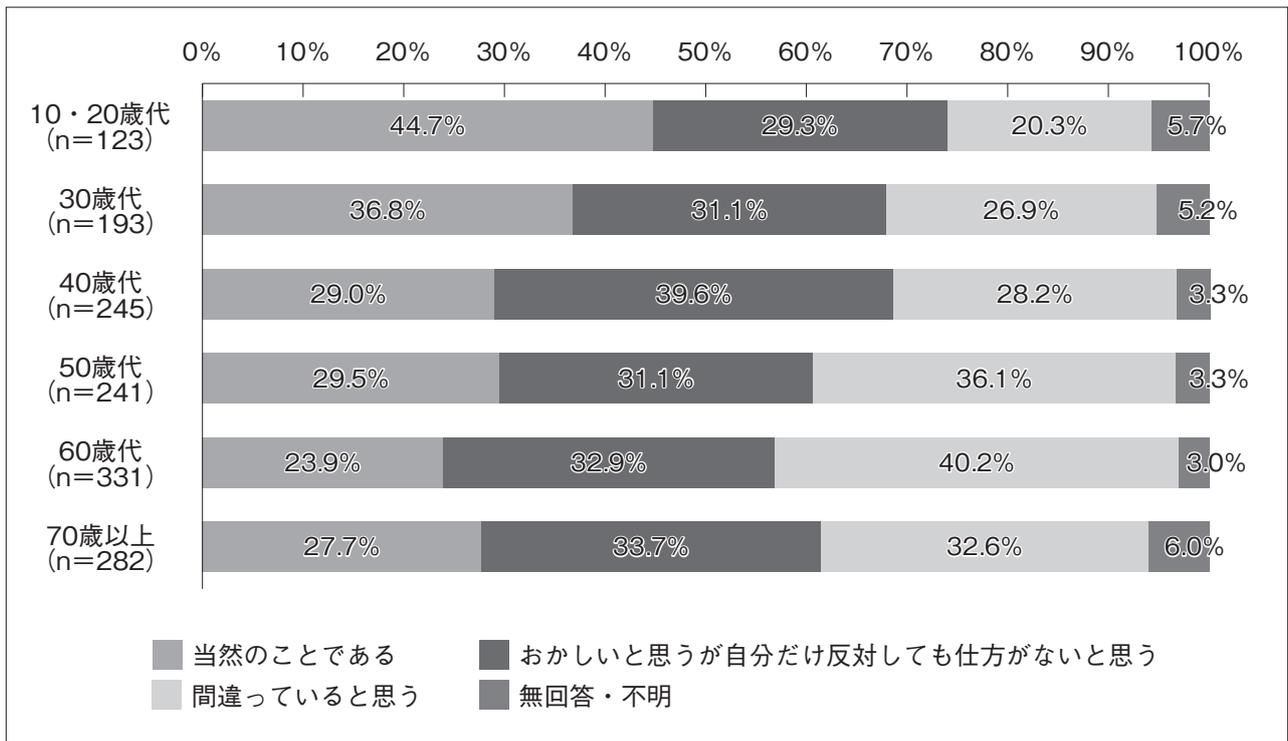


表2-22から、「当然のことである」と答えた人の比率は、前回調査よりも低下しています。逆に「間違っていると思う」と答えた人の比率が4.7ポイント増えています。性別では女性の方が「間違っていると思う」と答えた人の比率が高く、年代別では10歳代・20歳代に「当然のことである」とする見方が強く、加齢に伴って「間違っていると思う」とみる傾向が強まります。

3 血液型による性格・相性・運勢の判断について

表2-23

		回答者数	当然のことである	おかしいと思う が自分だけ反対しても仕方がないと思う	間違っている と思う	無回答・不明
市 全 体		1,415 100.0% (100.0)	126 8.9% (11.0)	371 26.2% (23.7)	866 61.2% (62.2)	52 3.7% (3.1)
性 別	男 性	530 100.0% (100.0)	37 7.0% (9.7)	137 25.8% (22.8)	340 64.2% (64.4)	16 3.0% (3.1)
	女 性	885 100.0% (100.0)	89 10.1% (11.9)	234 26.4% (24.4)	526 59.4% (60.6)	36 4.1% (3.1)
年 齢 別	10 歳 代	123 100.0% (100.0)	13 10.6% (18.0)	32 26.0% (32.3)	74 60.2% (48.4)	4 3.3% (1.2)
	20 歳 代	193 100.0% (100.0)	24 12.4% (16.4)	63 32.6% (24.4)	98 50.8% (57.6)	8 4.1% (1.5)
	30 歳 代	245 100.0% (100.0)	29 11.8% (8.7)	72 29.4% (24.9)	139 56.7% (65.5)	5 2.0% (0.9)
	40 歳 代	241 100.0% (100.0)	21 8.7% (8.9)	55 22.8% (19.7)	157 65.1% (68.9)	8 3.3% (2.5)
	50 歳 代	331 100.0% (100.0)	20 6.0% (7.2)	85 25.7% (23.1)	218 65.9% (66.4)	8 2.4% (3.4)
	60 歳 代	282 100.0% (100.0)	19 6.7% (10.6)	64 22.7% (22.6)	180 63.8% (59.2)	19 6.7% (7.5)
	70歳以上					

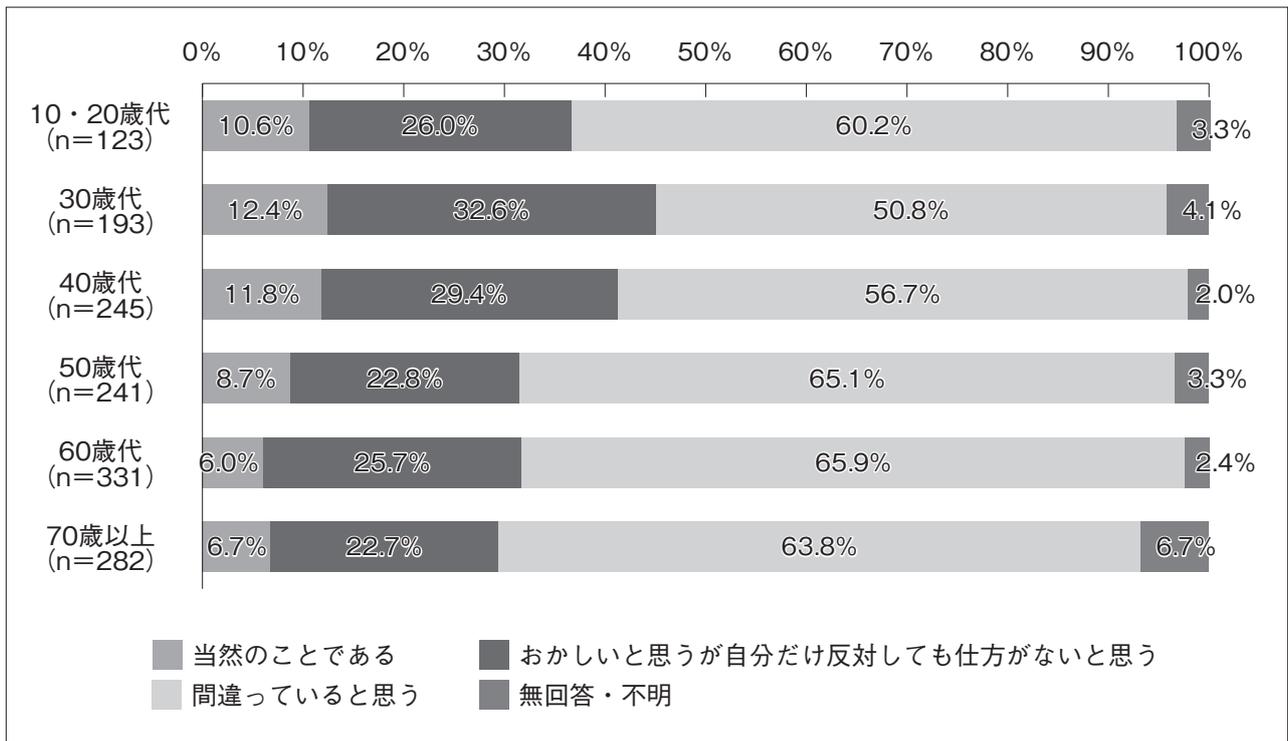


表2-23からわかるのは、「当然のことである」と答えた人の比率は低下していますが、「間違っていると思う」と答えた人の比率が必ずしも上昇していないことです。その分「おかしいと思うが自分だけ反対しても仕方がないと思う」といういわば諦め気分になる比率が高くなっています。全体的動向としては、40歳代以下に当然視する傾向が強いことがわかります。

4 鬼門などの方角について

表2-24

		回答者数	当然のことである	おかしいと思う が自分だけ反対しても仕方がないと思う	間違っている と思う	無回答・不明
市 全 体		1,415 100.0% (100.0)	739 52.2% (55.0)	438 31.0% (27.9)	193 13.6% (14.3)	45 3.2% (2.8)
性 別	男 性	530 100.0% (100.0)	244 46.0% (48.1)	178 33.6% (29.6)	94 17.7% (19.8)	14 2.6% (2.5)
	女 性	885 100.0% (100.0)	495 55.9% (59.8)	260 29.4% (26.7)	99 11.2% (10.5)	31 3.5% (3.0)
年 齢 別	10 歳 代	123 100.0% (100.0)	64 52.0% (60.9)	36 29.3% (28.0)	17 13.8% (10.6)	6 4.9% (0.6)
	20 歳 代	193 100.0% (100.0)	103 53.4% (63.4)	66 34.2% (27.9)	17 8.8% (7.6)	7 3.6% (1.1)
	30 歳 代	245 100.0% (100.0)	143 58.4% (61.1)	72 29.4% (27.9)	26 10.6% (10.5)	4 1.6% (0.4)
	40 歳 代	241 100.0% (100.0)	132 54.8% (47.3)	69 28.6% (31.7)	31 12.9% (18.4)	9 3.7% (2.5)
	50 歳 代	331 100.0% (100.0)	162 48.9% (51.7)	99 29.9% (28.7)	64 19.3% (16.5)	6 1.8% (3.1)
	60 歳 代	282 100.0% (100.0)	135 47.9% (51.4)	96 34.0% (22.9)	38 13.5% (18.5)	13 4.6% (7.2)
	70歳以上					

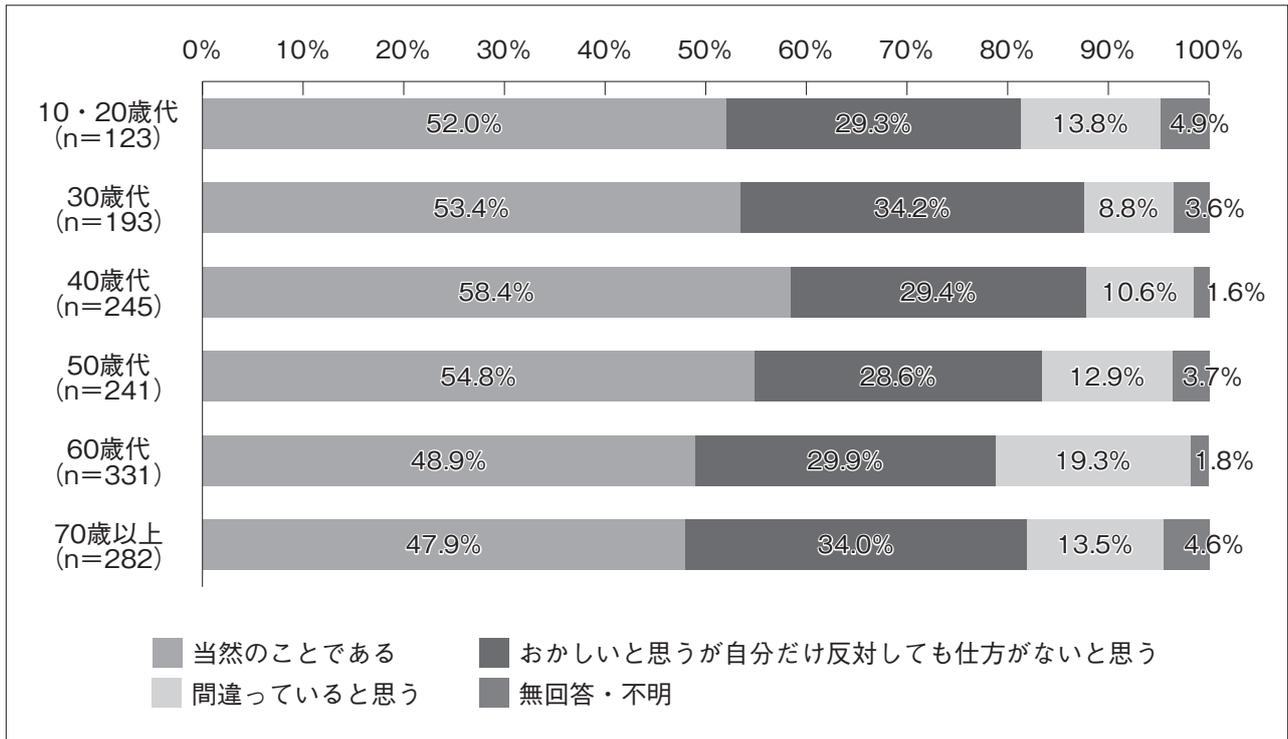


表2-24からわかるのは、「当然のことである」と答えた人の比率は2.8ポイント低下していますが「間違っていると思う」と答えた人の比率も0.7ポイント低下しており、「おかしいと思うが自分だけ反対しても仕方ないと思う」という見方を押し上げていることです。性別では女性の方が、年代別では30歳代と40歳代に「当然のことである」または「おかしいと思うが自分だけ反対しても仕方ないと思う」と答えた人の比率が高くなっています。

5 姓名判断（占い）について

表2-25

		回答者数	当然のことである	おかしいと思うが自分だけ反対しても仕方がないと思う	間違っていると思う	無回答・不明
市 全 体		1,415 100.0%	234 16.5%	449 31.7%	679 48.0%	53 3.7%
性 別	男 性	530 100.0%	68 12.8%	175 33.0%	272 51.3%	15 2.8%
	女 性	885 100.0%	166 18.8%	274 31.0%	407 46.0%	38 4.3%
年 齢 別	10 歳 代	123 100.0%	26 21.1%	46 37.4%	46 37.4%	5 4.1%
	20 歳 代	193 100.0%	45 23.3%	77 39.9%	64 33.2%	7 3.6%
	30 歳 代	245 100.0%	55 22.4%	85 34.7%	99 40.4%	6 2.4%
	40 歳 代	241 100.0%	45 18.7%	77 32.0%	110 45.6%	9 3.7%
	50 歳 代	331 100.0%	34 10.3%	102 30.8%	185 55.9%	10 3.0%
	60 歳 代	282 100.0%	29 10.3%	62 22.0%	175 62.1%	16 5.7%

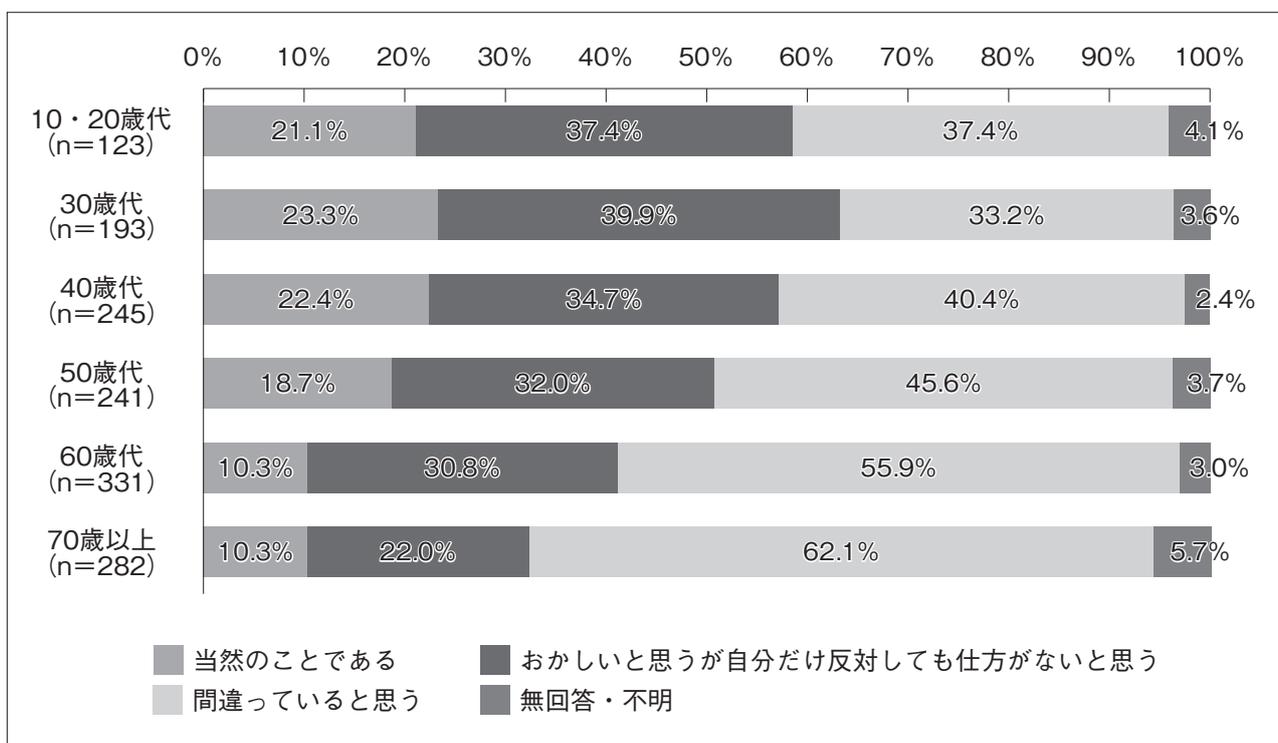


表2 - 25によれば、「当然のことである」16.5%、「おかしいと思うが自分だけ反対しても仕方がないと思う」31.7%と答えた人の比率の合計48.2%と、「間違っていると思う」48.0%がほぼ拮抗する形になります。特徴的なのはこの項目でも、性別では女性の方が、年代別では40歳代以下の方が、「当然のことである」と回答していることです。

第4節 日常生活における人権意識

家庭や地域社会、職場などの日常生活においては、人権・同和問題に対する個人の考え方や意識が明確に表れます。この節では、こうした見方に立って、日常生活における市民の人権意識の深層に近づいてみます。

1 今日の日本の人権意識に対する受け止め方

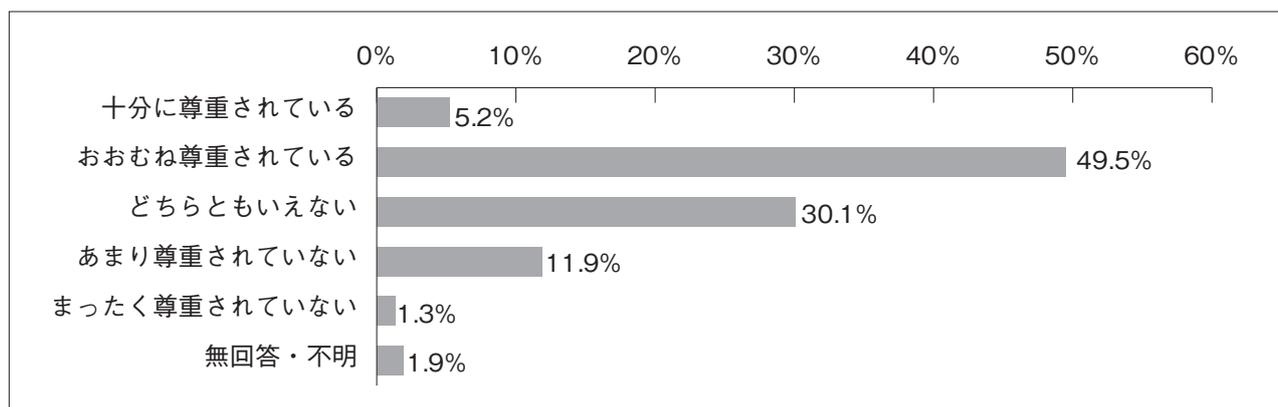
まず、今日の日本社会では、人権が尊重されていると思うかどうかを尋ねた結果を見ていきましょう。

問1 あなたは、今の日本の社会は、人権が尊重されていると思いますか。(○は1つだけ)

※この設問は前回調査にはありません。

表2-26(1)

		回答者数	十分に尊重されている	おおむね尊重されている	どちらともいえない	あまり尊重されていない	まったく尊重されていない	無回答・不明
市 全 体		1,415 100.0%	73 5.2%	701 49.5%	426 30.1%	169 11.9%	19 1.3%	27 1.9%
性 別	男 性	530 100.0%	39 7.4%	292 55.1%	129 24.3%	49 9.2%	10 1.9%	11 2.1%
	女 性	885 100.0%	34 3.8%	409 46.2%	297 33.6%	120 13.6%	9 1.0%	16 1.8%
年 齢 別	10 歳 代	123 100.0%	6 4.9%	53 43.1%	47 38.2%	10 8.1%	3 2.4%	4 3.3%
	20 歳 代	193 100.0%	10 5.2%	96 49.7%	52 26.9%	29 15.0%	3 1.6%	3 1.6%
	30 歳 代	245 100.0%	9 3.7%	134 54.7%	82 33.5%	18 7.3%	1 0.4%	1 0.4%
	40 歳 代	241 100.0%	11 4.6%	115 47.7%	71 29.5%	34 14.1%	5 2.1%	5 2.1%
	50 歳 代	331 100.0%	20 6.0%	164 49.5%	87 26.3%	47 14.2%	5 1.5%	8 2.4%
	60 歳 代	282 100.0%	17 6.0%	139 49.3%	87 30.9%	31 11.0%	2 0.7%	6 2.1%

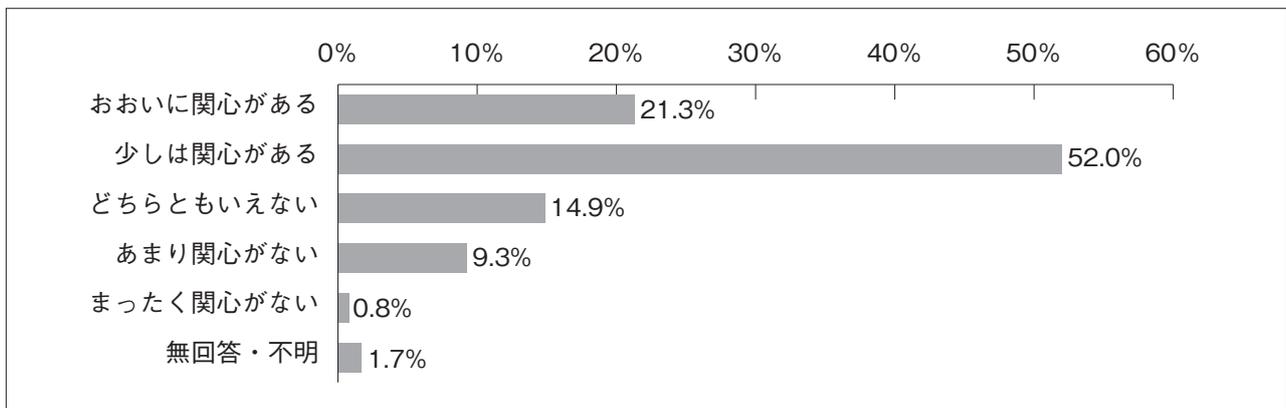


問2 あなたは、「人権」ということに関心を持っていますか。(○は1つだけ)

※この設問は前回調査にはありません。

表2-26 (2)

		回答者数	おおいに 関心がある	少しは関 心がある	どちらと もいえな い	あまり関 心がない	まったく 関心がない	無回答・ 不明
市 全 体		1,415 100.0%	301 21.3%	736 52.0%	211 14.9%	131 9.3%	12 0.8%	24 1.7%
性 別	男 性	530 100.0%	127 24.0%	261 49.2%	77 14.5%	49 9.2%	6 1.1%	10 1.9%
	女 性	885 100.0%	174 19.7%	475 53.7%	134 15.1%	82 9.3%	6 0.7%	14 1.6%
年 齢 別	10 歳 代	123 100.0%	19 15.4%	69 56.1%	18 14.6%	13 10.6%	1 0.8%	3 2.4%
	20 歳 代	193 100.0%	27 14.0%	113 58.5%	29 15.0%	21 10.9%	1 0.5%	2 1.0%
	30 歳 代	245 100.0%	40 16.3%	128 52.2%	46 18.8%	28 11.4%	2 0.8%	1 0.4%
	40 歳 代	241 100.0%	56 23.2%	130 53.9%	32 13.3%	15 6.2%	2 0.8%	6 2.5%
	50 歳 代	331 100.0%	70 21.1%	166 50.2%	52 15.7%	32 9.7%	4 1.2%	7 2.1%
	60 歳 代	282 100.0%	89 31.6%	130 46.1%	34 12.1%	22 7.8%	2 0.7%	5 1.8%
	70歳以上							



問いに対する市民の感じ方は、表2-26のとおりです。54.7%の市民が「十分に尊重されている」「おおむね尊重されている」と感じています。しかし、「あまり尊重されていない」「まったく尊重されていない」と感じる人も13.2%います。「どちらともいえない」と答えた人が30.1%おり、人権尊重社会をめざす努力が今後も必要である実態が浮かび上がります。性別では女性の方が、年代別では10歳代・20歳代と50歳代が、「人権はまだ尊重されていない」と感じる比率の高いことがわかります。

2 人権意識の現状認知について

本節の冒頭に記したとおり（表2 - 26 参照）、市民の49.5%が、日本では、人権が「おおむね尊重されている」と答えています。なお11.9%の人が、「あまり尊重されていない」と答えている現実があります。また、30.1%の人が「どちらともいえない」と答えています。

こうした認識に立ちながら、では、回答した人は、人権に関わる事態に対してどのような態度や行動をとるでしょう。以下、居住地域の隣人に対する意識を見ていきましょう。

3 居住地域の隣人に対する人権意識一般

問 14 あなたが、住宅を購入したり、借りたりするなど、住まいを選ぶ際に、価格や立地条件が希望にあっても、次のような条件の物件の場合、避けることがありますか。次にあげる①～⑦のすべてについてお答えください。（○はそれぞれ1つ）

※この設問は前回調査にはありません。

表2-27

	合 計	避けると 思う	どちらか といえば 避けると 思う	どちらか といえば 避け ない と思う	まったく 気にしない	無回答・ 不明
①同和地区の地域内である	1,415 100.0%	242 17.1%	401 28.3%	324 22.9%	404 28.6%	44 3.1%
②近隣に同和地区がある	1,415 100.0%	148 10.5%	326 23.0%	391 27.6%	497 35.1%	53 3.7%
③近隣に低所得者など、生活が 困難な人が多く住んでいる	1,415 100.0%	130 9.2%	425 30.0%	384 27.1%	425 30.0%	51 3.6%
④近隣に外国籍の住民が多く 住んでいる	1,415 100.0%	154 10.9%	442 31.2%	431 30.5%	344 24.3%	44 3.1%
⑤近隣に精神科の病院や障が い者施設がある	1,415 100.0%	136 9.6%	357 25.2%	414 29.3%	463 32.7%	45 3.2%
⑥近隣に老人ホームなどの高 齢者施設がある	1,415 100.0%	25 1.8%	74 5.2%	392 27.7%	889 62.8%	35 2.5%
⑦近隣に保育所（園）や幼稚 園がある	1,415 100.0%	24 1.7%	117 8.3%	320 22.6%	920 65.0%	34 2.4%

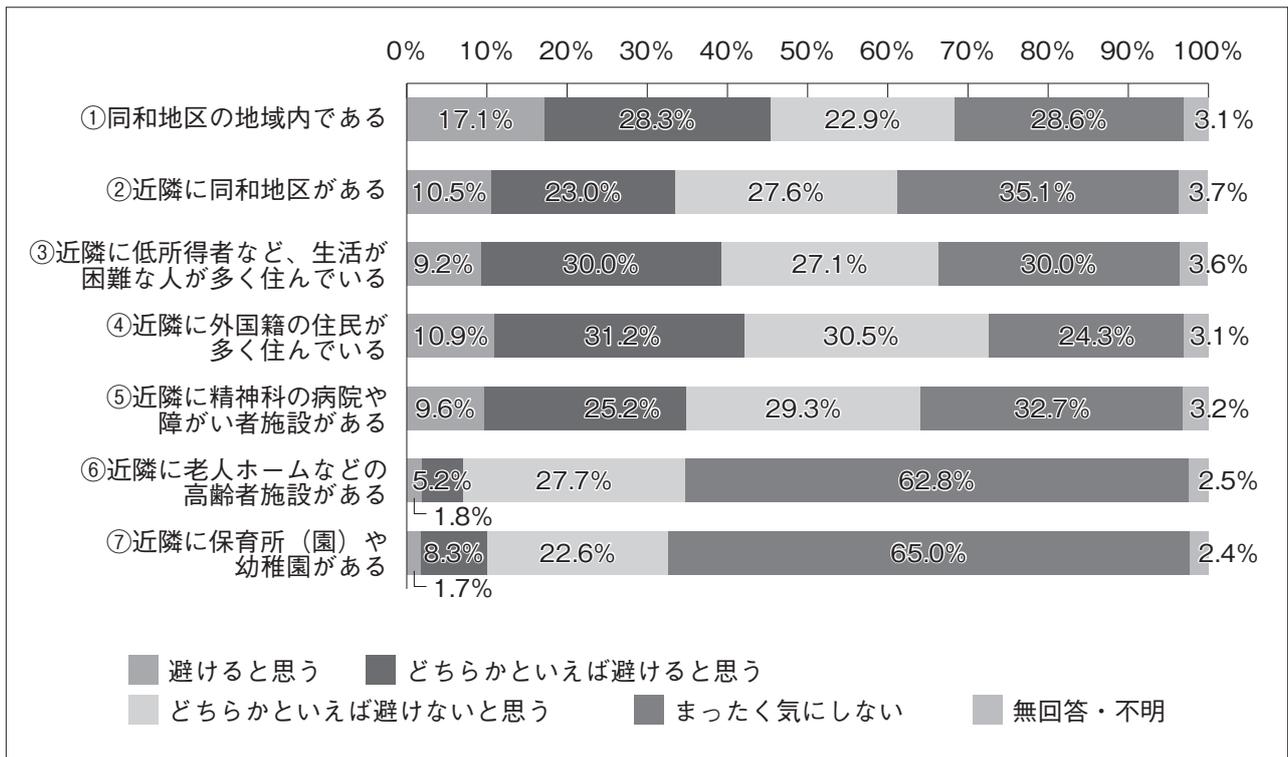


表2-27は、「住宅を購入したり、借りたりするなど、住まいを選ぶ際に」という条件で、隣人としてともに近くで生活するうえでどんな態度をとるか尋ねた結果をまとめたものです。「同和地区の地域内である」「近隣に同和地区がある」「近隣に低所得者など、生活が困難な人が多く住んでいる」「近隣に外国籍の住民が多く住んでいる」「近隣に精神科の病院や障がい者施設がある」は、「避けると思う」「どちらかといえば避けると思う」と答えた人の比率の合計が40%前後になることがわかります。「近隣に老人ホームなどの高齢者施設がある」「近隣に保育所（園）や幼稚園がある」についても7～10%の人が「避けたい」と思っています。人権意識は本当に高まったのかどうか、よく検討しなければならない現実を示すデータです。以下、このデータを詳しく見ていきます。

4 同和地区に対して

表2-28

		回答者数	避けると思う	どちらかといえば避けると思う	どちらかといえば避けたくないと思う	まったく気にしない	無回答・不明
市 全 体		1,415 100.0%	242 17.1%	401 28.3%	324 22.9%	404 28.6%	44 3.1%
性 別	男 性	530 100.0%	90 17.0%	148 27.9%	112 21.1%	163 30.8%	17 3.2%
	女 性	885 100.0%	152 17.2%	253 28.6%	212 24.0%	241 27.2%	27 3.1%
年 齢 別	10 歳 代	123 100.0%	12 9.8%	25 20.3%	29 23.6%	52 42.3%	5 4.1%
	20 歳 代	193 100.0%	26 13.5%	59 30.6%	45 23.3%	60 31.1%	3 1.6%
	30 歳 代	245 100.0%	47 19.2%	69 28.2%	51 20.8%	73 29.8%	5 2.0%
	40 歳 代	241 100.0%	48 19.9%	74 30.7%	60 24.9%	53 22.0%	6 2.5%
	50 歳 代	331 100.0%	72 21.8%	92 27.8%	76 23.0%	80 24.2%	11 3.3%
	60 歳 代	282 100.0%	37 13.1%	82 29.1%	63 22.3%	86 30.5%	14 5.0%

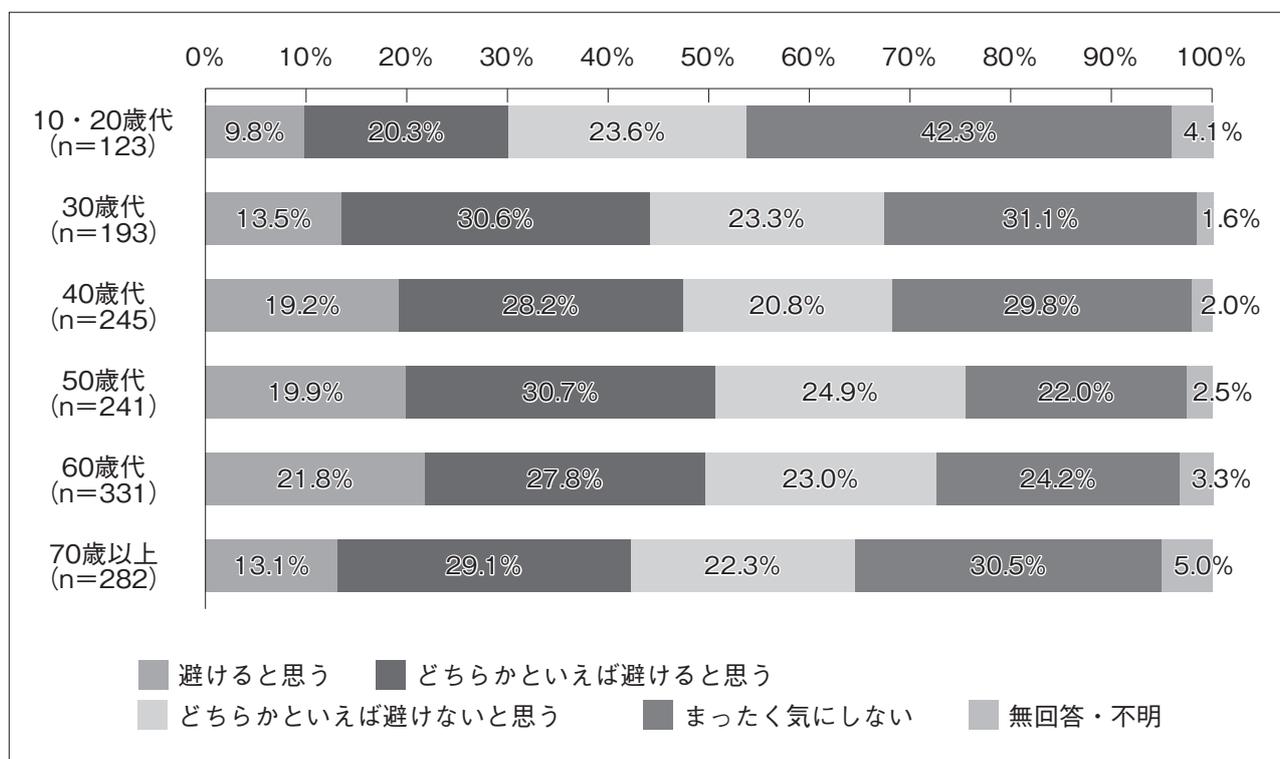


表2-28は、「同和地区の地域内である」場合、住宅の購入や借入をするかと尋ねた結果を示したものです。「避けると思う」17.1%、「どちらかといえば避けると思う」28.3%、つまり45.4%の人が、そこは避けたいと思っていることがわかります。人権啓発が進んだと思われる今日ですが、この実態を軽視することはできません。ただ、10歳代・20歳代は、「避けると思う」「どちらかといえば避けると思う」と答えた人の比率の合計が30.1%に下がり、「どちらかといえば避けないと思う」「まったく気にしない」と答えた人の比率の合計が65.9%となっています。しかし、この年代の多くはまだ住宅購入は非現実的で、知識だけで答えているかもしれません。教育・啓発を、知識の習得で終わらせるのではなく、実際の行動に移せる認識にまで深める方法が問われることがわかります。

5 近隣の同和地区に対して

表2-29

		回答者数	避けると思う	どちらかといえば避けると思う	どちらかといえば避けたくないと思う	まったく気にしない	無回答・不明
市 全 体		1,415 100.0%	148 10.5%	326 23.0%	391 27.6%	497 35.1%	53 3.7%
性 別	男 性	530 100.0%	58 10.9%	123 23.2%	132 24.9%	200 37.7%	17 3.2%
	女 性	885 100.0%	90 10.2%	203 22.9%	259 29.3%	297 33.6%	36 4.1%
年 齢 別	10 歳 代	123 100.0%	9 7.3%	20 16.3%	29 23.6%	60 48.8%	5 4.1%
	20 歳 代	193 100.0%	15 7.8%	38 19.7%	66 34.2%	71 36.8%	3 1.6%
	30 歳 代	245 100.0%	31 12.7%	55 22.4%	68 27.8%	86 35.1%	5 2.0%
	40 歳 代	241 100.0%	32 13.3%	58 24.1%	70 29.0%	71 29.5%	10 4.1%
	50 歳 代	331 100.0%	42 12.7%	82 24.8%	91 27.5%	102 30.8%	14 4.2%
	60 歳 代	282 100.0%	19 6.7%	73 25.9%	67 23.8%	107 37.9%	16 5.7%

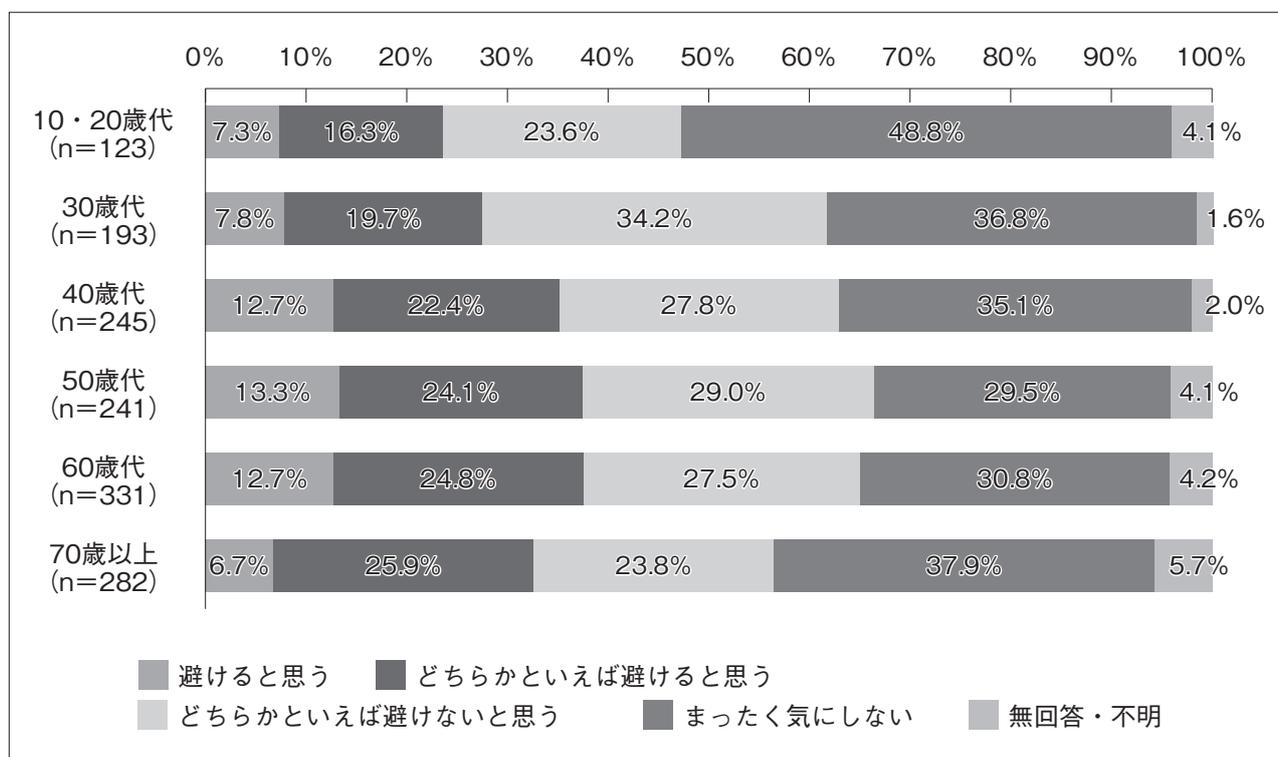
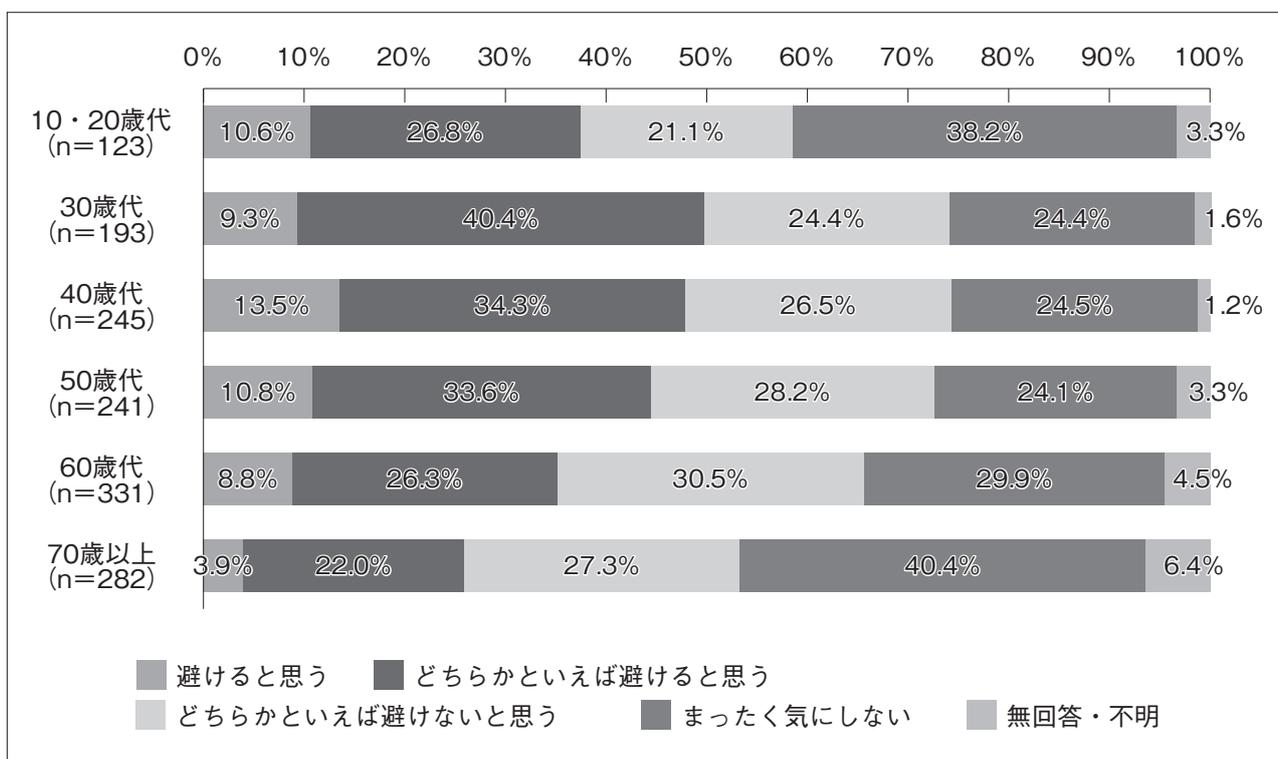


表2-29は、「近隣に同和地区がある」場合にとる態度に対する回答を示したものです。この場合でも33.5%が「避けると思う」「どちらかといえば避けると思う」と答えています。10歳代・20歳代が数値を少なくすることに若干の希望が持てますが、人権・同和教育を一層進める必要があることは、前の問いに対する結果と同様です。現状として、確かにあからさまな差別感情を表面に出す人は少なくなっていますが、同和地区に対する差別意識が残っていることを表している数値と思われます。

6 低所得者などに対して

表2-30

		回答者数	避けると思う	どちらかといえば避けると思う	どちらかといえば避けないと思う	まったく気にしない	無回答・不明
市 全 体		1,415 100.0%	130 9.2%	425 30.0%	384 27.1%	425 30.0%	51 3.6%
性 別	男 性	530 100.0%	47 8.9%	160 30.2%	136 25.7%	167 31.5%	20 3.8%
	女 性	885 100.0%	83 9.4%	265 29.9%	248 28.0%	258 29.2%	31 3.5%
年 齢 別	10 歳 代	123 100.0%	13 10.6%	33 26.8%	26 21.1%	47 38.2%	4 3.3%
	20 歳 代	193 100.0%	18 9.3%	78 40.4%	47 24.4%	47 24.4%	3 1.6%
	30 歳 代	245 100.0%	33 13.5%	84 34.3%	65 26.5%	60 24.5%	3 1.2%
	40 歳 代	241 100.0%	26 10.8%	81 33.6%	68 28.2%	58 24.1%	8 3.3%
	50 歳 代	331 100.0%	29 8.8%	87 26.3%	101 30.5%	99 29.9%	15 4.5%
	60 歳 代	282 100.0%	11 3.9%	62 22.0%	77 27.3%	114 40.4%	18 6.4%

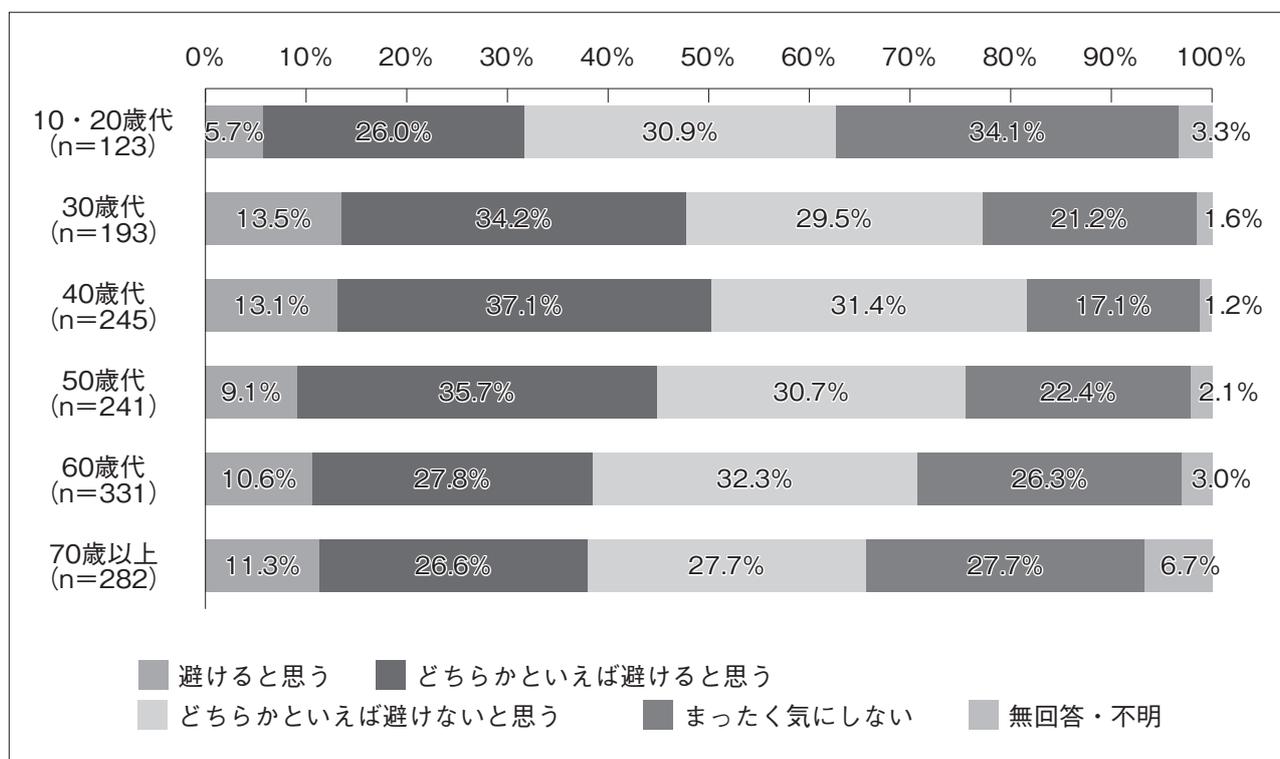


では、所得の低い境遇の人に対してはどうでしょう。表2-30を見ていきましょう。全体で39.2%の人が「避けると思う」「どちらかといえば避けると思う」と答えています。回答には男女差はほとんどありません。年代別の差異が大きいところに特徴があります。10歳代・20歳代は、「避けると思う」「どちらかといえば避けると思う」と答えた人の比率は、他の年代と大きな差はありませんが、「まったく気にしない」と答えた人の比率が高く、差別意識が低くなっています。しかし、30歳代になると「避けると思う」「どちらかといえば避けると思う」と答えた人の比率の合計が急上昇し、その後、緩やかに低下しますが、40歳代、50歳代までは、同様の比率となっています。60歳代以降ようやく「まったく気にしない」と答えた人が多くなります。

7 外国人に対して

表2-31

		回答者数	避けると思う	どちらかといえば避けると思う	どちらかといえば避けないと思う	まったく気にしない	無回答・不明
市 全 体		1,415 100.0%	154 10.9%	442 31.2%	431 30.5%	344 24.3%	44 3.1%
性 別	男 性	530 100.0%	61 11.5%	170 32.1%	146 27.5%	136 25.7%	17 3.2%
	女 性	885 100.0%	93 10.5%	272 30.7%	285 32.2%	208 23.5%	27 3.1%
年 齢 別	10 歳 代	123 100.0%	7 5.7%	32 26.0%	38 30.9%	42 34.1%	4 3.3%
	20 歳 代	193 100.0%	26 13.5%	66 34.2%	57 29.5%	41 21.2%	3 1.6%
	30 歳 代	245 100.0%	32 13.1%	91 37.1%	77 31.4%	42 17.1%	3 1.2%
	40 歳 代	241 100.0%	22 9.1%	86 35.7%	74 30.7%	54 22.4%	5 2.1%
	50 歳 代	331 100.0%	35 10.6%	92 27.8%	107 32.3%	87 26.3%	10 3.0%
	60 歳 代	282 100.0%	32 11.3%	75 26.6%	78 27.7%	78 27.7%	19 6.7%



外国人に対してはどうでしょう。表2-31によれば、42.1%が「避けると思う」「どちらかといえ
ば避けると思う」と回答しています。大分県は外国籍者の比率が全国平均よりも高い県であり、温泉
地などへの外国人旅行者も比較的多い地域です。県都大分市で外国人に対して「忌避」する態度をと
る人が多いことは、今後の課題としてとらえる必要があります。10歳代・20歳代と60歳代、70歳
以上が、「まったく気にしない」傾向を高くしていることによろやく希望が持てるどころです。

8 精神科の病院や障がい者施設に対して

表2-32

		回答者数	避けると思う	どちらかといえば避けると思う	どちらかといえば避けないと思う	まったく気にしない	無回答・不明
市 全 体		1,415 100.0%	136 9.6%	357 25.2%	414 29.3%	463 32.7%	45 3.2%
性 別	男 性	530 100.0%	46 8.7%	137 25.8%	150 28.3%	180 34.0%	17 3.2%
	女 性	885 100.0%	90 10.2%	220 24.9%	264 29.8%	283 32.0%	28 3.2%
年 齢 別	10 歳 代	123 100.0%	10 8.1%	27 22.0%	31 25.2%	51 41.5%	4 3.3%
	20 歳 代	193 100.0%	21 10.9%	51 26.4%	54 28.0%	64 33.2%	3 1.6%
	30 歳 代	245 100.0%	32 13.1%	73 29.8%	72 29.4%	65 26.5%	3 1.2%
	40 歳 代	241 100.0%	22 9.1%	63 26.1%	68 28.2%	78 32.4%	10 4.1%
	50 歳 代	331 100.0%	30 9.1%	82 24.8%	106 32.0%	106 32.0%	7 2.1%
	60 歳 代	282 100.0%	21 7.4%	61 21.6%	83 29.4%	99 35.1%	18 6.4%

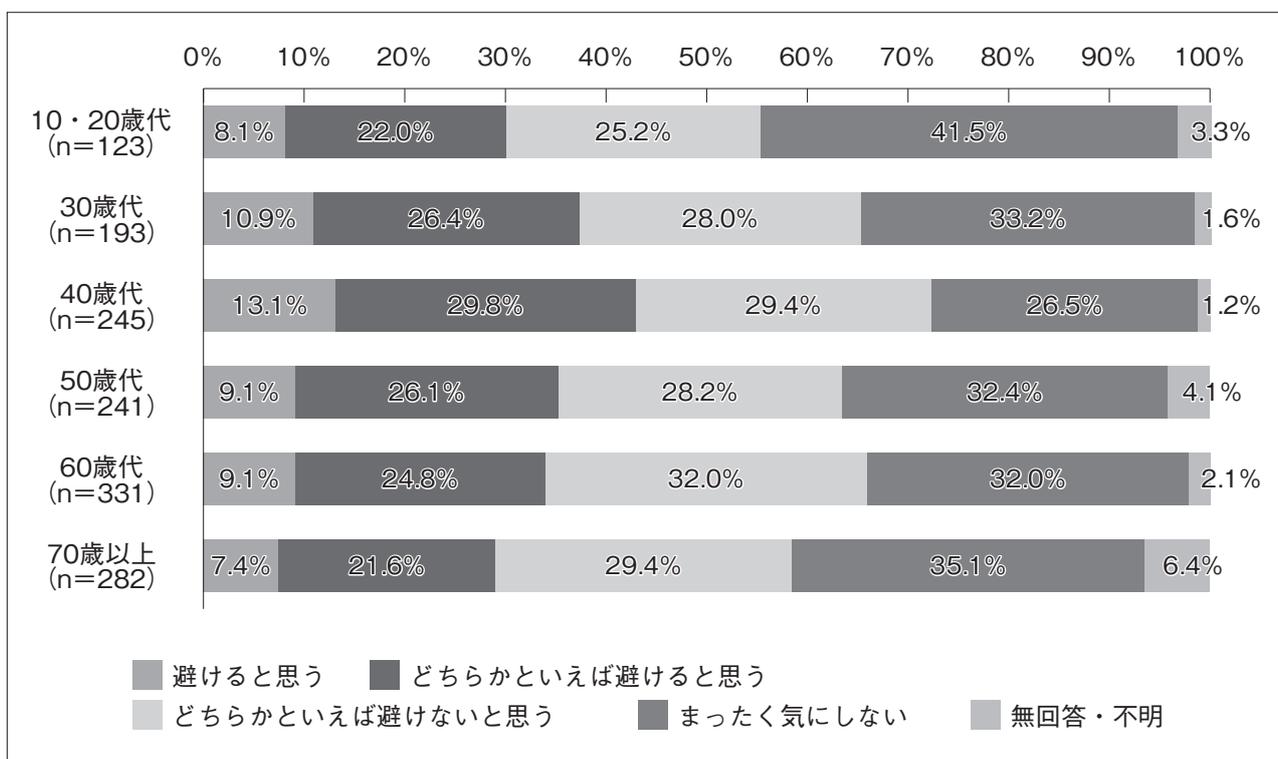
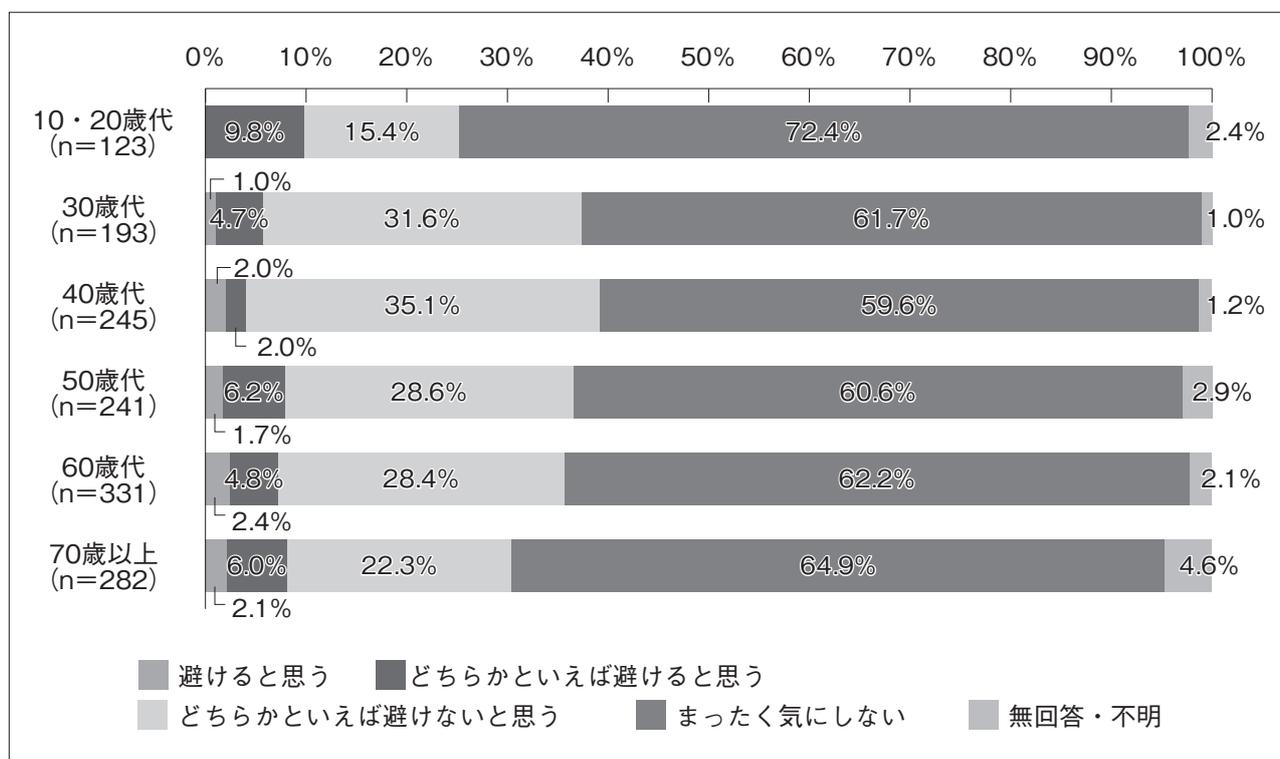


表2 - 32 は、精神科の病院や障がい者施設に対してとる態度を尋ねた結果をまとめたものです。市全体では、34.8%の人が「避けると思う」「どちらかといえば避けると思う」と答えています。10歳代・20歳代、70歳以上の人に「避けると思う」「どちらかといえば避けると思う」と答えた人の比率の合計は、若干和らぎますが、それでも30%前後に達することに注目しなくてはならないと思われます。

9 高齢者施設に対して

表2-33

		回答者数	避けると思う	どちらかといえば避けると思う	どちらかといえば避けたくないと思う	まったく気にしない	無回答・不明
市全体		1,415 100.0%	25 1.8%	74 5.2%	392 27.7%	889 62.8%	35 2.5%
性別	男性	530 100.0%	3 0.6%	30 5.7%	163 30.8%	319 60.2%	15 2.8%
	女性	885 100.0%	22 2.5%	44 5.0%	229 25.9%	570 64.4%	20 2.3%
年齢別	10歳代	123 100.0%	0 0.0%	12 9.8%	19 15.4%	89 72.4%	3 2.4%
	20歳代	193 100.0%	2 1.0%	9 4.7%	61 31.6%	119 61.7%	2 1.0%
	30歳代	245 100.0%	5 2.0%	5 2.0%	86 35.1%	146 59.6%	3 1.2%
	40歳代	241 100.0%	4 1.7%	15 6.2%	69 28.6%	146 60.6%	7 2.9%
	50歳代	331 100.0%	8 2.4%	16 4.8%	94 28.4%	206 62.2%	7 2.1%
	60歳代	282 100.0%	6 2.1%	17 6.0%	63 22.3%	183 64.9%	13 4.6%

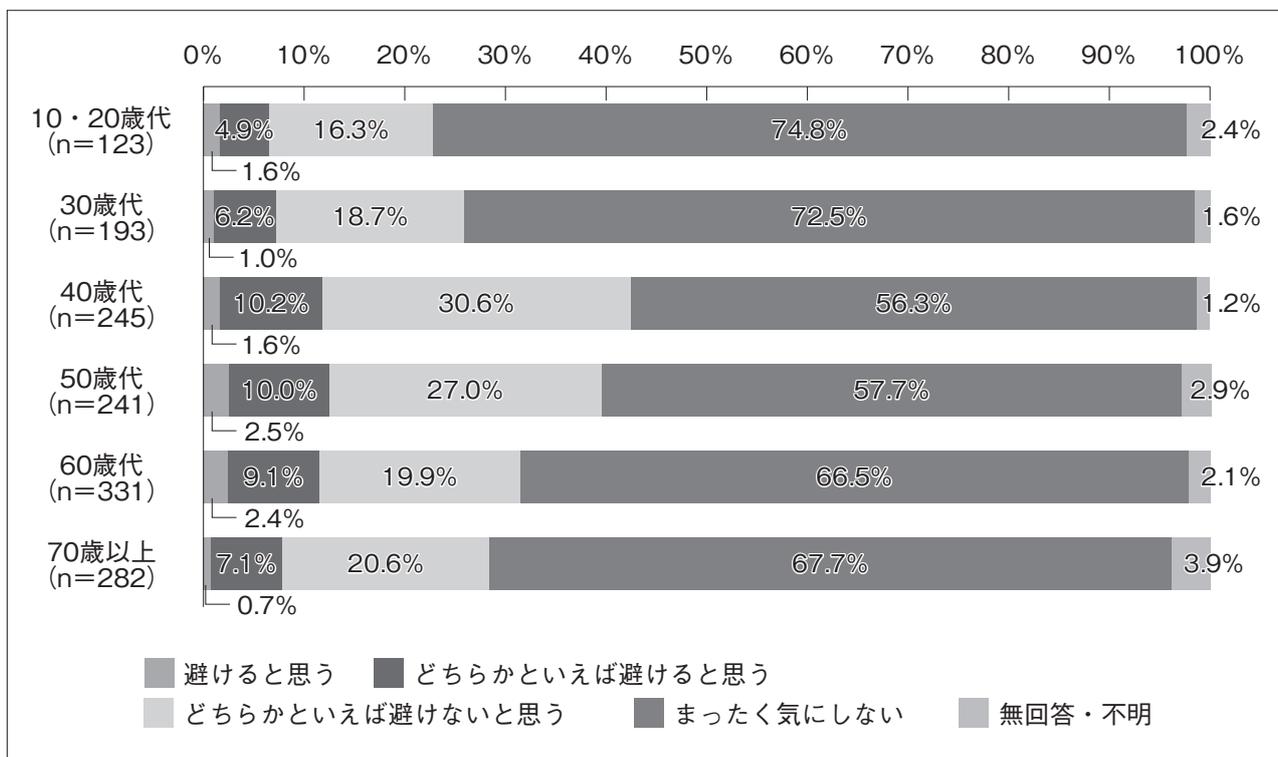


では、高齢者施設に対してはどうでしょう。長寿化すれば多くの人が高齢者施設に無縁ではないと思われます。表2-33に結果を見ていきましょう。「避けると思う」「どちらかといえば避けると思う」と答えた人の比率は7.0%になります。

10 保育所や幼稚園に対して

表2-34

		回答者数	避けると思う	どちらかといえば避けると思う	どちらかといえば避けたくないと思う	まったく気にしない	無回答・不明
市全体		1,415 100.0%	24 1.7%	117 8.3%	320 22.6%	920 65.0%	34 2.4%
性別	男性	530 100.0%	6 1.1%	38 7.2%	116 21.9%	356 67.2%	14 2.6%
	女性	885 100.0%	18 2.0%	79 8.9%	204 23.1%	564 63.7%	20 2.3%
年齢別	10歳代	123 100.0%	2 1.6%	6 4.9%	20 16.3%	92 74.8%	3 2.4%
	20歳代						
	30歳代	193 100.0%	2 1.0%	12 6.2%	36 18.7%	140 72.5%	3 1.6%
	40歳代	245 100.0%	4 1.6%	25 10.2%	75 30.6%	138 56.3%	3 1.2%
	50歳代	241 100.0%	6 2.5%	24 10.0%	65 27.0%	139 57.7%	7 2.9%
	60歳代	331 100.0%	8 2.4%	30 9.1%	66 19.9%	220 66.5%	7 2.1%
70歳以上	282 100.0%	2 0.7%	20 7.1%	58 20.6%	191 67.7%	11 3.9%	



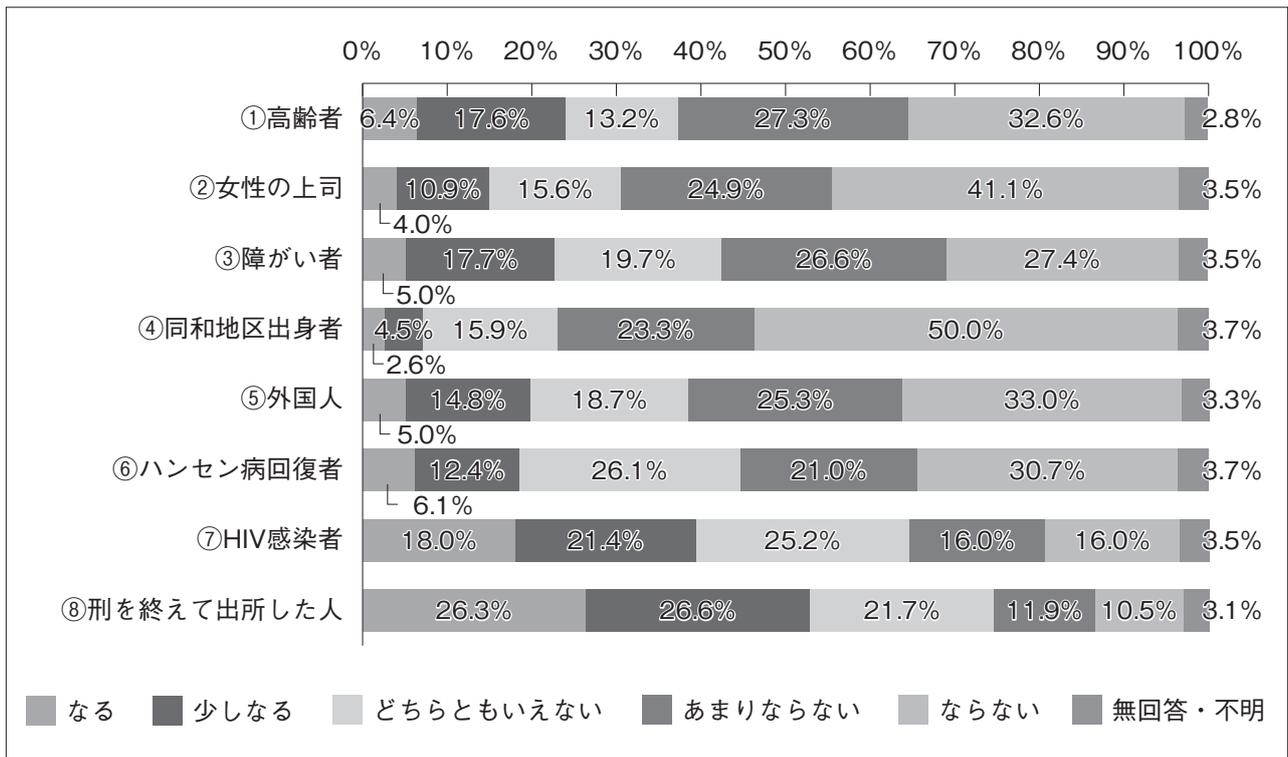
保育所や幼稚園に対して、幼児の遊ぶ声などが「やかましい」とクレームをつけることが多くなったと言われますが、この点はどうでしょう。表2-34によれば、「避けると思う」「どちらかといえば避けると思う」と答えた人の比率の合計は市全体で10.0%です。30歳代までは、「まったく気にしない」とする回答が高いのですが、幼児が成長した後の年代ともいえる40歳代～60歳代までの人たちに「避けると思う」「どちらかといえば避けると思う」と答えた人の比率が少しですが高まっています。60歳代以降は、「まったく気にしない」と答えた人の比率も高まります。

11 職場の隣人に対する人権意識一般

問7 あなたは、次の①～⑧の方と同じ職場で働くとしたら、不安になりますか。
(○はそれぞれ1つ)

表2-35

	回答者数	なる	少しなる	どちらともいえない	あまりならない	ならない	無回答・不明
①高齢者	1,415 100.0%	91 6.4%	249 17.6%	187 13.2%	387 27.3%	461 32.6%	40 2.8%
②女性の上司	1,415 100.0%	57 4.0%	154 10.9%	221 15.6%	352 24.9%	582 41.1%	49 3.5%
③障がい者	1,415 100.0%	71 5.0%	250 17.7%	279 19.7%	377 26.6%	388 27.4%	50 3.5%
④同和地区出身者	1,415 100.0%	37 2.6%	64 4.5%	225 15.9%	329 23.3%	707 50.0%	53 3.7%
⑤外国人	1,415 100.0%	71 5.0%	209 14.8%	264 18.7%	358 25.3%	467 33.0%	46 3.3%
⑥ハンセン病回復者	1,415 100.0%	87 6.1%	176 12.4%	369 26.1%	297 21.0%	434 30.7%	52 3.7%
⑦HIV感染者	1,415 100.0%	254 18.0%	303 21.4%	356 25.2%	226 16.0%	227 16.0%	49 3.5%
⑧刑を終えて出所した人	1,415 100.0%	372 26.3%	376 26.6%	307 21.7%	168 11.9%	148 10.5%	44 3.1%



職場で共に働く隣人の場合を尋ねた結果を見ていきましょう。不安に「なる」「少しなる」と答えた人の比率の合計を示せば、結果は次のとおりです。

「高齢者」24.0%、「女性の上司」14.9%、「障がい者」22.7%、「同和地区出身者」7.1%、「外国人」19.8%、「ハンセン病回復者」18.5%、「HIV感染者」39.4%、「刑を終えて出所した人」52.9%となっています。

不安の感じ方にはいろいろあるでしょう。高齢者が一緒の場合、転んだりつまずいたりしないかという不安、つまり優しく心配する態度もこの数値に入っているかもしれません。しかし、偏見、差別まではいかない場合でも、関わることに不安があるのであれば、人権教育・啓発の一層の推進が必要になります。以下、性別、年代別にデータを検討してみましょう。

12 高齢者に対して

表2-36

		回答者数	なる	少しなる	どちらともいえない	あまりならない	ならない	無回答・不明
市全体		1,415 100.0%	91 6.4%	249 17.6%	187 13.2%	387 27.3%	461 32.6%	40 2.8%
性別	男性	530 100.0%	37 7.0%	85 16.0%	58 10.9%	141 26.6%	192 36.2%	17 3.2%
	女性	885 100.0%	54 6.1%	164 18.5%	129 14.6%	246 27.8%	269 30.4%	23 2.6%
年齢別	10歳代	123 100.0%	11 8.9%	23 18.7%	14 11.4%	28 22.8%	46 37.4%	1 0.8%
	20歳代	193 100.0%	10 5.2%	39 20.2%	21 10.9%	48 24.9%	71 36.8%	4 2.1%
	30歳代	245 100.0%	21 8.6%	53 21.6%	35 14.3%	66 26.9%	67 27.3%	3 1.2%
	40歳代	241 100.0%	15 6.2%	51 21.2%	29 12.0%	69 28.6%	70 29.0%	7 2.9%
	50歳代	331 100.0%	18 5.4%	51 15.4%	45 13.6%	95 28.7%	112 33.8%	10 3.0%
	60歳代	282 100.0%	16 5.7%	32 11.3%	43 15.2%	81 28.7%	95 33.7%	15 5.3%

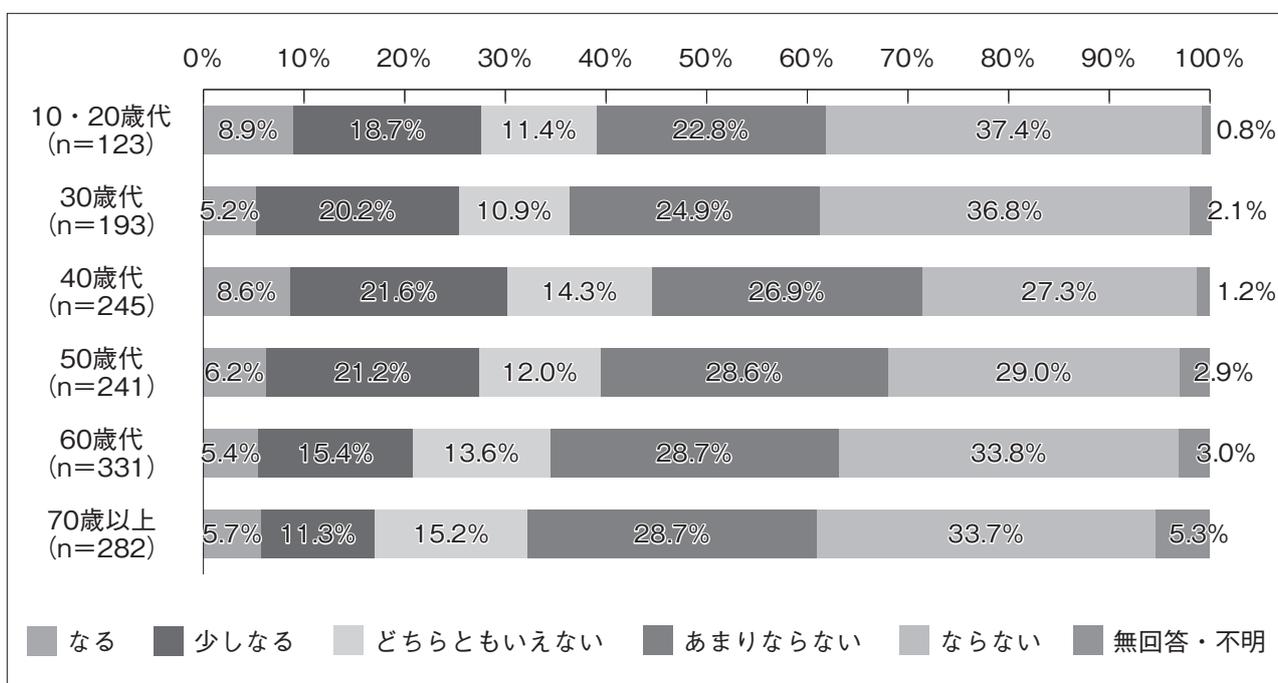


表2-36によれば、職場に高齢者が一緒にいることに対して不安に「なる」のは10歳代・20歳代と40歳代で、60歳代以上は、自分自身が高齢ということもあってか不安になる比率が低下します。

13 女性の上司に対して

表2-37

		回答者数	なる	少しなる	どちらともいえない	あまりならない	ならない	無回答・不明
市 全 体		1,415 100.0%	57 4.0%	154 10.9%	221 15.6%	352 24.9%	582 41.1%	49 3.5%
性 別	男 性	530 100.0%	21 4.0%	72 13.6%	102 19.2%	134 25.3%	185 34.9%	16 3.0%
	女 性	885 100.0%	36 4.1%	82 9.3%	119 13.4%	218 24.6%	397 44.9%	33 3.7%
年 齢 別	10 歳 代	123 100.0%	1 0.8%	9 7.3%	17 13.8%	25 20.3%	69 56.1%	2 1.6%
	20 歳 代	193 100.0%	5 2.6%	11 5.7%	26 13.5%	45 23.3%	101 52.3%	5 2.6%
	30 歳 代	245 100.0%	11 4.5%	26 10.6%	43 17.6%	51 20.8%	111 45.3%	3 1.2%
	40 歳 代	241 100.0%	9 3.7%	28 11.6%	38 15.8%	69 28.6%	88 36.5%	9 3.7%
	50 歳 代	331 100.0%	15 4.5%	52 15.7%	54 16.3%	78 23.6%	121 36.6%	11 3.3%
	60 歳 代	282 100.0%	16 5.7%	28 9.9%	43 15.2%	84 29.8%	92 32.6%	19 6.7%
	70歳以上							

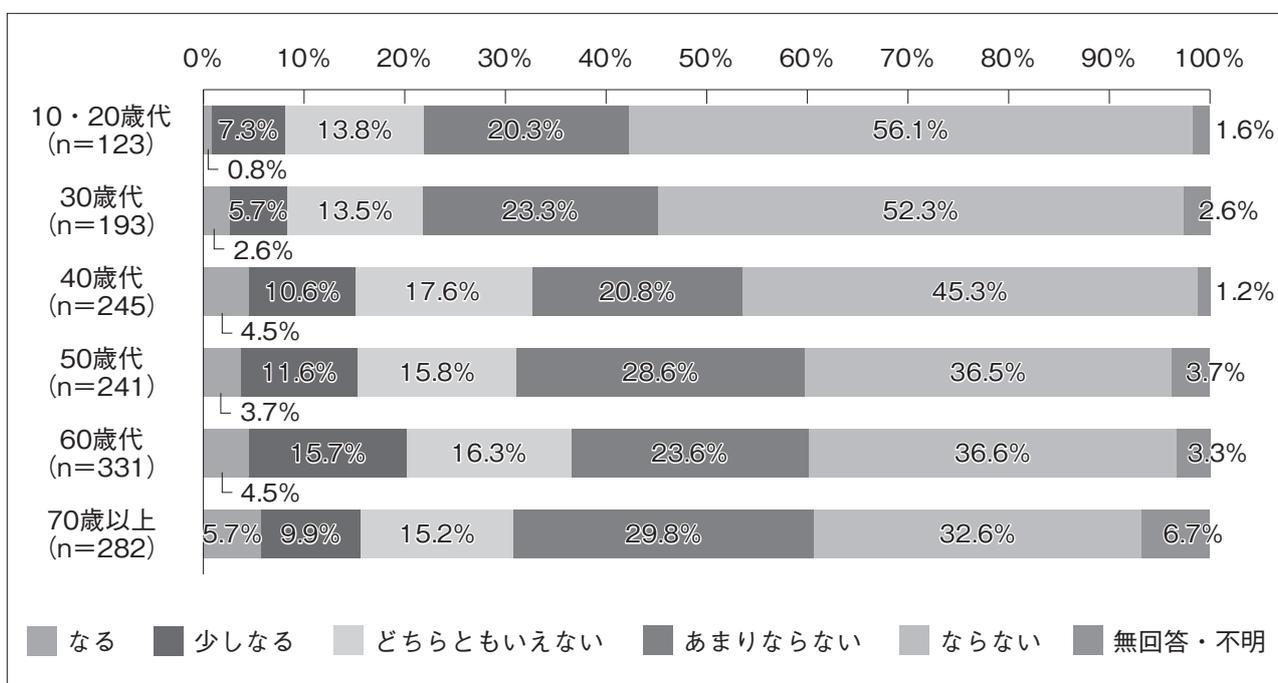


表2-37によれば、女性の上司を不安に感じる傾向は、性別では男性に、年齢別では40歳代以上に多く見られます。

14 障がい者に対して

表2-38

		回答者数	なる	少しなる	どちらともいえない	あまりならない	ならない	無回答・不明
市全体		1,415 100.0%	71 5.0%	250 17.7%	279 19.7%	377 26.6%	388 27.4%	50 3.5%
性別	男性	530 100.0%	30 5.7%	95 17.9%	103 19.4%	132 24.9%	156 29.4%	14 2.6%
	女性	885 100.0%	41 4.6%	155 17.5%	176 19.9%	245 27.7%	232 26.2%	36 4.1%
年齢別	10歳代	123 100.0%	3 2.4%	20 16.3%	33 26.8%	25 20.3%	39 31.7%	3 2.4%
	20歳代	193 100.0%	13 6.7%	37 19.2%	42 21.8%	55 28.5%	41 21.2%	5 2.6%
	30歳代	245 100.0%	17 6.9%	54 22.0%	50 20.4%	65 26.5%	56 22.9%	3 1.2%
	40歳代	241 100.0%	13 5.4%	45 18.7%	50 20.7%	62 25.7%	64 26.6%	7 2.9%
	50歳代	331 100.0%	16 4.8%	49 14.8%	58 17.5%	95 28.7%	102 30.8%	11 3.3%
	60歳代	282 100.0%	9 3.2%	45 16.0%	46 16.3%	75 26.6%	86 30.5%	21 7.4%
	70歳以上							

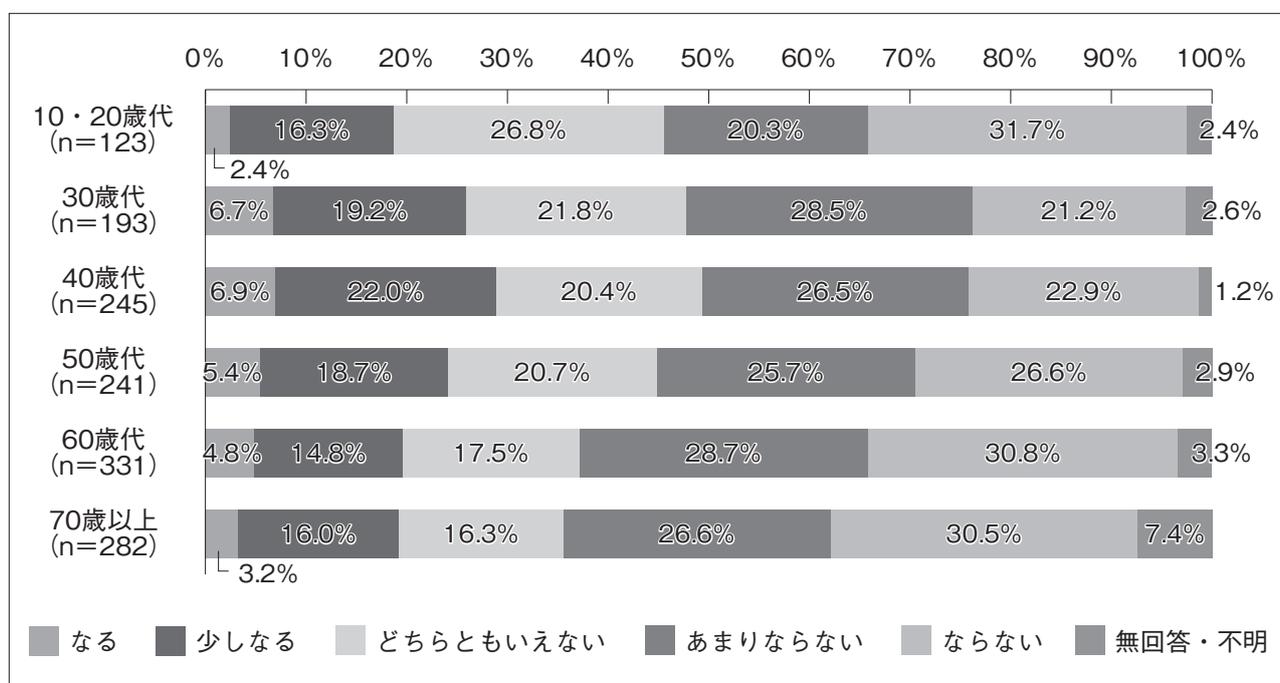


表2-38によれば、障がい者に対して不安を感じるのは、男女間に大きな差異はありませんが、年代別には30歳代から50歳代に、他の年代と比べて強く見られる傾向があります。障がい者を不安に思う傾向に対しては、「障がい者との共生・協働」について、より一層の人権啓発が必要になります。

15 同和地区出身者に対して

表2-39

		回答者数	なる	少しなる	どちらともいえない	あまりならない	ならない	無回答・不明
市 全 体		1,415 100.0%	37 2.6%	64 4.5%	225 15.9%	329 23.3%	707 50.0%	53 3.7%
性 別	男 性	530 100.0%	16 3.0%	29 5.5%	95 17.9%	122 23.0%	251 47.4%	17 3.2%
	女 性	885 100.0%	21 2.4%	35 4.0%	130 14.7%	207 23.4%	456 51.5%	36 4.1%
年 齢 別	10 歳 代	123 100.0%	1 0.8%	0 0.0%	29 23.6%	15 12.2%	76 61.8%	2 1.6%
	20 歳 代	193 100.0%	2 1.0%	6 3.1%	30 15.5%	54 28.0%	96 49.7%	5 2.6%
	30 歳 代	245 100.0%	6 2.4%	14 5.7%	38 15.5%	47 19.2%	136 55.5%	4 1.6%
	40 歳 代	241 100.0%	6 2.5%	13 5.4%	37 15.4%	55 22.8%	121 50.2%	9 3.7%
	50 歳 代	331 100.0%	15 4.5%	18 5.4%	48 14.5%	84 25.4%	155 46.8%	11 3.3%
	60 歳 代	282 100.0%	7 2.5%	13 4.6%	43 15.2%	74 26.2%	123 43.6%	22 7.8%

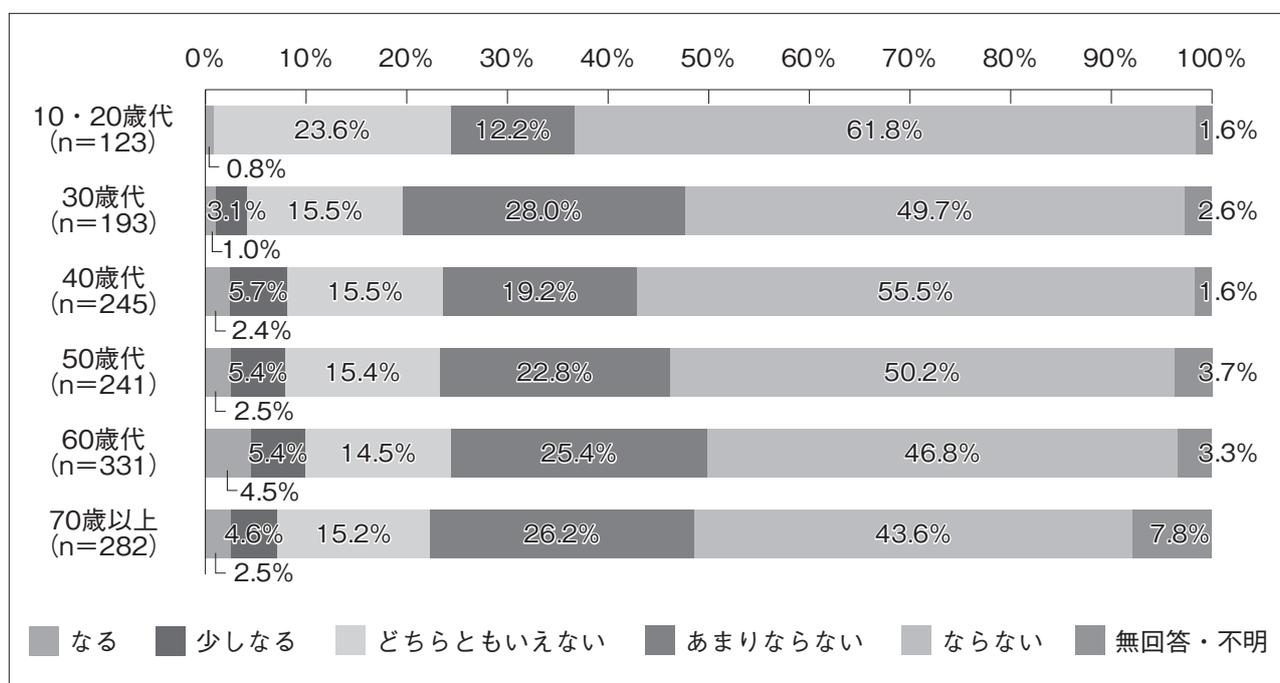


表2-39によれば、職場で同和地区出身者と共に働くことについては、全体的に大きな不安を持たないことがわかります。ただ、数値は全体的に低いのですが、40歳代から60歳代の間に、他の年代よりも、不安を感じる人がやや多くなることがわかります。

16 外国人に対して

表2-40

		回答者数	なる	少しなる	どちらともいえない	あまりならない	ならない	無回答・不明
市全体		1,415 100.0%	71 5.0%	209 14.8%	264 18.7%	358 25.3%	467 33.0%	46 3.3%
性別	男性	530 100.0%	24 4.5%	85 16.0%	114 21.5%	116 21.9%	177 33.4%	14 2.6%
	女性	885 100.0%	47 5.3%	124 14.0%	150 16.9%	242 27.3%	290 32.8%	32 3.6%
年齢別	10歳代	123 100.0%	2 1.6%	19 15.4%	24 19.5%	24 19.5%	53 43.1%	1 0.8%
	20歳代	193 100.0%	7 3.6%	35 18.1%	34 17.6%	48 24.9%	63 32.6%	6 3.1%
	30歳代	245 100.0%	9 3.7%	44 18.0%	41 16.7%	58 23.7%	89 36.3%	4 1.6%
	40歳代	241 100.0%	14 5.8%	35 14.5%	39 16.2%	71 29.5%	74 30.7%	8 3.3%
	50歳代	331 100.0%	21 6.3%	44 13.3%	62 18.7%	88 26.6%	107 32.3%	9 2.7%
	60歳代	282 100.0%	18 6.4%	32 11.3%	64 22.7%	69 24.5%	81 28.7%	18 6.4%

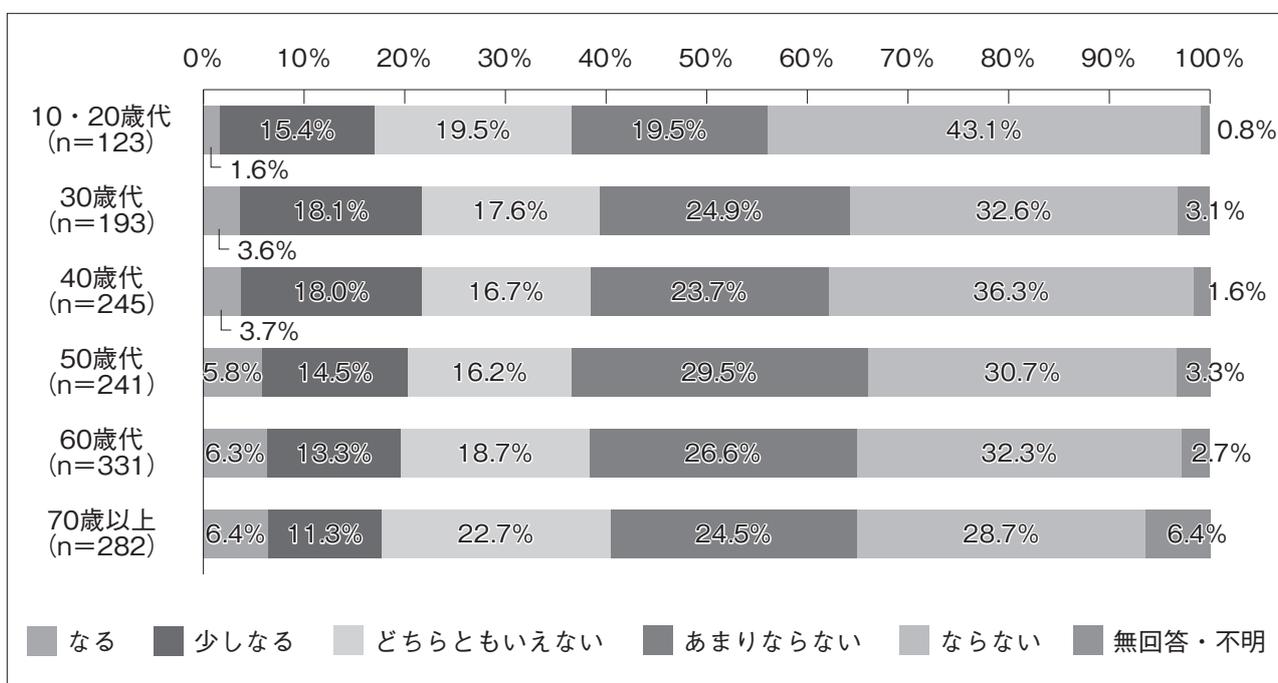


表2-40によれば、外国人が職場にいることに対して不安を感じる人は、男女間、年代間に大きな差異がありません。ただ、年代が進むと不安に思う人の比率が微増する傾向が見られます。

17 ハンセン病回復者に対して

表2-41

		回答者数	なる	少しなる	どちらともいえない	あまりならない	ならない	無回答・不明
市 全 体		1,415 100.0%	87 6.1%	176 12.4%	369 26.1%	297 21.0%	434 30.7%	52 3.7%
性 別	男 性	530 100.0%	34 6.4%	71 13.4%	141 26.6%	114 21.5%	154 29.1%	16 3.0%
	女 性	885 100.0%	53 6.0%	105 11.9%	228 25.8%	183 20.7%	280 31.6%	36 4.1%
年 齢 別	10 歳 代	123 100.0%	3 2.4%	10 8.1%	44 35.8%	13 10.6%	51 41.5%	2 1.6%
	20 歳 代	193 100.0%	13 6.7%	24 12.4%	55 28.5%	35 18.1%	62 32.1%	4 2.1%
	30 歳 代	245 100.0%	14 5.7%	29 11.8%	71 29.0%	42 17.1%	84 34.3%	5 2.0%
	40 歳 代	241 100.0%	16 6.6%	29 12.0%	58 24.1%	57 23.7%	72 29.9%	9 3.7%
	50 歳 代	331 100.0%	24 7.3%	51 15.4%	70 21.1%	82 24.8%	93 28.1%	11 3.3%
	60 歳 代	282 100.0%	17 6.0%	33 11.7%	71 25.2%	68 24.1%	72 25.5%	21 7.4%
	70歳以上							

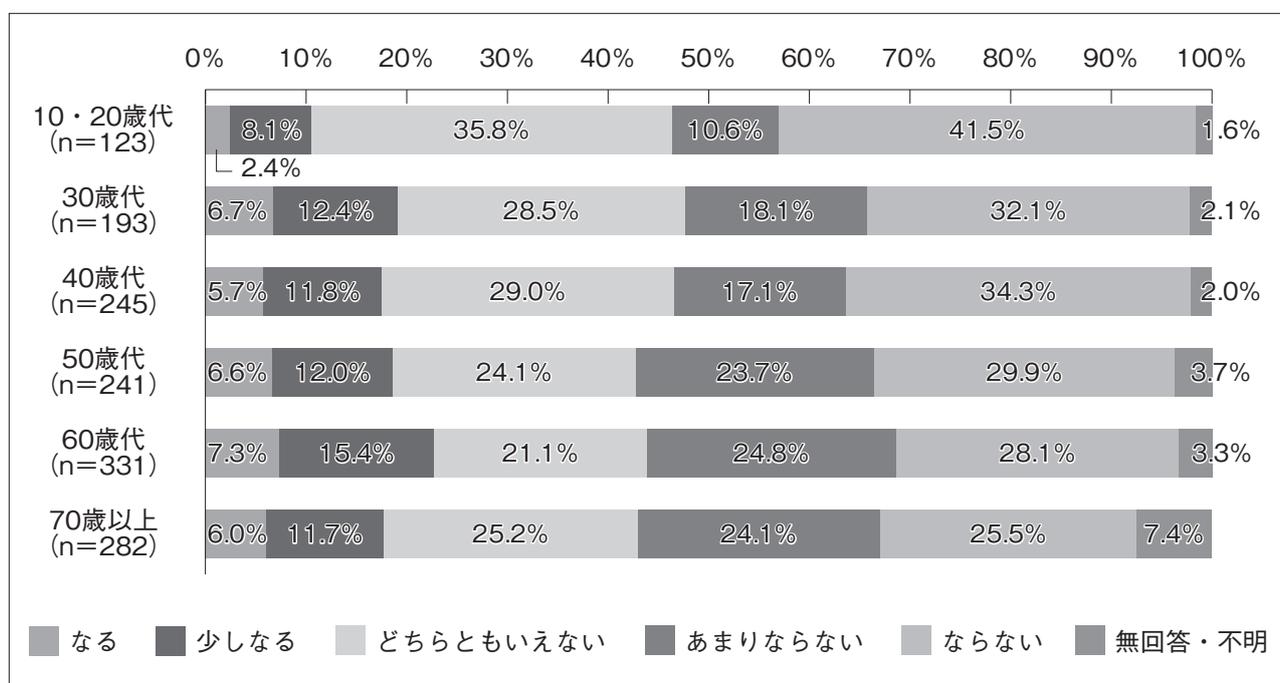


表2-41によれば、ハンセン病回復者が職場にいることに対して不安に思う人については、男女差がほとんど見られません。年代別にみると、10歳代・20歳代では、不安感を持つ人が少ないのに対して、30歳代以上になると、10～20歳代の約2倍の比率で不安に思う人がいます。

18 HIV感染者に対して

表2-42

		回答者数	なる	少しなる	どちらともいえない	あまりならない	ならない	無回答・不明
市全体		1,415 100.0%	254 18.0%	303 21.4%	356 25.2%	226 16.0%	227 16.0%	49 3.5%
性別	男性	530 100.0%	100 18.9%	110 20.8%	132 24.9%	87 16.4%	85 16.0%	16 3.0%
	女性	885 100.0%	154 17.4%	193 21.8%	224 25.3%	139 15.7%	142 16.0%	33 3.7%
年齢別	10歳代	123 100.0%	12 9.8%	19 15.4%	35 28.5%	18 14.6%	37 30.1%	2 1.6%
	20歳代	193 100.0%	29 15.0%	36 18.7%	52 26.9%	29 15.0%	43 22.3%	4 2.1%
	30歳代	245 100.0%	46 18.8%	48 19.6%	64 26.1%	42 17.1%	42 17.1%	3 1.2%
	40歳代	241 100.0%	43 17.8%	60 24.9%	58 24.1%	38 15.8%	33 13.7%	9 3.7%
	50歳代	331 100.0%	71 21.5%	84 25.4%	71 21.5%	57 17.2%	37 11.2%	11 3.3%
	60歳代	282 100.0%	53 18.8%	56 19.9%	76 27.0%	42 14.9%	35 12.4%	20 7.1%
	70歳以上							

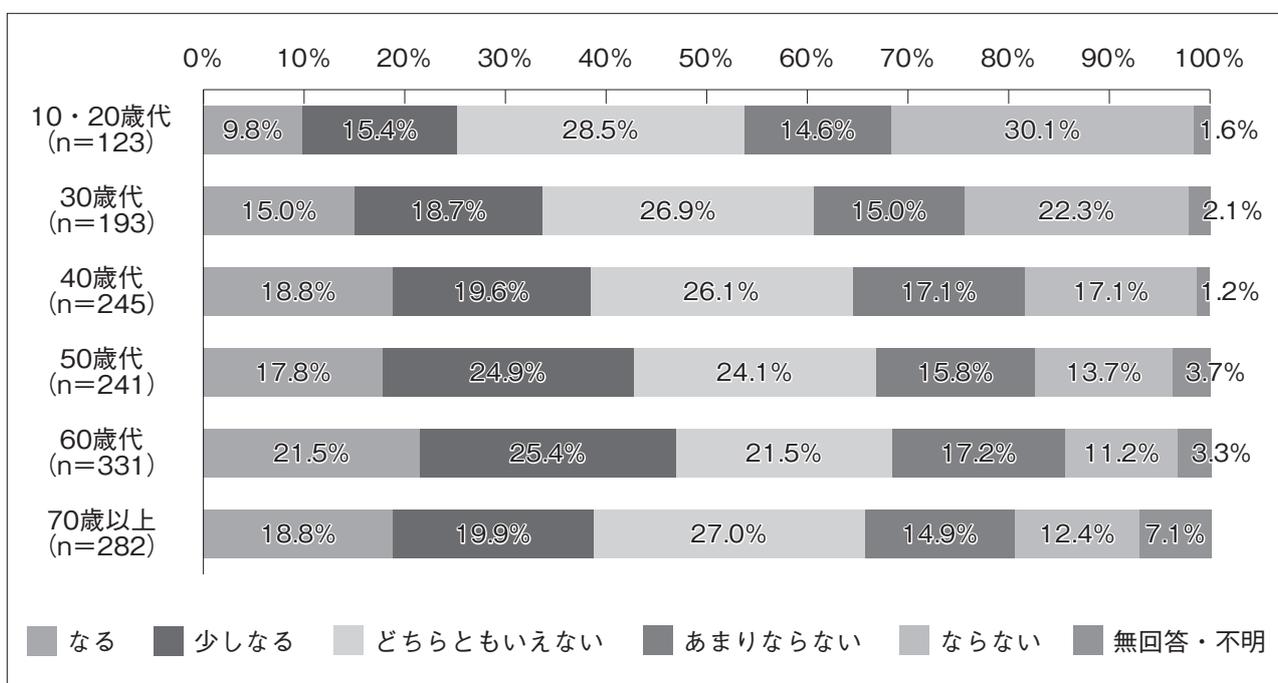


表2-42によれば、HIV感染者が職場を共にすることに対しては、39.4%とかなり多くの人たちが不安に「なる」「少しなる」と回答していますが、10歳代・20歳代のみ、この傾向とは異なる数値になります。ハンセン病に対する感じ方とほぼ同様の側面がうかがえます。

若い年代ほど正確な知識を学習していますが、これが数値に表れたのではないかと考えられます。

19 刑を終えて出所した人に対して

表2-43

		回答者数	なる	少しなる	どちらともいえない	あまりならない	ならない	無回答・不明
市 全 体		1,415 100.0%	372 26.3%	376 26.6%	307 21.7%	168 11.9%	148 10.5%	44 3.1%
性 別	男 性	530 100.0%	124 23.4%	137 25.8%	106 20.0%	76 14.3%	75 14.2%	12 2.3%
	女 性	885 100.0%	248 28.0%	239 27.0%	201 22.7%	92 10.4%	73 8.2%	32 3.6%
年 齢 別	10 歳 代	123 100.0%	37 30.1%	37 30.1%	15 12.2%	11 8.9%	22 17.9%	1 0.8%
	20 歳 代	193 100.0%	70 36.3%	51 26.4%	34 17.6%	18 9.3%	16 8.3%	4 2.1%
	30 歳 代	245 100.0%	84 34.3%	71 29.0%	48 19.6%	22 9.0%	17 6.9%	3 1.2%
	40 歳 代	241 100.0%	71 29.5%	58 24.1%	58 24.1%	22 9.1%	24 10.0%	8 3.3%
	50 歳 代	331 100.0%	71 21.5%	94 28.4%	75 22.7%	47 14.2%	35 10.6%	9 2.7%
	60 歳 代	282 100.0%	39 13.8%	65 23.0%	77 27.3%	48 17.0%	34 12.1%	19 6.7%
	70歳以上							

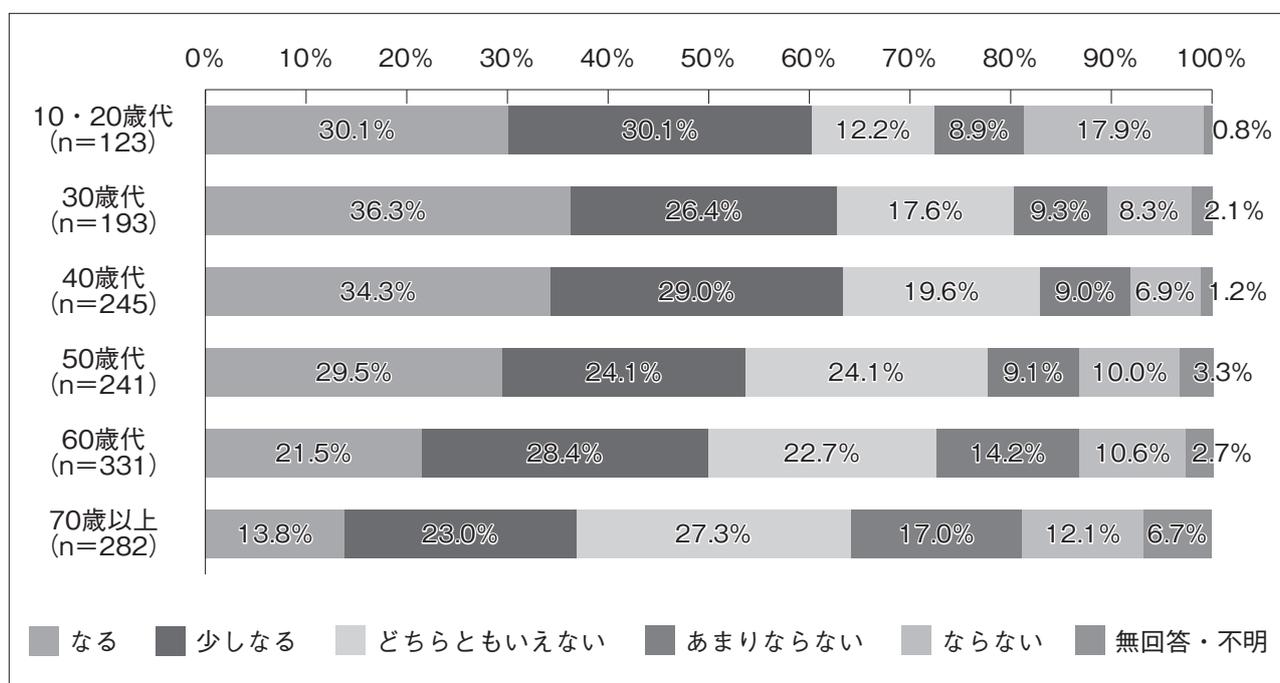


表2-43によれば、刑期を終えて出所した人が職場で仕事を共にする場合の不安感は、「なる」「少しなる」と答えた人の比率の合計が52.9%に達します。傾向としては男性よりも女性に、60歳代以上よりも40歳代以下に、より顕著なことがわかります。

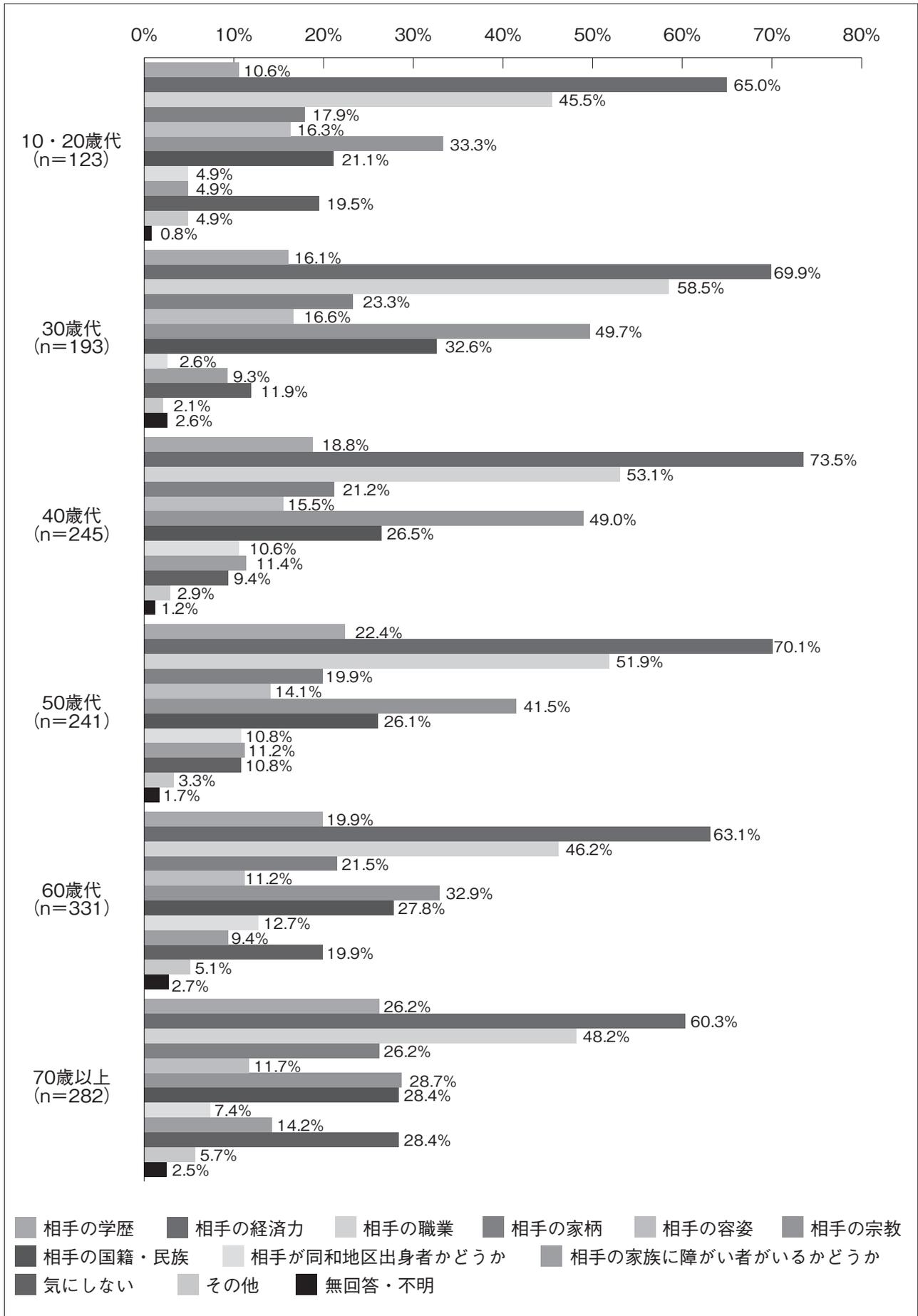
20 自分の子どもの結婚相手を考える際の人権意識

問9 あなたのお子さんの結婚相手を考える際、相手の人柄や性格以外で、気になること（気になったこと）をお答えください。（○はいくつでも）

※お子さんがいない場合は、いると仮定してお答えください。

表2-44

		回 答 者 数	相 手 の 学 歴	相 手 の 経 済 力	相 手 の 職 業	相 手 の 家 柄	相 手 の 容 姿	相 手 の 宗 教	相 手 の 国 籍 ・ 民 族	相 手 が 同 和 地 区 出 身 者 か ど う か	相 手 の 家 族 に 障 が い る か ど う か	気 に し な い	そ の 他	無 回 答 ・ 不 明
市 全 体		1,415 100.0% (100.0)	284 20.1% (21.5)	943 66.6% (60.1)	713 50.4% (44.5)	312 22.0% (27.1)	194 13.7% (13.2)	547 38.7% (31.8)	389 27.5% (23.8)	126 8.9% (10.0)	150 10.6% (12.8)	242 17.1% (21.5)	58 4.1% (3.4)	29 2.0%
性 別	男 性	530 100.0% (100.0)	100 18.9% (20.1)	331 62.5% (45.2)	249 47.0% (36.6)	111 20.9% (21.5)	91 17.2% (17.0)	161 30.4% (30.9)	158 29.8% (25.9)	59 11.1% (10.6)	52 9.8% (11.7)	112 21.1% (27.9)	23 4.3% (2.3)	9 1.7%
	女 性	885 100.0% (100.0)	184 20.8% (22.4)	612 69.2% (70.4)	464 52.4% (50.0)	201 22.7% (31.0)	103 11.6% (10.6)	386 43.6% (32.5)	231 26.1% (22.3)	67 7.6% (9.5)	98 11.1% (13.6)	130 14.7% (17.0)	35 4.0% (4.2)	20 2.3%
年 齢 別	10 歳 代 20 歳 代	123 100.0% (100.0)	13 10.6% (16.1)	80 65.0% (70.2)	56 45.5% (54.0)	22 17.9% (35.4)	20 16.3% (14.9)	41 33.3% (31.7)	26 21.1% (19.9)	6 4.9% (5.6)	6 4.9% (13.0)	24 19.5% (16.8)	6 4.9% (2.5)	1 0.8%
	30 歳 代	193 100.0% (100.0)	31 16.1% (16.4)	135 69.9% (63.7)	113 58.5% (45.0)	45 23.3% (28.6)	32 16.6% (13.4)	96 49.7% (42.4)	63 32.6% (23.3)	5 2.6% (8.4)	18 9.3% (14.9)	23 11.9% (16.8)	4 2.1% (2.3)	5 2.6%
	40 歳 代	245 100.0% (100.0)	46 18.8% (17.5)	180 73.5% (65.5)	130 53.1% (45.4)	52 21.2% (21.8)	38 15.5% (14.0)	120 49.0% (32.8)	65 26.5% (18.8)	26 10.6% (5.7)	28 11.4% (9.2)	23 9.4% (16.6)	7 2.9% (5.7)	3 1.2%
	50 歳 代	241 100.0% (100.0)	54 22.4% (20.3)	169 70.1% (61.6)	125 51.9% (36.8)	48 19.9% (22.2)	34 14.1% (11.1)	100 41.5% (31.4)	63 26.1% (22.5)	26 10.8% (13.3)	27 11.2% (14.0)	26 10.8% (21.0)	8 3.3% (3.2)	4 1.7%
	60 歳 代	331 100.0% (100.0)	66 19.9% (23.4)	209 63.1% (52.6)	153 46.2% (46.4)	71 21.5% (27.7)	37 11.2% (9.3)	109 32.9% (32.1)	92 27.8% (24.0)	42 12.7% (12.8)	31 9.4% (13.1)	66 19.9% (25.5)	17 5.1% (4.7)	9 2.7%
	70歳以上	282 100.0% (100.0)	74 26.2% (31.2)	170 60.3% (53.4)	136 48.2% (44.2)	74 26.2% (29.8)	33 11.7% (18.2)	81 28.7% (21.9)	80 28.4% (31.5)	21 7.4% (10.6)	40 14.2% (12.3)	80 28.4% (28.1)	16 5.7% (2.1)	7 2.5%



結婚は、人生の大きなイベントの一つと言えますが、相手をどのように迎えるかをめぐって、人権問題が関わる場合も生じます。「あなたのお子さんの結婚相手を考える際」という前提で尋ねた結果を見ていきましょう。

表2-44によれば、前回調査と比較して、「相手の家柄」を気にするとした回答は低下しています。ごく僅かですが改善に向かっている項目に「相手の学歴」「相手が同和地区出身者かどうか」「相手の家族に障がい者がいるかどうか」が挙げられます。逆に気になる方向に変わったのは、「相手の経済力」「相手の職業」「相手の宗教」の3項目です。

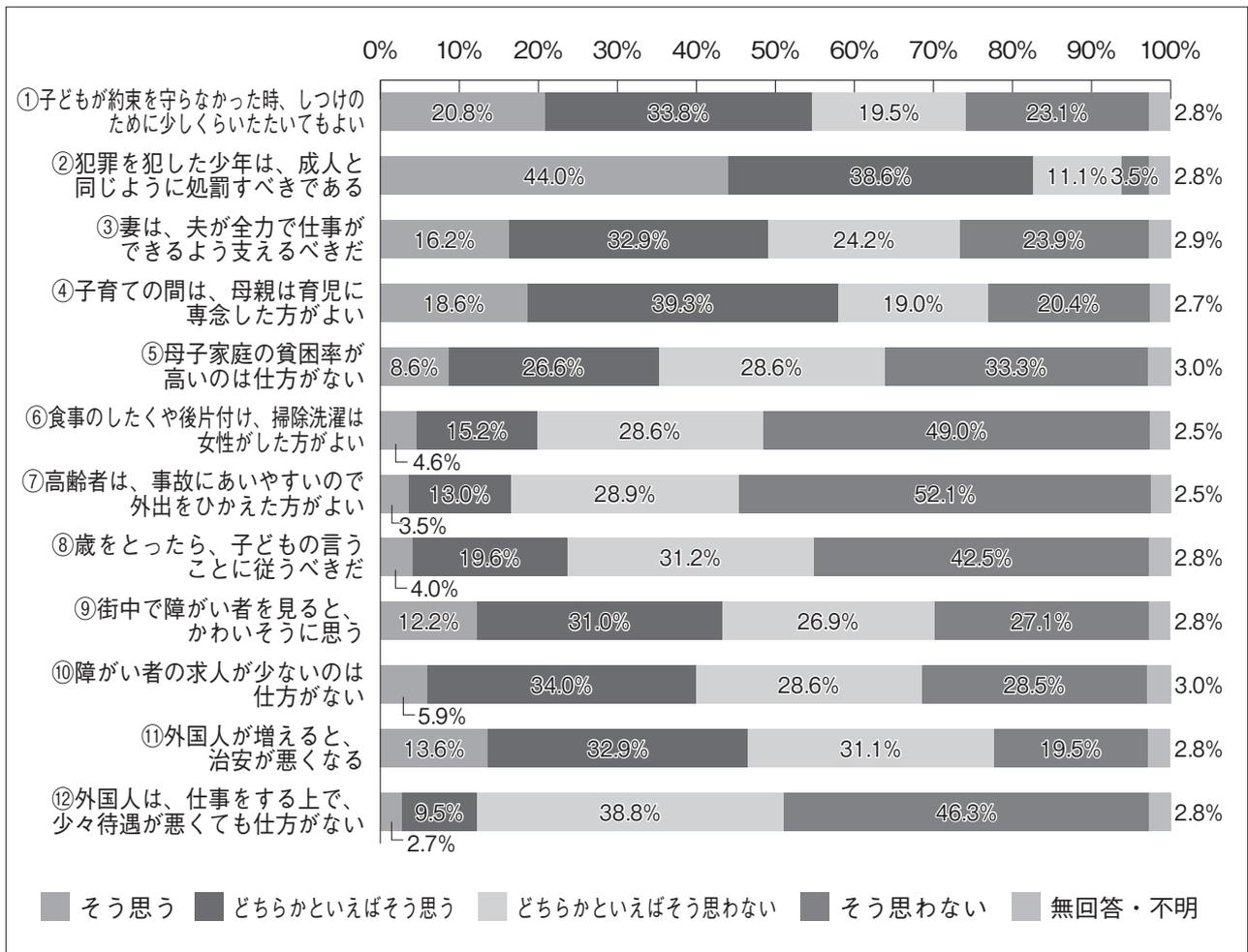
性別に見ると、男女間で差があるのは、「相手の経済力」男性62.5%女性69.2%、「相手の職業」男性47.0%女性52.4%、「相手の容姿」男性17.2%女性11.6%、「相手の宗教」男性30.4%女性43.6%の4項目です。

21 日常生活の場面における人権意識

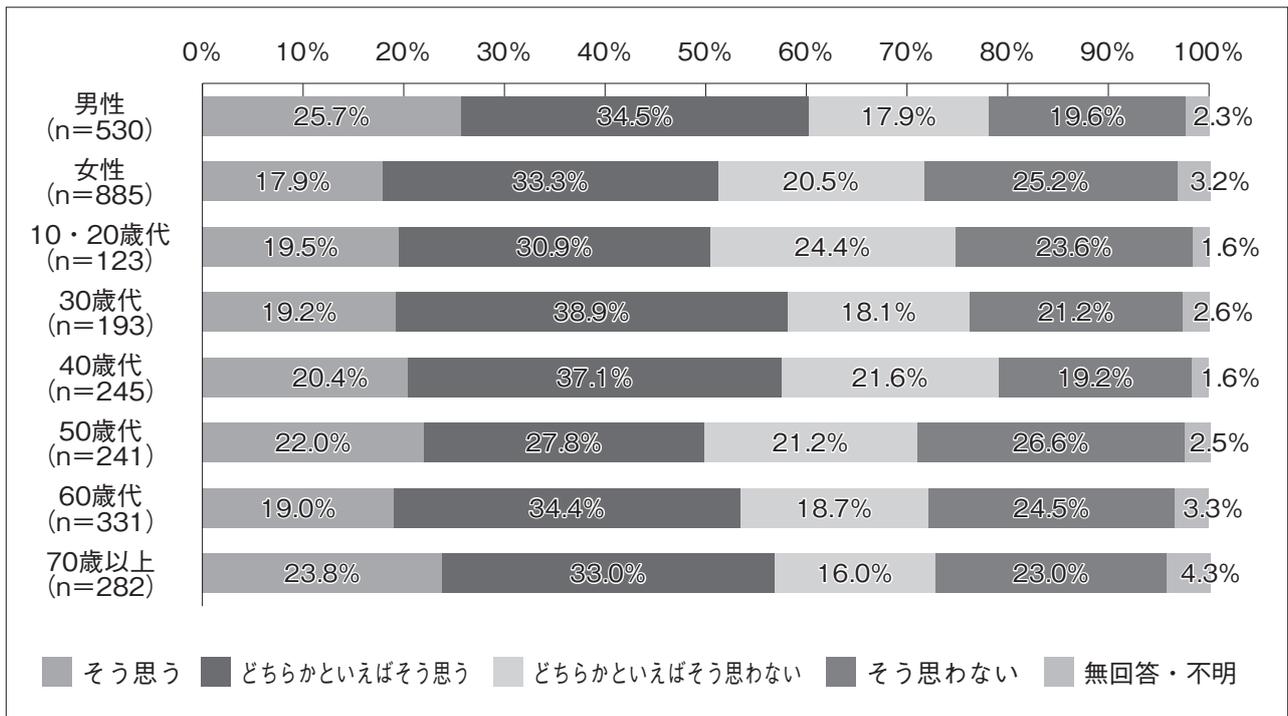
問8 次の①～⑫の考え方や行為について、あなたはどのように思いますか。(○はそれぞれ1つ)

表2-45

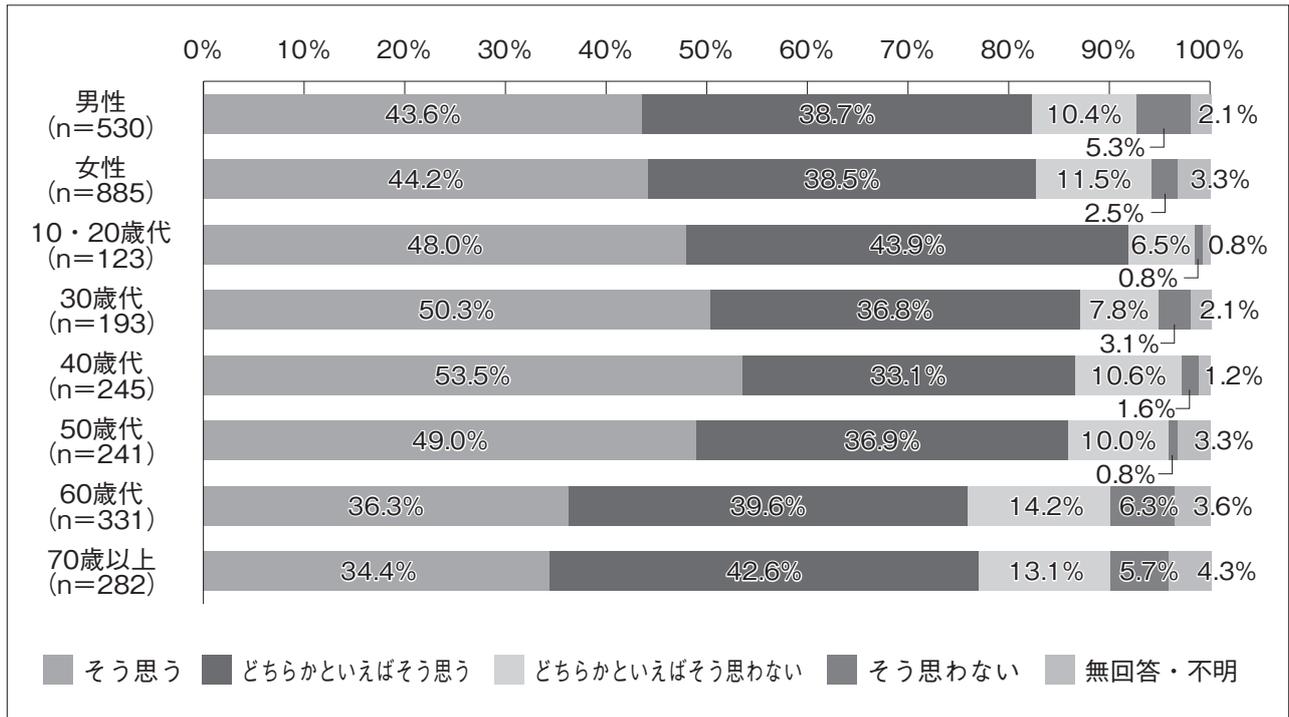
	回答者数	そう思う	どちらか といえば そう思う	どちらか といえば そう思わ ない	そう思わ ない	無回答・ 不明
①子どもが約束を守らなかった時、しつけのために少しくらいたたいてもよい	1,415 100.0% (100.0)	294 20.8% (29.5)	478 33.8% (34.3)	276 19.5% (15.1)	327 23.1% (16.5)	40 2.8% (4.6)
②犯罪を犯した少年は、成人と同じように処罰すべきである	1,415 100.0% (100.0)	622 44.0% (35.8)	546 38.6% (36.7)	157 11.1% (17.3)	50 3.5% (5.0)	40 2.8% (5.2)
③妻は、夫が全力で仕事ができるよう支えるべきだ	1,415 100.0% (100.0)	229 16.2% (21.5)	465 32.9% (42.1)	342 24.2% (17.9)	338 23.9% (13.8)	41 2.9% (4.7)
④子育ての間は、母親は育児に専念した方がよい	1,415 100.0% (100.0)	263 18.6% (26.3)	556 39.3% (37.2)	269 19.0% (17.3)	289 20.4% (14.7)	38 2.7% (4.5)
⑤母子家庭の貧困率が高いのは仕方がない	1,415 100.0% (100.0)	122 8.6% (8.6)	376 26.6% (26.6)	404 28.6% (28.6)	471 33.3% (33.3)	42 3.0% (3.0)
⑥食事のしたくや後片付け、掃除洗濯は女性がした方がよい	1,415 100.0% (100.0)	65 4.6% (4.6)	215 15.2% (15.2)	405 28.6% (28.6)	694 49.0% (49.0)	36 2.5% (2.5)
⑦高齢者は、事故にあいやすいので外出をひかえた方がよい	1,415 100.0% (100.0)	50 3.5% (4.1)	184 13.0% (15.1)	409 28.9% (27.7)	737 52.1% (48.7)	35 2.5% (4.4)
⑧歳をとったら、子どもの言うことに従うべきだ	1,415 100.0% (100.0)	57 4.0% (5.3)	277 19.6% (21.3)	441 31.2% (28.5)	601 42.5% (40.1)	39 2.8% (4.9)
⑨街中で障がい者を見ると、かわいそうに思う	1,415 100.0% (100.0)	172 12.2% (13.7)	439 31.0% (30.6)	381 26.9% (23.5)	383 27.1% (27.2)	40 2.8% (4.9)
⑩障がい者の求人が少ないのは仕方がない	1,415 100.0% (100.0)	83 5.9% (5.9)	481 34.0% (34.0)	405 28.6% (28.6)	403 28.5% (28.5)	43 3.0% (3.0)
⑪外国人が増えると、治安が悪くなる	1,415 100.0% (100.0)	193 13.6% (13.6)	466 32.9% (32.9)	440 31.1% (31.1)	276 19.5% (19.5)	40 2.8% (2.8)
⑫外国人は、仕事をする上で、少々待遇が悪くても仕方がない	1,415 100.0% (100.0)	38 2.7% (3.5)	134 9.5% (9.0)	549 38.8% (34.0)	655 46.3% (48.7)	39 2.8% (4.8)



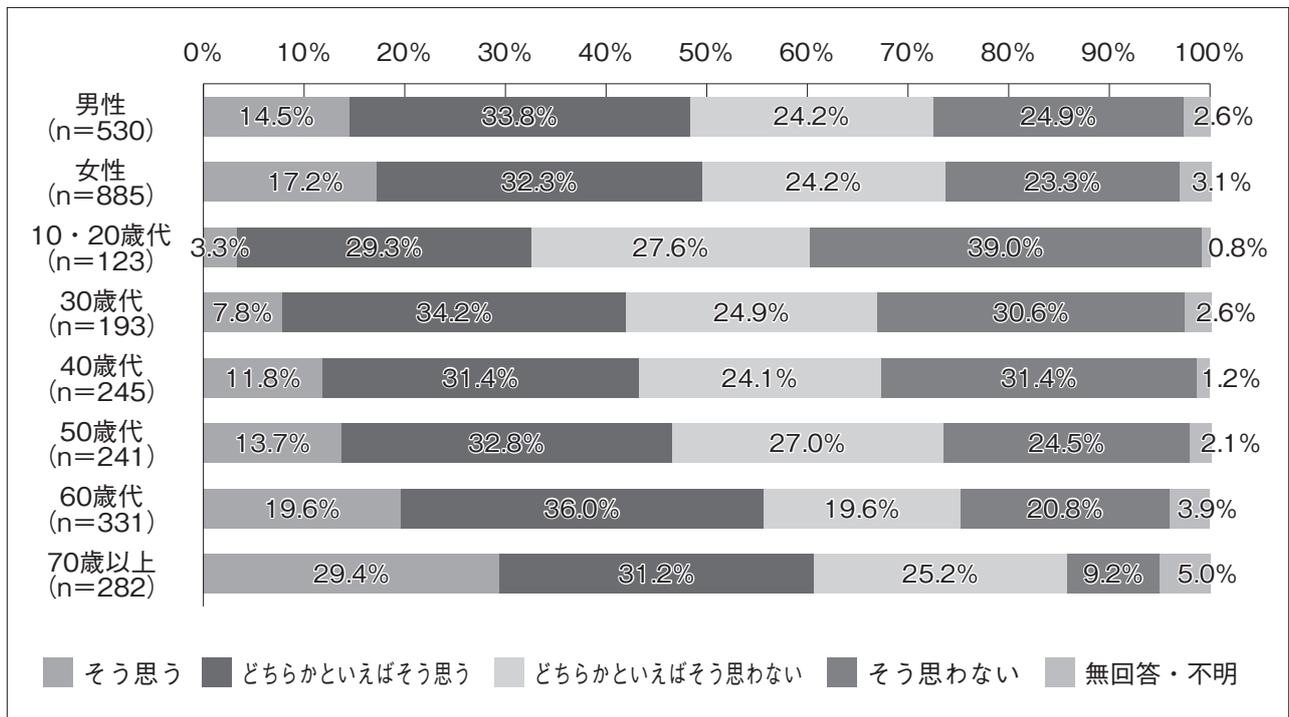
①子どもが約束を守らなかった時、しつけのために少しくらいたたいてもよい



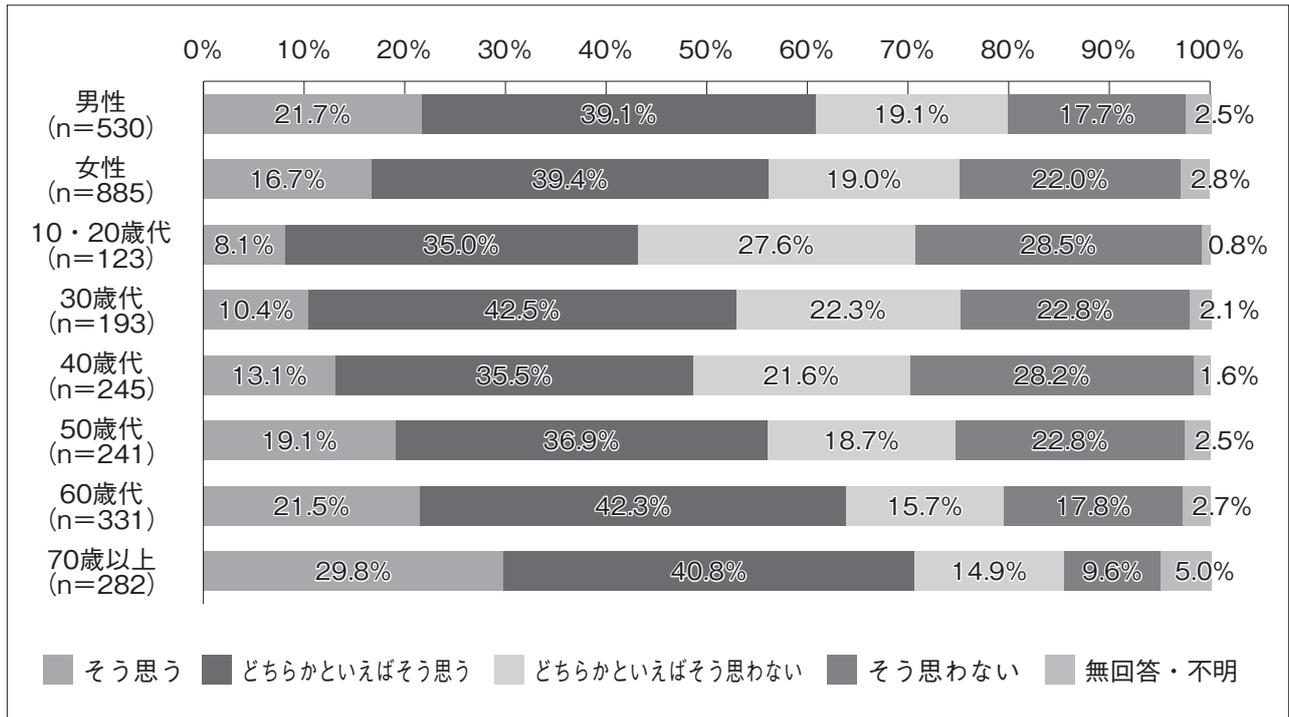
②犯罪を犯した少年は、成人と同じように処罰すべきである



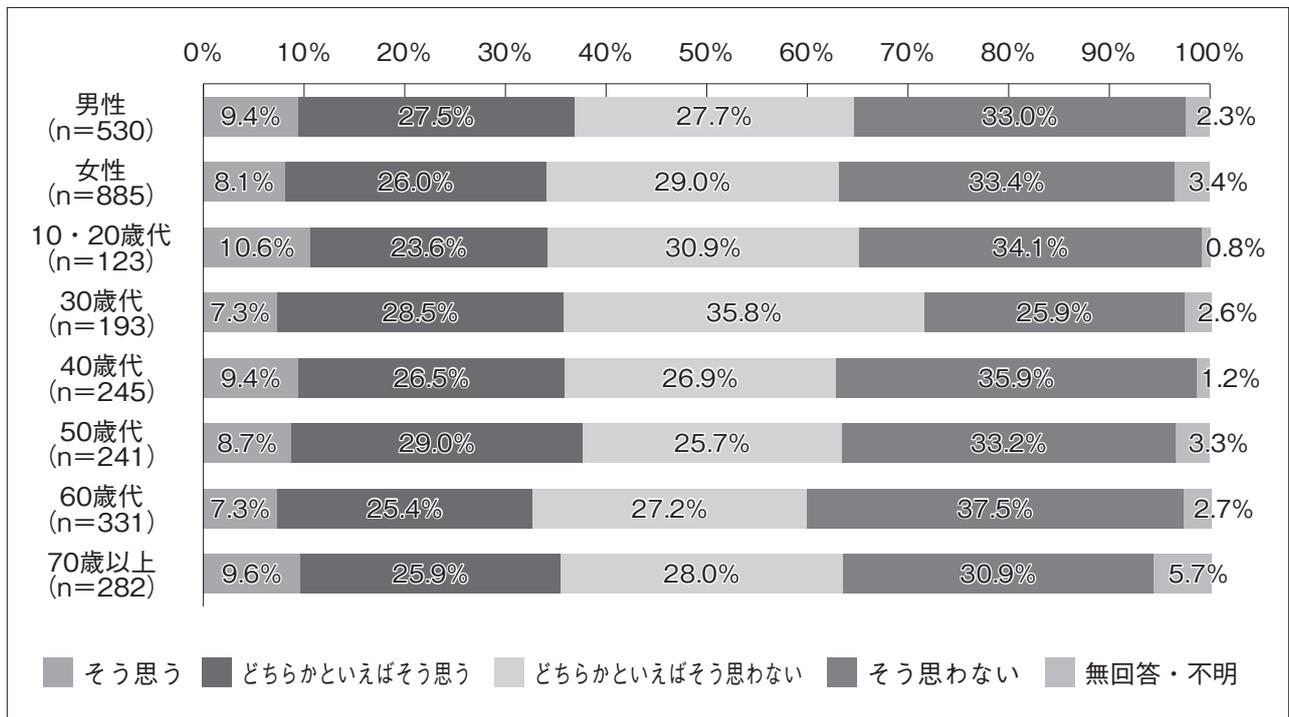
③妻は、夫が全力で仕事ができるよう支えるべきだ



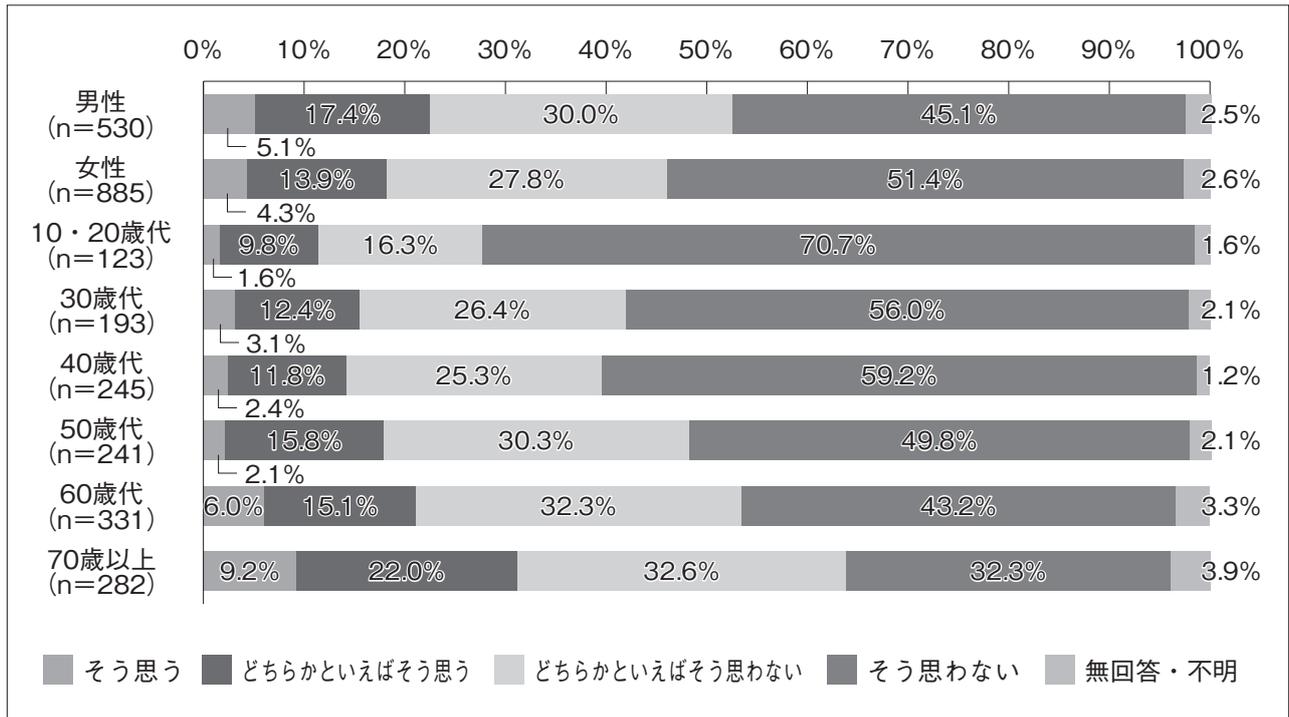
④子育ての間は、母親は育児に専念した方がよい



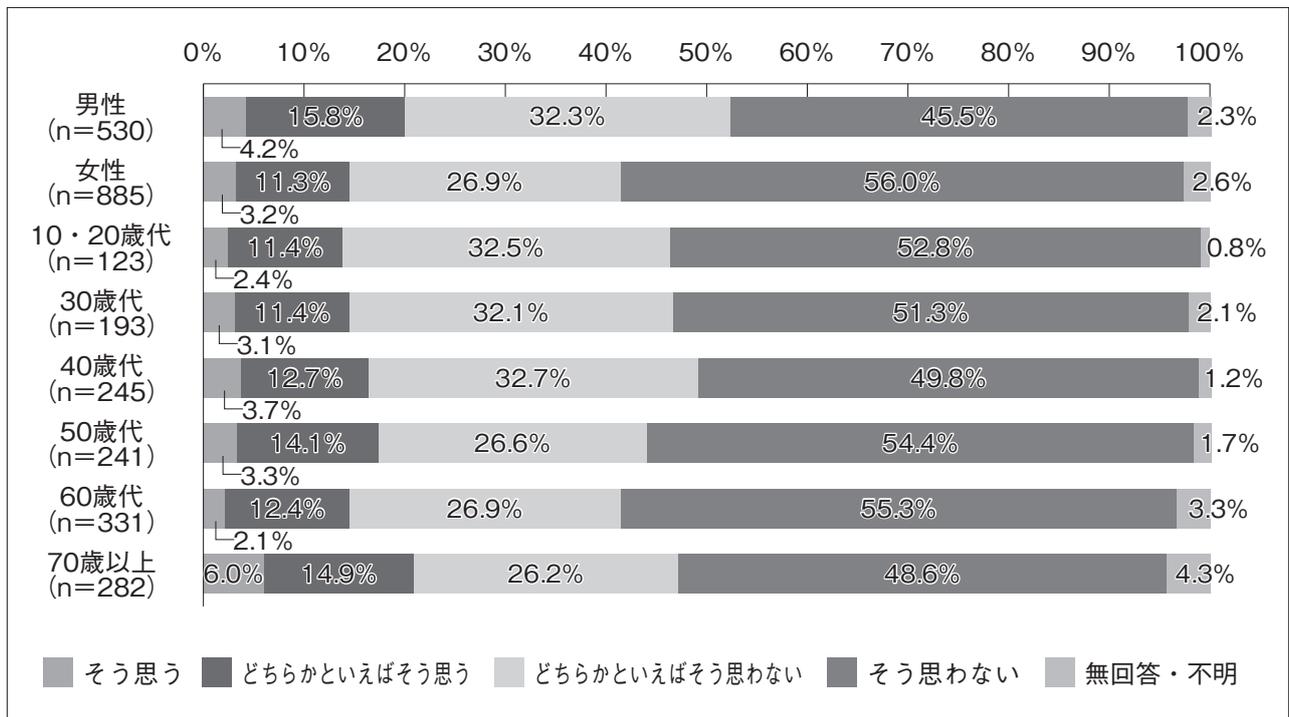
⑤母子家庭の貧困率が高いのは仕方がない



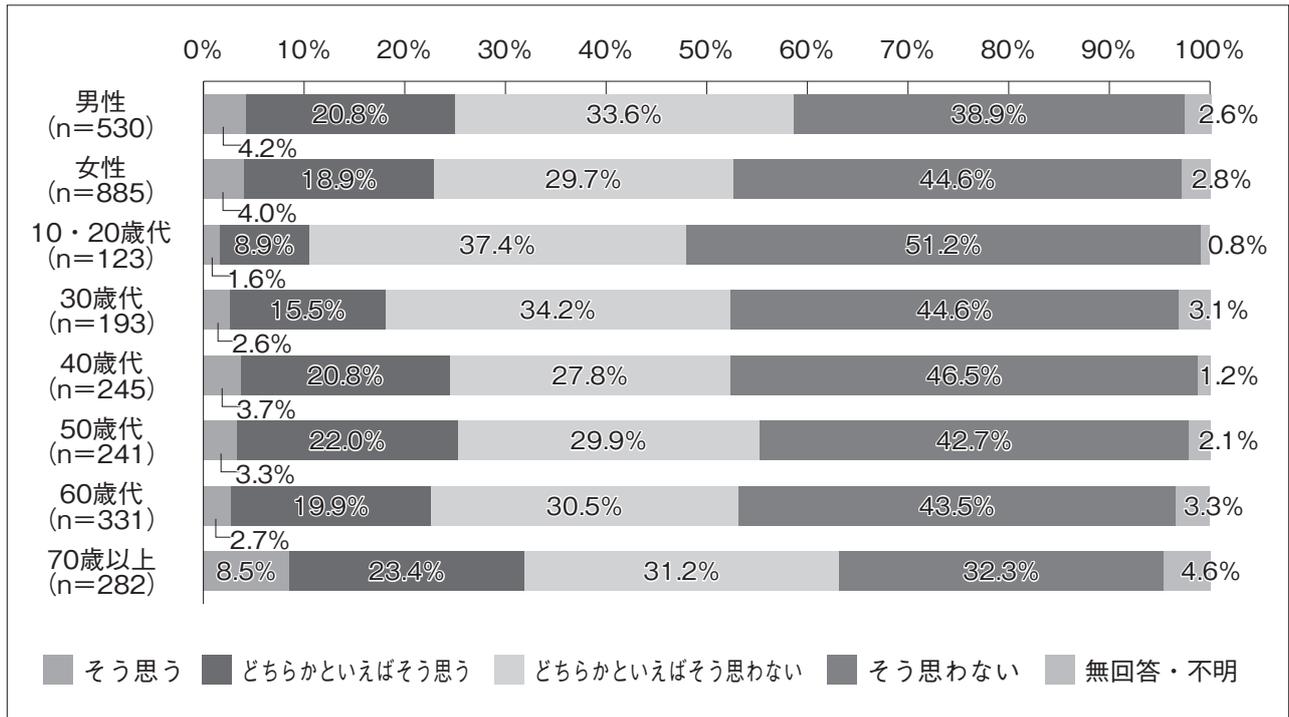
⑥食事のしたくや後片付け、掃除洗濯は女性がした方がよい



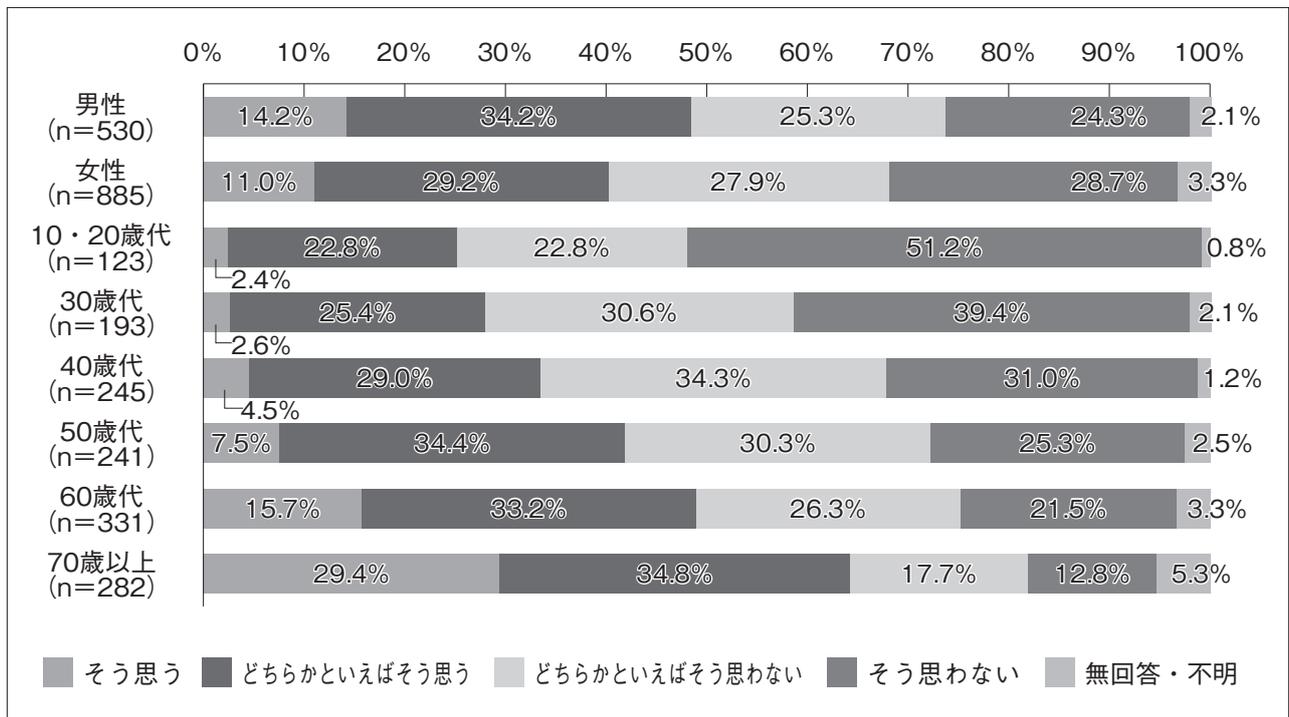
⑦高齢者は、事故にあいやすいので外出をひかえた方がよい



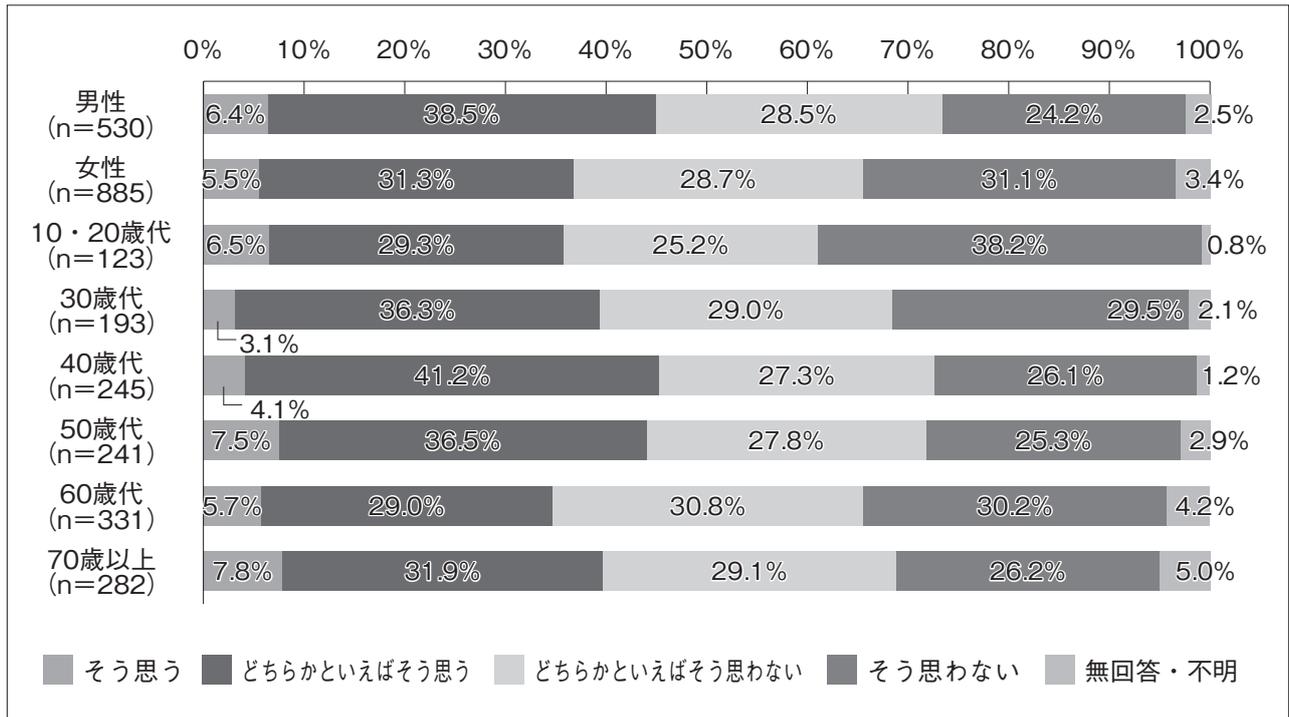
⑧歳をとったら、子どもの言うことに従うべきだ



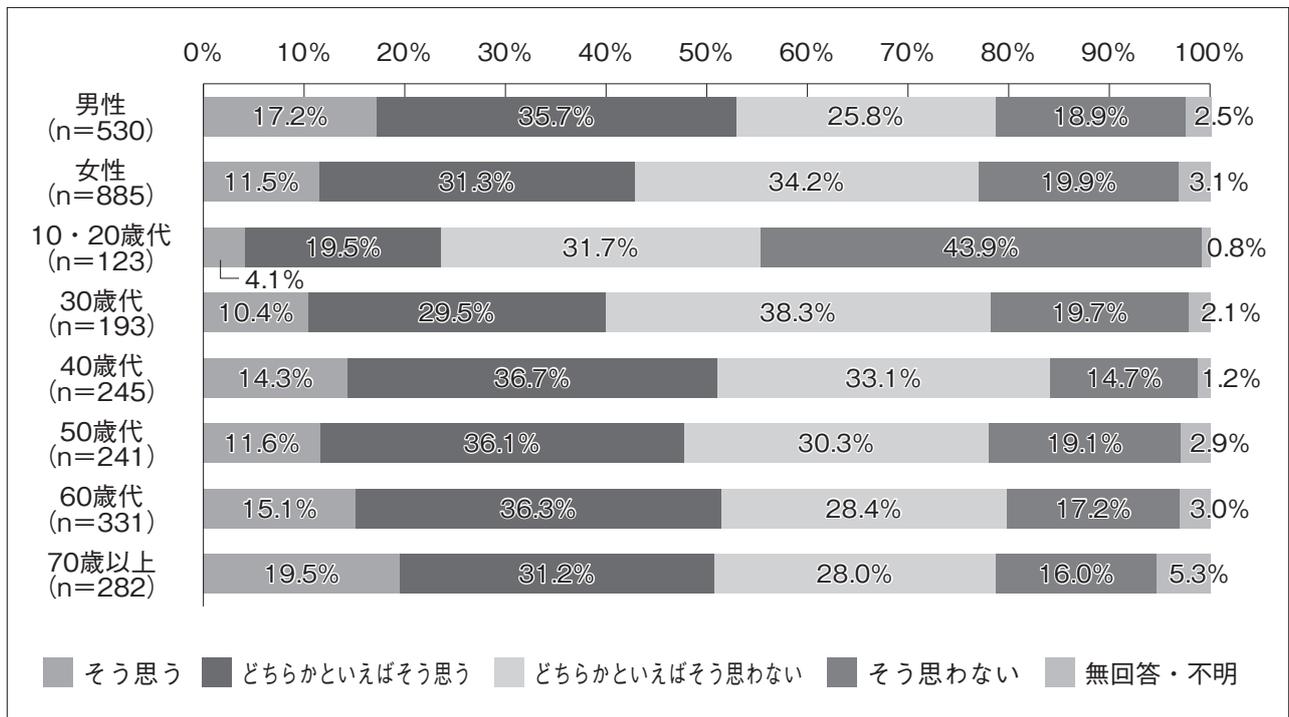
⑨街中で障がい者を見ると、かわいそうに思う



⑩障がい者の求人が少ないのは仕方がない



⑪外国人が増えると、治安が悪くなる



⑫外国人は、仕事をする上で、少々待遇が悪くても仕方がない

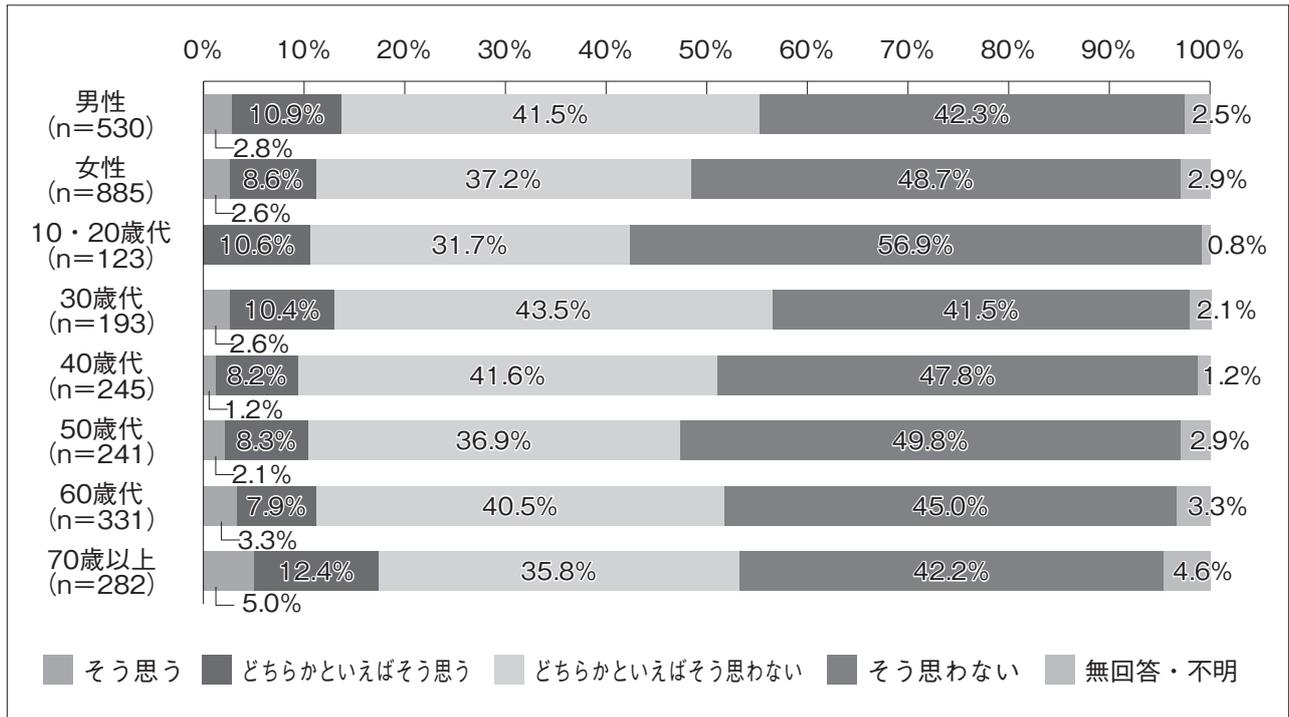


表2-45に、日常場面における態度や行動に対する考え方を尋ねた結果を示します。前回調査と比較して、「そう思う」「どちらかといえばそう思う」と答えた人の比率の合計が「改善方向に変わった」のは、「子どもが約束を守らなかった時、しつけのために少しくらいたたいてもよい」54.6%（前回63.8%）、「妻は、夫が全力で仕事ができるよう支えるべきだ」49.1%（前回63.6%）、「子育ての間は、母親は育児に専念した方がよい」57.9%（前回63.5%）の3項目です。わずかながら改善したものに「高齢者は、事故にあいやすいので外出をひかえた方がよい」「歳をとったら、子どもの言うことに従うべきだ」「街中で障がい者を見ると、かわいそうに思う」などの項目があります。逆に、「問題方向に変わった」と思われるのは、「犯罪を犯した少年は、成人と同じように処罰すべきである」82.6%（前回72.5%）です。「外国人は、仕事をする上で、少々待遇が悪くても仕方がない」とする意見は、そう思わない意見が増え、若干の改善が見られます。総合的に見て、日常生活場面における人権意識は、少しずつ改善していると思われる。

性別にみた場合、差があったのは、「子どもが約束を守らなかった時、しつけのために少しくらいたたいてもよい」男性60.2%、女性51.2%、「高齢者は、事故にあいやすいので外出をひかえた方がよい」男性20.0%、女性14.5%、「街中で障がい者を見ると、かわいそうに思う」男性48.4%、女性40.2%、「障がい者の求人が少ないのは仕方がない」男性44.9%女性36.8%、「外国人が増えると、治安が悪くなる」男性52.9%女性42.8%の5項目です。

年代別にみた場合、差があったのは、「犯罪を犯した少年は、成人と同じように処罰すべきである」60歳以上75.6% 10歳代・20歳代91.9%、「妻は、夫が全力で仕事ができるよう支えるべきだ」70歳以上60.6% 10歳代・20歳代32.6%、「子育ての間は、母親は育児に専念した方がよい」70歳以上70.6% 10歳代・20歳代43.1%、「食事のしたくや後片付け、掃除洗濯は女性がした方がよい」70歳以上31.2% 10歳代・20歳代11.4%、「高齢者は、事故にあいやすいので外出をひかえた方がよい」

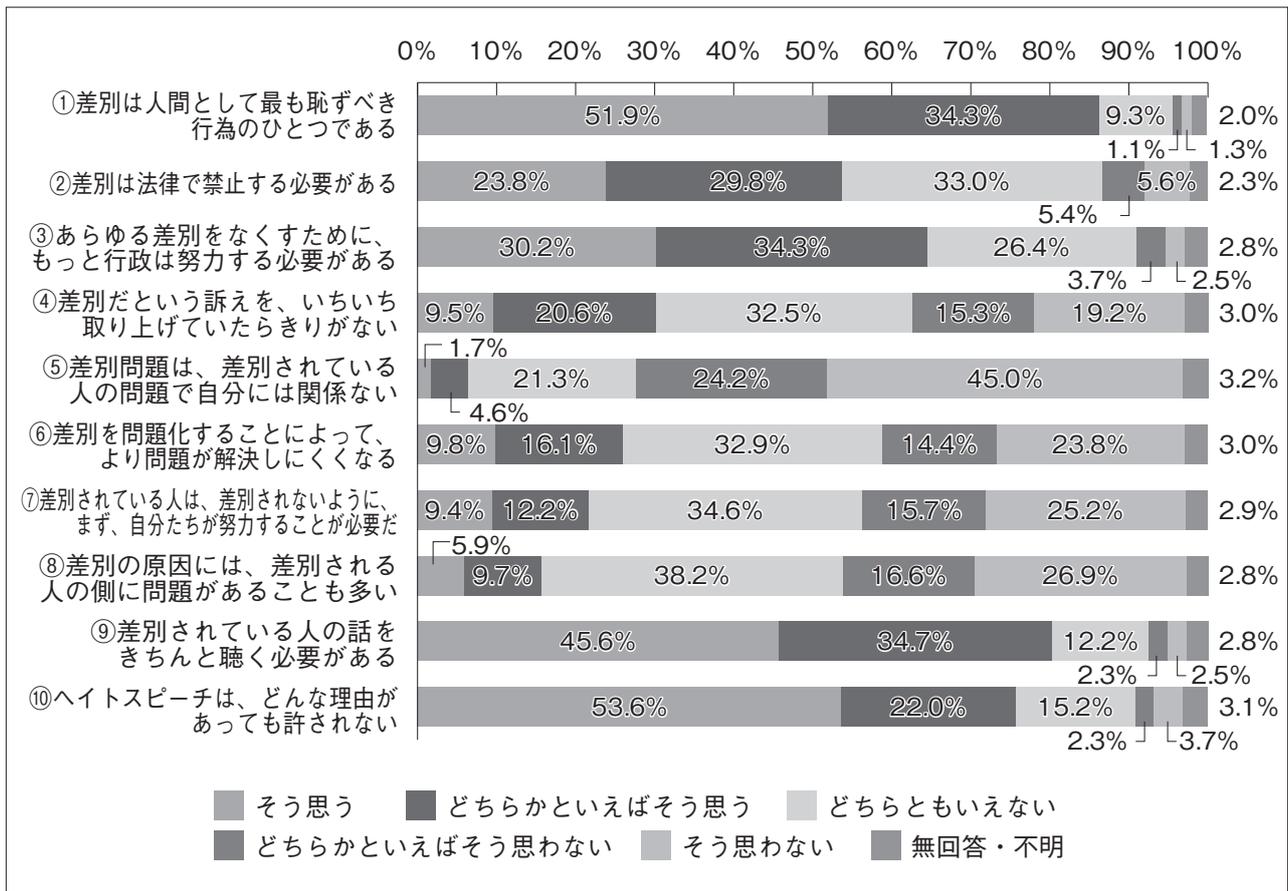
70歳以上 20.9% 10歳代・20歳代 13.8%、「歳をとったら、子どもの言うことに従うべきだ」70歳以上 31.9% 10歳代・20歳代 10.5%、「街中で障がい者を見ると、かわいそうに思う」70歳以上 64.2% 10歳代・20歳代 25.2%、「外国人が増えると、治安が悪くなる」40歳代 51.0% 10歳代・20歳代 23.6%、「外国人は、仕事をする上で、少々待遇が悪くても仕方がない」70歳以上 17.4% 40歳代 9.4%という結果です。

22 「差別」に関する受け止め方

問 13 次のことについて、あなたはどのような考えをお持ちですか。次にあげる①～⑩のすべてについてお答えください。(○はそれぞれ1つ)

表2-46

	回 答 者 数	そ う 思 う	ど ち ら か と い え ば そ う 思 う	ど ち ら と も い え な い	ど ち ら か と い え ば そ う 思 わ な い	そ う 思 わ な い	無 回 答 ・ 不 明
①差別は人間として最も恥ずべき行為のひとつである	1,415 100.0% (100.0)	735 51.9% (54.6)	486 34.3% (31.4)	132 9.3% (8.5)	16 1.1% (1.0)	18 1.3% (1.1)	28 2.0% (3.4)
②差別は法律で禁止する必要がある	1,415 100.0% (100.0)	337 23.8% (22.6)	422 29.8% (24.6)	467 33.0% (33.0)	77 5.4% (6.0)	79 5.6% (8.5)	33 2.3% (5.3)
③あらゆる差別をなくすために、もっと行政は努力する必要がある	1,415 100.0% (100.0)	427 30.2% (28.8)	485 34.3% (34.5)	374 26.4% (23.0)	53 3.7% (3.2)	36 2.5% (5.0)	40 2.8% (5.4)
④差別だという訴えを、いちいち取り上げていたらきりがない	1,415 100.0% (100.0)	134 9.5% (13.0)	292 20.6% (21.2)	460 32.5% (31.9)	216 15.3% (13.5)	271 19.2% (15.2)	42 3.0% (5.2)
⑤差別問題は、差別されている人の問題で自分には関係ない	1,415 100.0% (100.0)	24 1.7% (3.1)	65 4.6% (4.8)	302 21.3% (20.4)	342 24.2% (17.8)	637 45.0% (48.5)	45 3.2% (5.4)
⑥差別を問題化することによって、より問題が解決しにくくなる	1,415 100.0% (100.0)	138 9.8% (12.9)	228 16.1% (17.1)	466 32.9% (30.2)	204 14.4% (13.2)	337 23.8% (20.9)	42 3.0% (5.7)
⑦差別されている人は、差別されないように、まず、自分たちが努力することが必要だ	1,415 100.0% (100.0)	133 9.4% (9.5)	173 12.2% (15.3)	489 34.6% (30.5)	222 15.7% (14.8)	357 25.2% (24.8)	41 2.9% (5.1)
⑧差別の原因には、差別される人の側に問題があることも多い	1,415 100.0% (100.0)	83 5.9% (7.3)	137 9.7% (13.7)	540 38.2% (35.6)	235 16.6% (14.2)	380 26.9% (23.8)	40 2.8% (5.4)
⑨差別されている人の話をきちんと聴く必要がある	1,415 100.0% (100.0)	645 45.6% (45.6)	491 34.7% (34.7)	172 12.2% (12.2)	32 2.3% (2.3)	36 2.5% (2.5)	39 2.8% (2.8)
⑩ヘイトスピーチは、どんな理由があっても許されない	1,415 100.0% (100.0)	758 53.6% (53.6)	312 22.0% (22.0)	215 15.2% (15.2)	33 2.3% (2.3)	53 3.7% (3.7)	44 3.1% (3.1)



市民は、差別についてどのように思っているでしょう。表2-46から探っていきましょう。「差別は人間として最も恥ずべき行為のひとつである」という考えについては、前回調査とほぼ同じ数値が示されます。「差別は法律で禁止する必要がある」という回答は、47.2%から53.6%へと支持する比率を上げています。「あらゆる差別をなくすために、もっと行政は努力する必要がある」とする意見は、前回調査とほぼ同様の数値です。

これに対して、「差別だという訴えを、いちいち取り上げていたらきりがない」と答えた人は、34.2%から30.1%へと少し数値が下がっています。「差別問題は、差別されている人の問題で自分には関係ない」と答えた人も7.9%から6.3%に、わずかですが下がっています。「差別を問題化することによって、より問題が解決しにくくなる」と答えた人も30.0%から25.9%に減っています。さらに「差別されている人は、差別されないように、まず、自分たちが努力することが必要だ」と答えた人は24.8%から21.6%に下がっています。「差別の原因には、差別される人の側に問題があることも多い」と答えた人も21.0%から15.6%に下がっています。また、前回調査にはなかった質問で「差別されている人の話をきちんと聴く必要がある」「ヘイトスピーチは、どんな理由があっても許されない」については、それぞれ80.3%、75.6%の人が「そう思う」「どちらかといえばそう思う」という意見です。

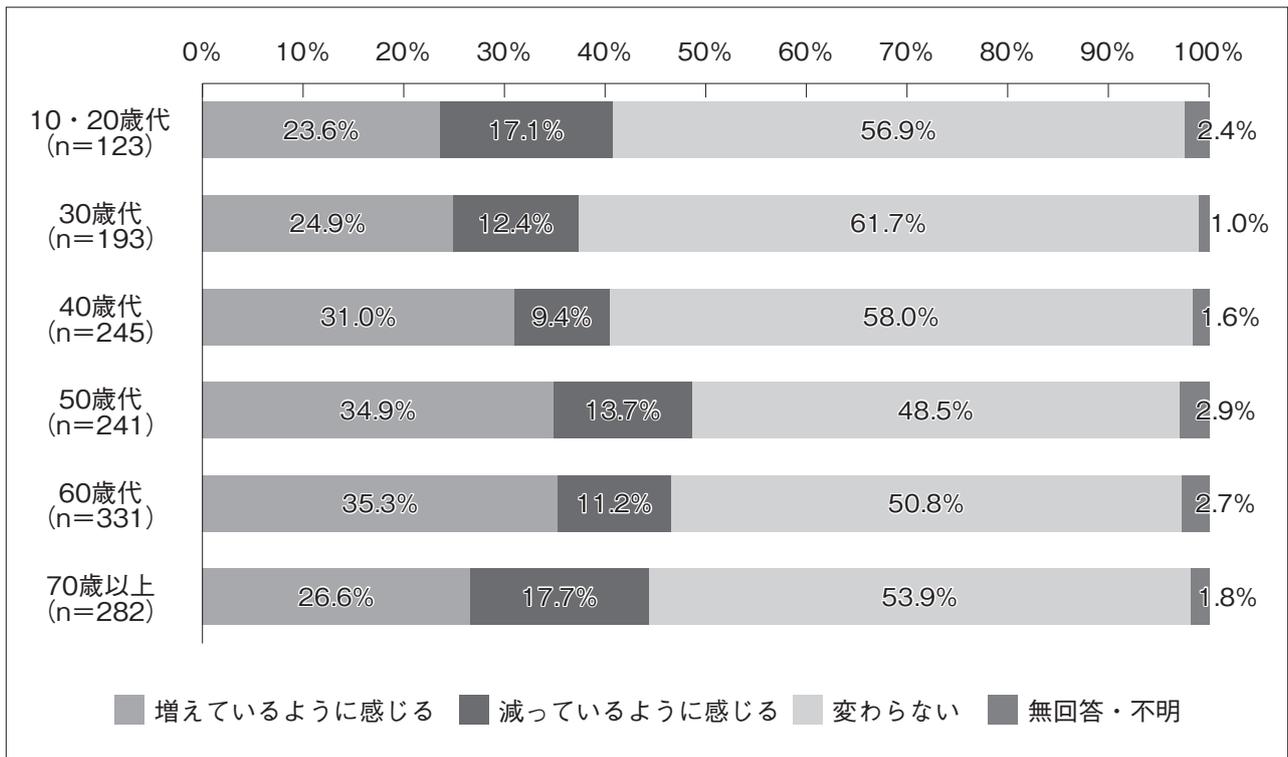
23 「弱い者いじめ」をどう感じているか

問3 あなたの身のまわりでは、「弱い者いじめ」はどうか感じていますか。
(○は1つだけ)

※この設問は前回調査にはありません。

表2-47

		回答者数	増えているように感じる	減っているように感じる	変わらない	無回答・不明
市 全 体		1,415 100.0%	429 30.3%	188 13.3%	768 54.3%	30 2.1%
性 別	男 性	530 100.0%	158 29.8%	85 16.0%	277 52.3%	10 1.9%
	女 性	885 100.0%	271 30.6%	103 11.6%	491 55.5%	20 2.3%
年 齢 別	10 歳 代	123 100.0%	29 23.6%	21 17.1%	70 56.9%	3 2.4%
	20 歳 代					
	30 歳 代	193 100.0%	48 24.9%	24 12.4%	119 61.7%	2 1.0%
	40 歳 代	245 100.0%	76 31.0%	23 9.4%	142 58.0%	4 1.6%
	50 歳 代	241 100.0%	84 34.9%	33 13.7%	117 48.5%	7 2.9%
	60 歳 代	331 100.0%	117 35.3%	37 11.2%	168 50.8%	9 2.7%
	70歳以上	282 100.0%	75 26.6%	50 17.7%	152 53.9%	5 1.8%



弱い者いじめは「増えている」と答えた人は30.3%に対して「減っている」と答えた人は13.3%しかいません。50歳代、60歳代に「増えている」と答えた人の比率が高いことも特徴的です。

24 悩みや不安の相談相手

問4 あなたは、悩みや不安があったとき、誰に相談しますか。(○はいくつでも)

※この設問は前回調査にはありません。

表2-48

		回 答 者 数	家 族 ・ 親 族	友 人 ・ 知 人	学 校 ・ 職 場 の 仲 間	イ ン タ ー ネ ッ ト 上 で や り 取 り す る 知 人	そ の 他	相 談 で き る 相 手 が い ない	無 回 答 ・ 不 明
市 全 体		1,415 100.0%	1,050 74.2%	775 54.8%	205 14.5%	26 1.8%	59 4.2%	82 5.8%	25 1.8%
性 別	男 性	530 100.0%	361 68.1%	245 46.2%	89 16.8%	11 2.1%	32 6.0%	37 7.0%	9 1.7%
	女 性	885 100.0%	689 77.9%	530 59.9%	116 13.1%	15 1.7%	27 3.1%	45 5.1%	16 1.8%
年 齢 別	10 歳 代	123 100.0%	72 58.5%	92 74.8%	27 22.0%	4 3.3%	4 3.3%	7 5.7%	3 2.4%
	20 歳 代	193 100.0%	153 79.3%	122 63.2%	44 22.8%	9 4.7%	8 4.1%	12 6.2%	2 1.0%
	30 歳 代	245 100.0%	183 74.7%	139 56.7%	58 23.7%	6 2.4%	7 2.9%	12 4.9%	1 0.4%
	40 歳 代	241 100.0%	186 77.2%	155 64.3%	51 21.2%	3 1.2%	9 3.7%	10 4.1%	6 2.5%
	50 歳 代	331 100.0%	240 72.5%	155 46.8%	20 6.0%	2 0.6%	15 4.5%	21 6.3%	8 2.4%
	60 歳 代	282 100.0%	216 76.6%	112 39.7%	5 1.8%	2 0.7%	16 5.7%	20 7.1%	5 1.8%

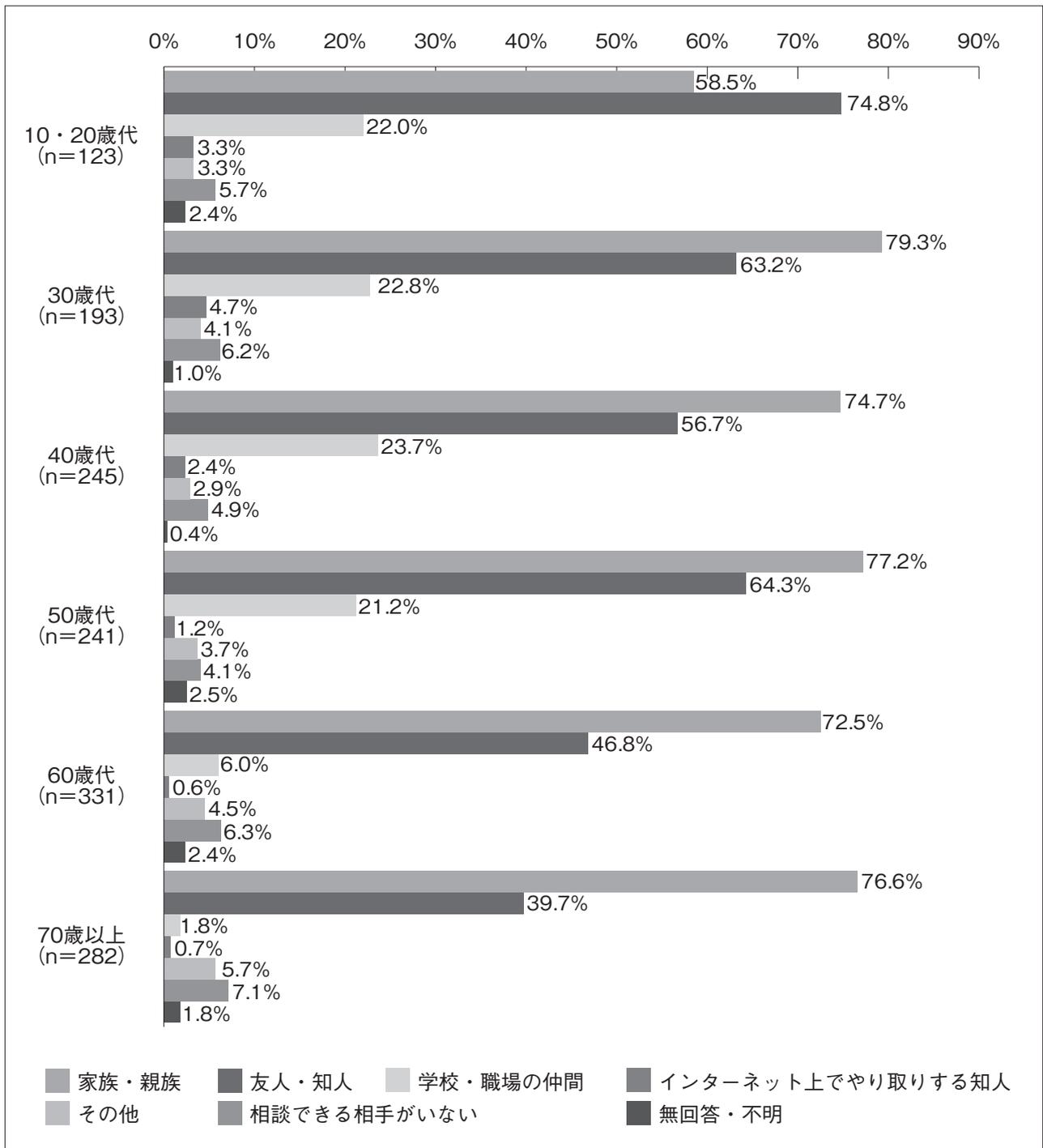


表2-48は、悩みや不安がある際の相談相手について尋ねた結果です。悩みや不安がある際の相談相手として「家族・親族」「友人・知人」が特に多く選択されています。「学校・職場の仲間」も14.5%となっています。以上の3つは、顔と顔を突き合わせる関係（第一次関係）にあることが大半です。問題は、「相談できる相手がない」と答えた人が5.8%いることです。

幼少年期からの人間関係づくり、それを壊さない調整力づくりなどを人権・同和教育や啓発に取り入れて効果を上げることが期待されます。

25 身元調査について

問 28 あなたは、就職や結婚のときに、その相手方などの身元調査をすることについて、どのよう to 考えますか。(○は1つだけ)

※この設問は前回調査にはありません。

表2-49

		回答者数	絶対にやめるべきだ	やめた方がよい	やむを得ないことだ	当然必要なことだ	わからない	無回答・不明
市 全 体		1,415 100.0%	205 14.5%	618 43.7%	281 19.9%	50 3.5%	241 17.0%	20 1.4%
性 別	男 性	530 100.0%	86 16.2%	228 43.0%	116 21.9%	24 4.5%	68 12.8%	8 1.5%
	女 性	885 100.0%	119 13.4%	390 44.1%	165 18.6%	26 2.9%	173 19.5%	12 1.4%
年 齢 別	10 歳 代	123 100.0%	20 16.3%	47 38.2%	22 17.9%	4 3.3%	27 22.0%	3 2.4%
	20 歳 代							
	30 歳 代	193 100.0%	34 17.6%	94 48.7%	25 13.0%	8 4.1%	31 16.1%	1 0.5%
	40 歳 代	245 100.0%	40 16.3%	110 44.9%	51 20.8%	6 2.4%	36 14.7%	2 0.8%
	50 歳 代	241 100.0%	34 14.1%	113 46.9%	50 20.7%	6 2.5%	37 15.4%	1 0.4%
	60 歳 代	331 100.0%	43 13.0%	155 46.8%	70 21.1%	10 3.0%	51 15.4%	2 0.6%
	70歳以上	282 100.0%	34 12.1%	99 35.1%	63 22.3%	16 5.7%	59 20.9%	11 3.9%

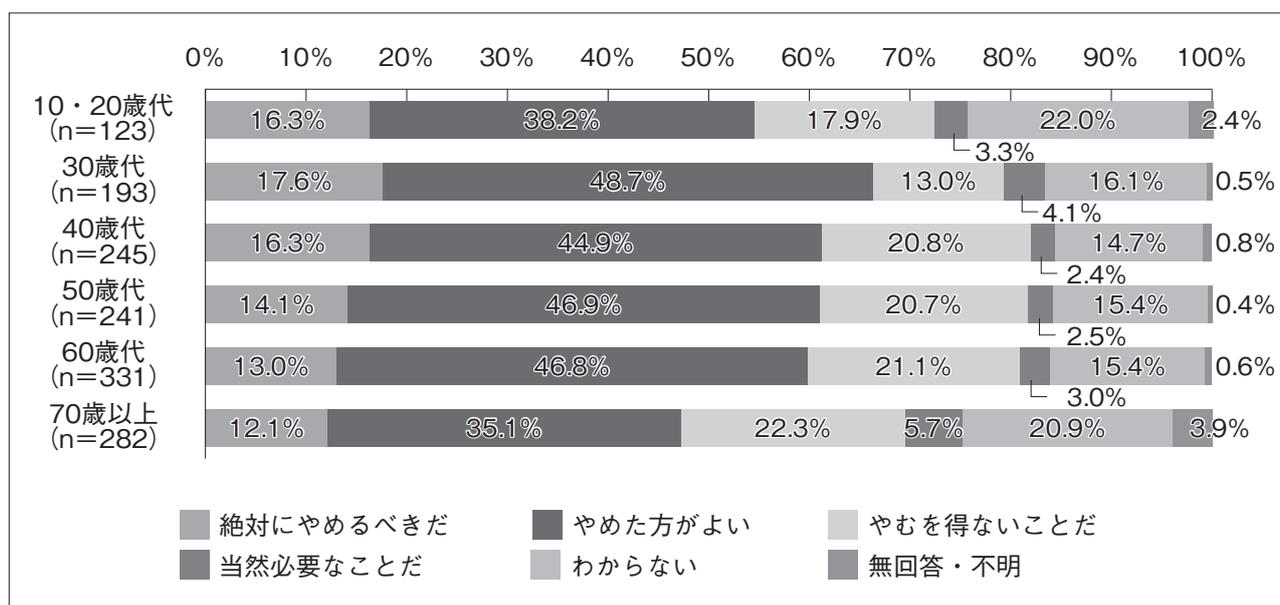


表2-49は、就職や結婚に際して身元調査が行われる場合の意識を尋ねた結果です。「絶対にやめるべきだ」「やめた方がよい」を合わせると58.2%の人が行ってはいけないと考えています。これに対して、「やむを得ないことだ」19.9%「当然必要なことだ」3.5%とする意見もあります。偏見や差別意識が、なお存在することに注意しなければならない数値です。

第5節 同和問題に関する認識

この節では、日本の歴史において差別の底流をつくりだしたともいえる同和問題に対する認識を問うことによって、差別に関する社会意識を探ります。

1 同和地区出身者に関する認識

問 16 あなたは、世間ではどのようなことで同和地区出身者と判断していると思いますか。
(○はいくつでも)

表2-50

		回 答 者 数	本人が現在、 同和地区に 住んでいる	本人が過去に同和地区に 住んだことがある	本人の本籍地が同和地区 である	本人の出生地が同和地区 である	父母あるいは祖父母が 同和地区に住んでいる	父母あるいは祖父母の本 籍地が同和地区である	父母あるいは祖父母の出 生地が同和地区である	職業によって判断してい る	そ の 他	わ か ら な い	無 回 答 ・ 不 明
市 全 体		1,415 100.0% (100.0)	387 27.3% (28.3)	160 11.3% (13.5)	310 21.9% (20.0)	323 22.8% (22.5)	196 13.9% (15.8)	199 14.1% (12.5)	190 13.4% (13.9)	82 5.8% (8.2)	51 3.6% (2.7)	668 47.2% (46.2)	30 2.1%
性 別	男 性	530 100.0% (100.0)	150 28.3% (28.5)	53 10.0% (14.5)	111 20.9% (21.0)	122 23.0% (22.8)	61 11.5% (16.2)	61 11.5% (14.2)	61 11.5% (16.2)	34 6.4% (8.2)	25 4.7% (3.2)	248 46.8% (45.1)	11 2.1%
	女 性	885 100.0% (100.0)	237 26.8% (28.1)	107 12.1% (12.8)	199 22.5% (19.3)	201 22.7% (22.3)	135 15.3% (15.6)	138 15.6% (11.4)	129 14.6% (12.2)	48 5.4% (8.2)	26 2.9% (2.3)	420 47.5% (47.0)	19 2.1%
年 齢 別	10 歳代 20 歳代	123 100.0% (100.0)	16 13.0% (13.7)	10 8.1% (8.7)	20 16.3% (18.6)	14 11.4% (18.0)	9 7.3% (9.9)	7 5.7% (8.1)	11 8.9% (8.1)	4 3.3% (1.9)	2 1.6% (3.7)	83 67.5% (62.7)	2 1.6%
	30 歳代	193 100.0% (100.0)	44 22.8% (30.9)	23 11.9% (12.6)	42 21.8% (23.3)	47 24.4% (26.0)	28 14.5% (18.3)	27 14.0% (13.4)	26 13.5% (13.7)	7 3.6% (4.2)	6 3.1% (1.1)	103 53.4% (45.8)	3 1.6%
	40 歳代	245 100.0% (100.0)	72 29.4% (35.4)	34 13.9% (17.9)	59 24.1% (28.4)	65 26.5% (35.8)	39 15.9% (23.6)	35 14.3% (21.4)	33 13.5% (22.7)	13 5.3% (7.9)	4 1.6% (1.3)	117 47.8% (37.1)	3 1.2%
	50 歳代	241 100.0% (100.0)	81 33.6% (37.1)	36 14.9% (16.8)	74 30.7% (21.0)	73 30.3% (26.7)	45 18.7% (19.7)	52 21.6% (16.5)	46 19.1% (19.4)	16 6.6% (10.2)	7 2.9% (2.9)	95 39.4% (41.6)	4 1.7%
	60 歳代	331 100.0% (100.0)	108 32.6% (26.2)	36 10.9% (13.4)	72 21.8% (18.4)	77 23.3% (17.4)	50 15.1% (14.6)	50 15.1% (9.0)	49 14.8% (10.0)	23 6.9% (10.6)	16 4.8% (3.7)	130 39.3% (45.5)	6 1.8%
	70歳以上	282 100.0% (100.0)	66 23.4% (21.2)	21 7.4% (9.9)	43 15.2% (12.0)	47 16.7% (12.7)	25 8.9% (7.9)	28 9.9% (6.8)	25 8.9% (8.6)	19 6.7% (10.6)	16 5.7% (3.1)	140 49.6% (50.3)	12 4.3%

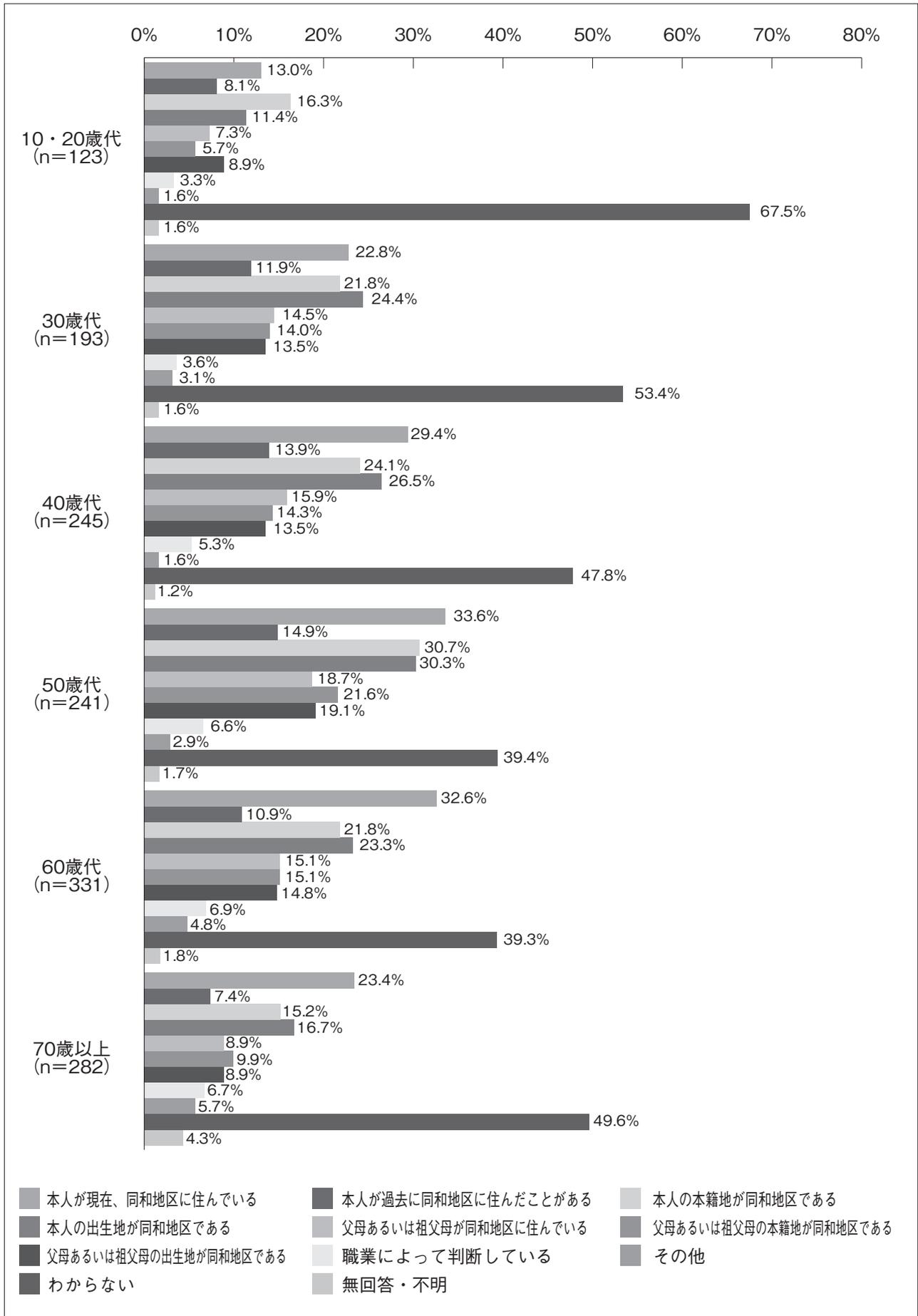


表2-50は、「世間では」という冠をつけながら、同和地区出身者と思う理由を尋ねた結果をまとめたものです。「わからない」と答えた人の比率が、最も高かった点は前回調査と同様です。「本人が現在、同和地区に住んでいる」「本人の出生地が同和地区である」「本人の本籍地が同和地区である」ことを判断基準にする人が、20%を超える点も前回調査と同様です。10%を超えた回答に「父母あるいは祖父母の本籍地が同和地区である」「父母あるいは祖父母が同和地区に住んでいる」「父母あるいは祖父母の出生地が同和地区である」「本人が過去に同和地区に住んだことがある」があります。以上は、出生地、本籍地、居住地など「地域」を基準にする見方ですが、もう一つ「職業によって判断している」と答えた人が、前回調査時より少し減っていますが、5.8%います。

性別には、男女間に5ポイントを超える差異はありませんが、数ポイントの差で女性の方が本人に関わる「地域」を理由にする比率が高くなっています。

年代別には見方に大きな差があります。10歳代・20歳代は、「わからない」が全体の数値より20.3ポイント高く、30歳代も6.2ポイント高くなっています。これは、認識上の問題というよりも、「気にしない」、つまり、そうした基準などどうでもよいだろうという意思の表れと見ることもできるように思います。認識を「あいまい」にすることはまちがいです、**「気にしない」「こだわらない」**態度であれば教育・啓発の効果と受け止めることができます。

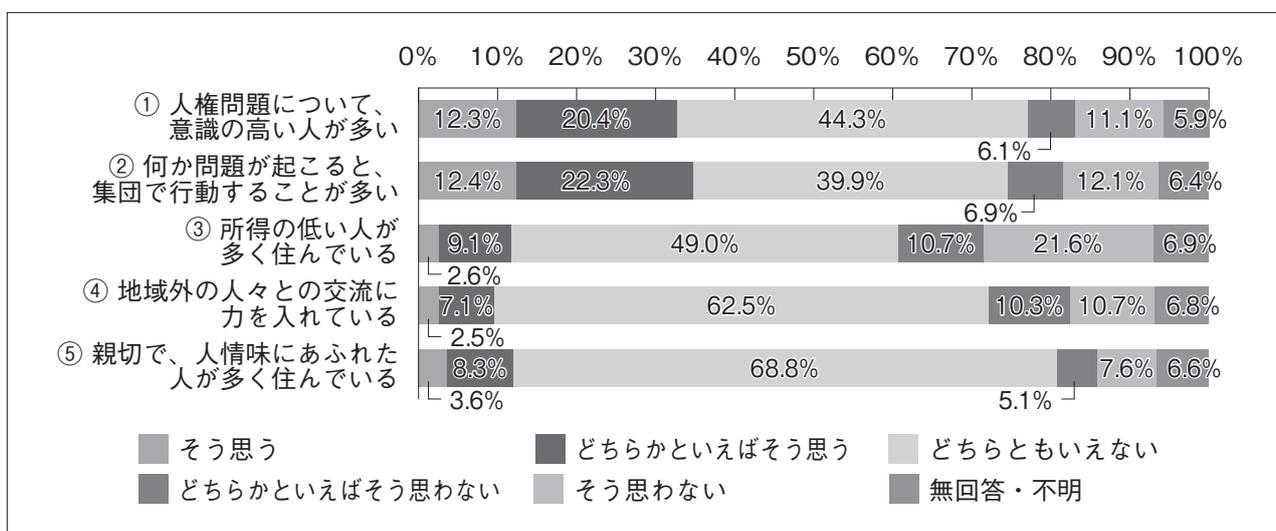
2 同和地区に対するイメージ

問17 あなたは、同和地区について、どのような感じやイメージをお持ちですか。次にあげる①～⑤のすべてについてお答えください。(○はそれぞれ1つ)

※この設問は前回調査にはありません。

表2-51

	合計	そう思う	どちらかといえば そう思う	どちらとも いえない	どちらか といえば そう思わ ない	そう思わ ない	無回答・ 不明
①人権問題について、意識の高い人が多い	1,415 100.0%	174 12.3%	288 20.4%	627 44.3%	86 6.1%	157 11.1%	83 5.9%
②何か問題が起こると、集団で行動することが多い	1,415 100.0%	175 12.4%	316 22.3%	565 39.9%	97 6.9%	171 12.1%	91 6.4%
③所得の低い人が多く住んでいる	1,415 100.0%	37 2.6%	129 9.1%	694 49.0%	151 10.7%	306 21.6%	98 6.9%
④地域外の人々との交流に力を入れている	1,415 100.0%	36 2.5%	100 7.1%	885 62.5%	146 10.3%	152 10.7%	96 6.8%
⑤親切で、人情味にあふれた人が多く住んでいる	1,415 100.0%	51 3.6%	117 8.3%	974 68.8%	72 5.1%	107 7.6%	94 6.6%



では、市民は同和地区に対してどんなイメージを持っているでしょう。表2-51に見ていきましょう。

すぐ気づくのは、どの項目も「どちらともいえない」と答えた人の比率が高いことです。「特別な眼差し」で見る傾向は強くありません。「そう思う」「どちらかといえばそう思う」と答えた人の比率が高かったのは、「何か問題が起こると、集団で行動することが多い」34.7%、「人権問題について意識の高い人が多い」32.7%、「親切で、人情味にあふれた人が多く住んでいる」11.9%、「所得の低い人が多く住んでいる」11.7%、「地域外の人々との交流に力を入れている」9.6%の順です。

3 同和地区出身者に対するイメージ

問 18 あなたは、「同和地区出身者は怖い」というような内容を、見たり聞いたりしたことがありますか。

1. ある

2. ない→→→ 問 19 へ



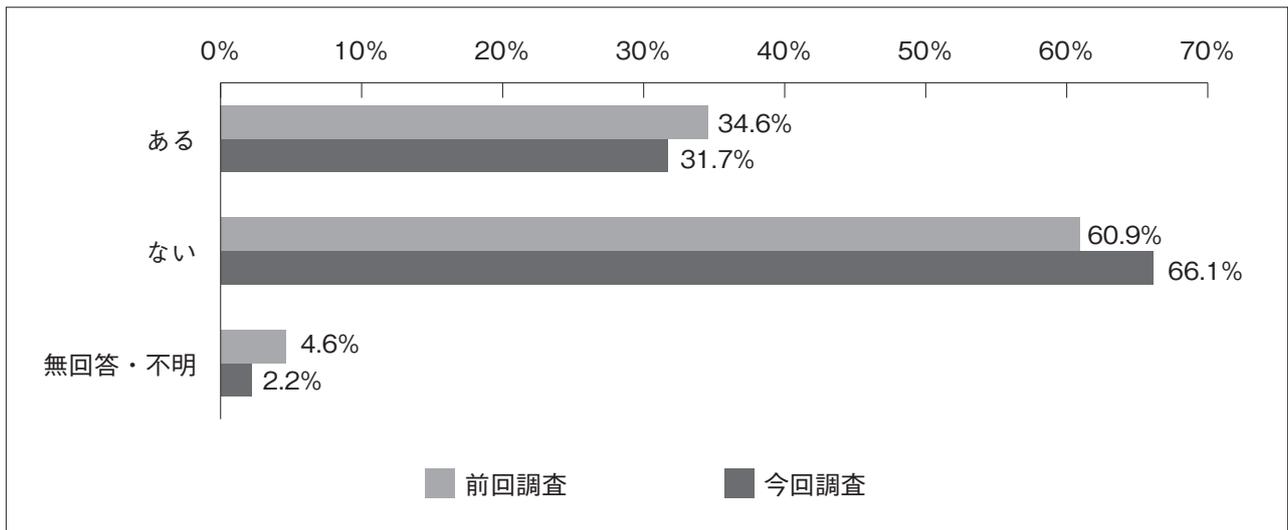
(付問)

(1) それは誰から、または何によって知りましたか。(○はいくつでも)

(2) その話を見たり聞いたりした時、どう感じましたか。(○は1つだけ)

表 2-52

		回答者数	あ る	な い	無回答・不明
市 全 体		1,415 100.0% (100.0)	449 31.7% (34.6)	935 66.1% (60.9)	31 2.2% (4.6)
性 別	男 性	530 100.0% (100.0)	190 35.8% (41.4)	329 62.1% (54.6)	11 2.1% (4.0)
	女 性	885 100.0% (100.0)	259 29.3% (29.8)	606 68.5% (65.2)	20 2.3% (4.9)
年 齢 別	10 歳 代	123 100.0% (100.0)	16 13.0% (13.7)	107 87.0% (82.6)	0 0.0% (3.7)
	20 歳 代				
	30 歳 代	193 100.0% (100.0)	45 23.3% (29.4)	146 75.6% (68.3)	2 1.0% (2.3)
	40 歳 代	245 100.0% (100.0)	77 31.4% (35.4)	166 67.8% (62.9)	2 0.8% (1.7)
	50 歳 代	241 100.0% (100.0)	87 36.1% (37.1)	143 59.3% (58.7)	11 4.6% (4.1)
	60 歳 代	331 100.0% (100.0)	124 37.5% (41.7)	200 60.4% (51.4)	7 2.1% (6.9)
	70歳以上	282 100.0% (100.0)	100 35.5% (39.4)	173 61.3% (53.4)	9 3.2% (7.2)



同和地区に対するイメージを、「同和地区出身者」に対するイメージと重ねて探ってみましょう。表2-52は、「同和地区出身者は怖い」などと聞いたことがあるか否かを尋ねた結果をまとめたものです。前回調査と比べ、「ない」と答えた人の比率が5.2ポイント増え、「ある」と答えた人の比率が2.9ポイント低下したことがわかります。また、「ない」と答えた人が「ある」と答えた人の2倍を超えた点などは、同和教育・啓発の効果として評価することができます。

では、「ある」と答えた人は誰から聞いたのでしょうか。表2-53を見ていきましょう。

問 18 1. ある

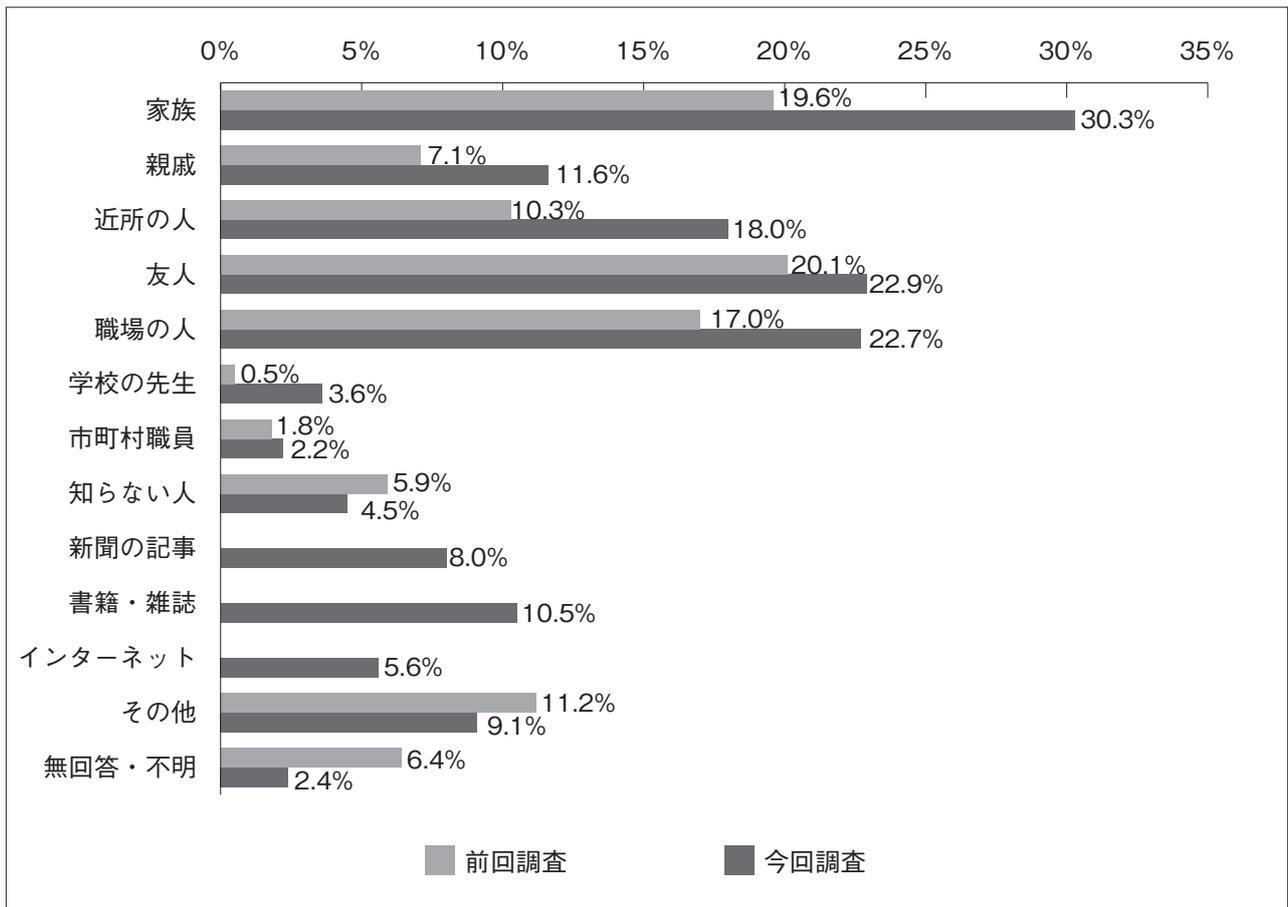


(付問)

(1) それは誰から、または何によって知りましたか。(○はいくつでも)

表2-53

		回 答 者 数	家 族	親 戚	近 所 の 人	友 人	職 場 の 人	学 校 の 先 生	市 町 村 職 員	知 ら な い 人	新 聞 の 記 事	書 籍 ・ 雑 誌	イ ン タ ー ネ ッ ト	そ の 他	無 回 答 ・ 不 明
市 全 体		449 100.0% (100.0)	136 30.3% (19.6)	52 11.6% (7.1)	81 18.0% (10.3)	103 22.9% (20.1)	102 22.7% (17.0)	16 3.6% (0.5)	10 2.2% (1.8)	20 4.5% (5.9)	36 8.0% (8.0)	47 10.5% (10.5)	25 5.6% (5.6)	41 9.1% (11.2)	11 2.4% (6.4)
性 別	男 性	190 100.0% (100.0)	49 25.8% (13.4)	23 12.1% (6.7)	36 18.9% (8.2)	49 25.8% (20.1)	65 34.2% (21.6)	5 2.6% (0.4)	5 2.6% (2.6)	9 4.7% (6.7)	15 7.9% (7.9)	18 9.5% (9.5)	11 5.8% (5.8)	16 8.4% (13.4)	5 2.6% (6.7)
	女 性	259 100.0% (100.0)	87 33.6% (25.5)	29 11.2% (7.6)	45 17.4% (12.2)	54 20.8% (20.1)	37 14.3% (12.6)	11 4.2% (0.7)	5 1.9% (1.1)	11 4.2% (5.0)	21 8.1% (8.1)	29 11.2% (11.2)	14 5.4% (5.4)	25 9.7% (9.0)	6 2.3% (6.1)
年 齢 別	10 歳 代 20 歳 代	16 100.0% (100.0)	4 25.0% (31.8)	0 0.0% (4.5)	2 12.5% (4.5)	4 25.0% (13.6)	1 6.3% (4.5)	0 0.0% (9.1)	0 0.0% (0.0)	0 0.0% (0.0)	0 0.0% (0.0)	1 6.3% (6.3)	5 31.3% (31.3)	2 12.5% (22.7)	1 6.3% (9.1)
	30 歳 代	45 100.0% (100.0)	10 22.2% (28.6)	4 8.9% (7.8)	7 15.6% (5.2)	7 15.6% (16.9)	11 24.4% (14.3)	4 8.9% (0.0)	0 0.0% (2.6)	5 11.1% (6.5)	2 4.4% (4.4)	2 4.4% (4.4)	7 15.6% (15.6)	4 8.9% (7.8)	0 0.0% (10.4)
	40 歳 代	77 100.0% (100.0)	26 33.8% (17.3)	5 6.5% (8.6)	7 9.1% (4.9)	17 22.1% (24.7)	18 23.4% (19.8)	6 7.8% (0.0)	3 3.9% (1.2)	2 2.6% (6.2)	1 1.3% (1.3)	6 7.8% (7.8)	9 11.7% (11.7)	8 10.4% (12.3)	1 1.3% (4.9)
	50 歳 代	87 100.0% (100.0)	37 42.5% (23.1)	13 14.9% (6.0)	12 13.8% (12.0)	20 23.0% (20.5)	13 14.9% (11.1)	4 4.6% (0.0)	1 1.1% (1.7)	1 1.1% (7.7)	8 9.2% (9.2)	8 9.2% (9.2)	2 2.3% (2.3)	11 12.6% (12.8)	2 2.3% (5.1)
	60 歳 代	124 100.0% (100.0)	39 31.5% (15.7)	21 16.9% (6.0)	26 21.0% (13.4)	29 23.4% (19.4)	34 27.4% (19.4)	0 0.0% (0.7)	1 0.8% (3.0)	5 4.0% (5.2)	14 11.3% (11.3)	17 13.7% (13.7)	2 1.6% (1.6)	8 6.5% (9.7)	3 2.4% (7.5)
	70歳以上	100 100.0% (100.0)	20 20.0% (13.9)	9 9.0% (8.7)	27 27.0% (13.0)	26 26.0% (20.9)	25 25.0% (22.6)	2 2.0% (0.0)	5 5.0% (0.9)	7 7.0% (5.2)	11 11.0% (11.0)	13 13.0% (13.0)	0 0.0% (0.0)	8 8.0% (10.4)	4 4.0% (4.3)



前回調査との比較で5ポイント以上増えたのが、「家族」30.3%（前回19.6%）、「近所の人」18.0%（前回10.3%）、「職場の人」22.7%（前回17.0%）の項目です。ただ、聞いたというだけでは特に何か困った事態が起きるわけではありません。それを「どう感じたか」が問題です。表2-54を見ていきましょう。

問 18 1. ある

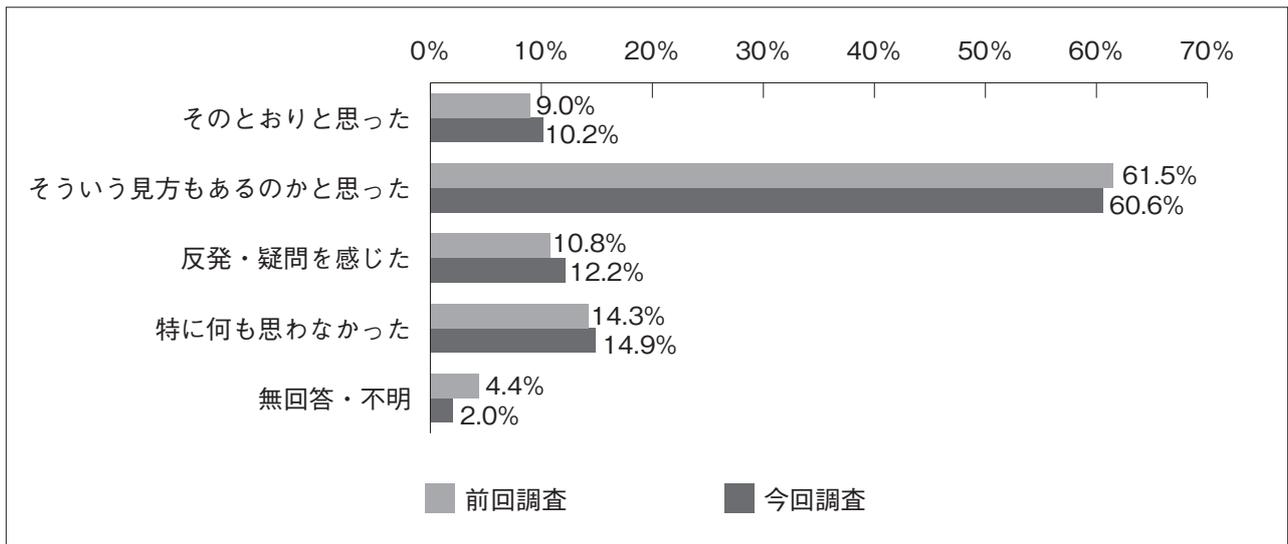


(付問)

(2) その話を見たり聞いたりした時、どう感じましたか。(○は1つだけ)

表2-54

		回答者数	そのとおり と思った	そういう見 方もあるの かと思った	反発・疑問 を感じた	特に何も思 わなかった	無回答・不 明
市 全 体		449 100.0% (100.0)	46 10.2% (9.0)	272 60.6% (61.5)	55 12.2% (10.8)	67 14.9% (14.3)	9 2.0% (4.4)
性 別	男 性	190 100.0% (100.0)	26 13.7% (11.2)	111 58.4% (62.3)	20 10.5% (10.1)	29 15.3% (11.6)	4 2.1% (4.9)
	女 性	259 100.0% (100.0)	20 7.7% (6.8)	161 62.2% (60.8)	35 13.5% (11.5)	38 14.7% (16.9)	5 1.9% (4.0)
年 齢 別	10 歳 代	16 100.0% (100.0)	0 0.0% (9.1)	8 50.0% (27.3)	2 12.5% (27.3)	5 31.3% (31.8)	1 6.3% (4.5)
	20 歳 代	45 100.0% (100.0)	3 6.7% (10.4)	31 68.9% (59.7)	4 8.9% (14.3)	6 13.3% (13.0)	1 2.2% (2.6)
	30 歳 代	77 100.0% (100.0)	6 7.8% (6.2)	45 58.4% (63.0)	12 15.6% (9.9)	13 16.9% (18.5)	1 1.3% (2.5)
	40 歳 代	87 100.0% (100.0)	12 13.8% (9.4)	49 56.3% (62.4)	15 17.2% (12.0)	10 11.5% (12.0)	1 1.1% (4.3)
	50 歳 代	124 100.0% (100.0)	14 11.3% (9.0)	82 66.1% (67.2)	11 8.9% (8.2)	17 13.7% (10.4)	0 0.0% (5.2)
	60 歳 代	100 100.0% (100.0)	11 11.0% (9.6)	57 57.0% (60.9)	11 11.0% (7.8)	16 16.0% (15.7)	5 5.0% (6.1)
	70歳以上						



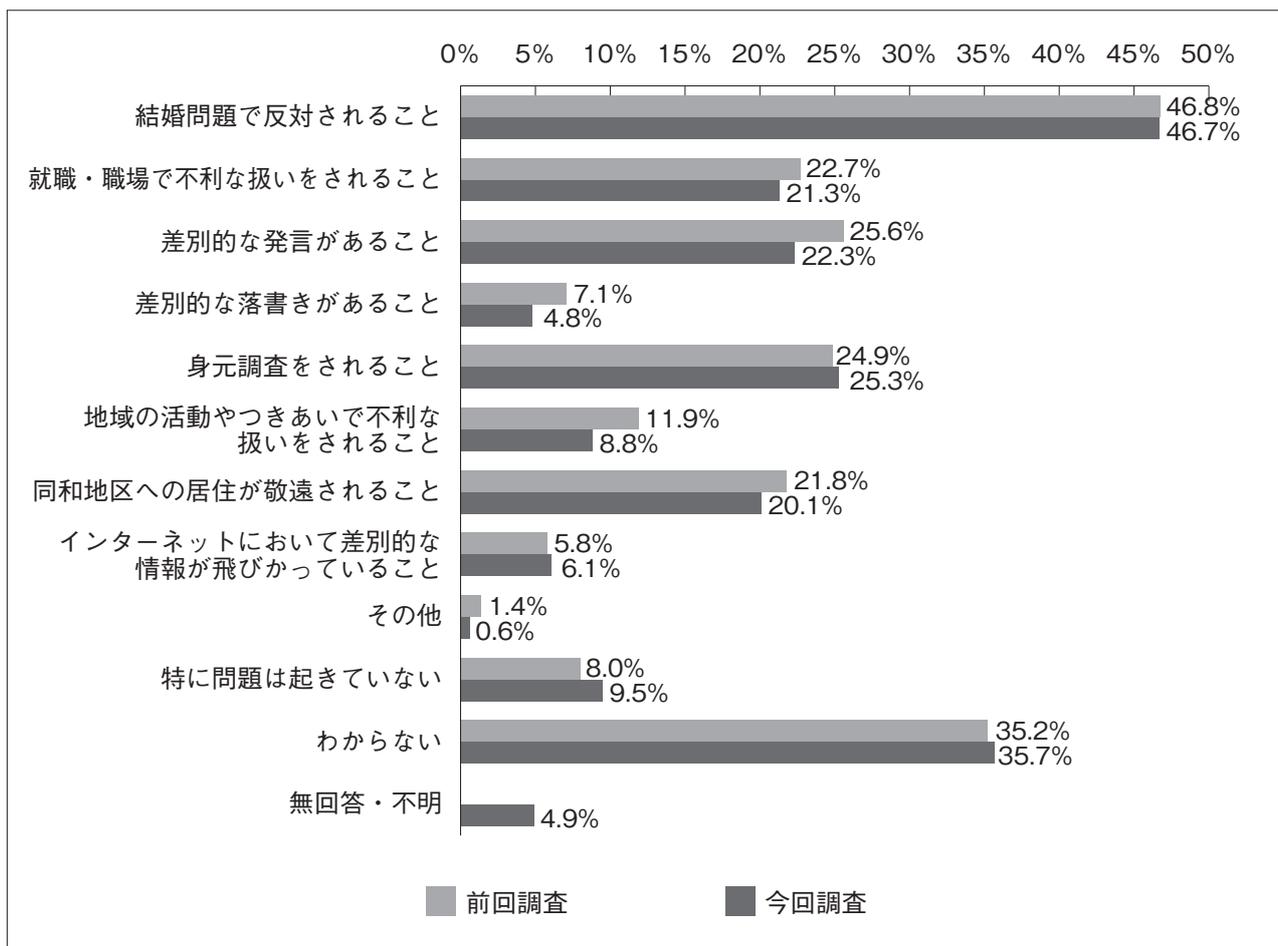
聞いてどう感じたかに関する質問の回答は、前回調査と大きく変わっていません。「反発・疑問を感じた」と答えた人が12.2%（前回10.8%）いる一方で「そのとおりと思った」と答えた人も10.2%（前回9.0%）います。大半は「そういう見方もあるのかと思った」60.6%（前回61.5%）という程度にあいまいにやり過ごしていますが、ここはもう一歩踏み込んだ同和教育・啓発が必要になるでしょう。ただ、この問いに対しても10歳代・20歳代に「そのとおりと思った」と答えた人がなかったところに、同和教育・啓発の効果も表れている面がうかがえます。

4 同和問題への関心度

問 19 あなたは、同和問題に関して、現在、どのような問題が起きていると思いますか。
(○はいくつでも)

表2-55

		回 答 者 数	結 婚 問 題 で 反 対 さ れ る こ と	就 職 ・ 職 場 で 不 利 な 扱 い を さ れ る こ と	差 別 的 な 発 言 が あ る こ と	差 別 的 な 落 書 き が あ る こ と	身 元 調 査 を さ れ る こ と	地 域 の 活 動 や つ き あ い で 不 利 な 扱 い を さ れ る こ と	同 和 地 区 へ の 居 住 が 敬 遠 さ れ る こ と	飛 び か っ て い る こ と	そ の 他	特 に 問 題 は 起 き て い ない	わ か ら な い	無 回 答 ・ 不 明
市 全 体		1,415 100.0% (100.0)	661 46.7% (46.8)	301 21.3% (22.7)	316 22.3% (25.6)	68 4.8% (7.1)	358 25.3% (24.9)	125 8.8% (11.9)	285 20.1% (21.8)	87 6.1% (5.8)	9 0.6% (1.4)	134 9.5% (8.0)	505 35.7% (35.2)	69 4.9%
性 別	男 性	530 100.0% (100.0)	230 43.4% (42.3)	108 20.4% (23.0)	107 20.2% (26.2)	33 6.2% (9.7)	132 24.9% (25.3)	47 8.9% (13.3)	96 18.1% (20.5)	38 7.2% (8.0)	5 0.9% (1.7)	66 12.5% (10.5)	179 33.8% (34.3)	29 5.5%
	女 性	885 100.0% (100.0)	431 48.7% (50.0)	193 21.8% (22.4)	209 23.6% (25.1)	35 4.0% (5.3)	226 25.5% (24.7)	78 8.8% (10.9)	189 21.4% (22.6)	49 5.5% (4.2)	4 0.5% (1.2)	68 7.7% (6.2)	326 36.8% (35.8)	40 4.5%
年 齢 別	10 歳 代	123 100.0% (100.0)	54 43.9% (42.2)	26 21.1% (26.1)	37 30.1% (31.7)	5 4.1% (6.2)	24 19.5% (20.5)	21 17.1% (14.3)	16 13.0% (20.5)	16 13.0% (9.3)	0 0.0% (1.9)	4 3.3% (3.7)	50 40.7% (36.6)	1 0.8%
	20 歳 代	193 100.0% (100.0)	86 44.6% (51.1)	59 30.6% (28.2)	51 26.4% (36.3)	14 7.3% (11.5)	46 23.8% (30.5)	27 14.0% (17.9)	39 20.2% (27.9)	22 11.4% (7.6)	1 0.5% (1.1)	9 4.7% (1.9)	77 39.9% (32.4)	5 2.6%
	30 歳 代	245 100.0% (100.0)	129 52.7% (59.4)	59 24.1% (30.6)	72 29.4% (35.8)	14 5.7% (12.2)	76 31.0% (34.5)	23 9.4% (18.8)	66 26.9% (31.9)	18 7.3% (11.8)	2 0.8% (3.1)	6 2.4% (2.2)	87 35.5% (28.8)	8 3.3%
	40 歳 代	241 100.0% (100.0)	139 57.7% (53.3)	62 25.7% (24.4)	66 27.4% (29.2)	17 7.1% (7.9)	73 30.3% (27.3)	28 11.6% (12.4)	64 26.6% (25.4)	18 7.5% (6.3)	2 0.8% (1.0)	13 5.4% (6.3)	66 27.4% (32.1)	19 7.9%
	50 歳 代	331 100.0% (100.0)	140 42.3% (40.5)	51 15.4% (16.5)	46 13.9% (17.4)	5 1.5% (4.0)	76 23.0% (17.8)	15 4.5% (7.8)	58 17.5% (16.8)	9 2.7% (2.2)	2 0.6% (1.2)	46 13.9% (12.5)	114 34.4% (40.2)	17 5.1%
	60 歳 代	282 100.0% (100.0)	113 40.1% (35.6)	44 15.6% (14.4)	44 15.6% (9.6)	13 4.6% (2.1)	63 22.3% (20.2)	11 3.9% (3.8)	42 14.9% (10.6)	4 1.4% (0.7)	2 0.7% (0.7)	56 19.9% (17.1)	111 39.4% (39.7)	19 6.7%



では、市民は、同和問題については、どのように認識しているのでしょうか。表2-55によれば、35.7%の人が「わからない」と答えていますが、他方「結婚問題で反対されること」をはじめ、「就職・職場で不利な扱いをされること」「差別的な落書きがあること」「同和地区への居住が敬遠されること」などで差別があるのではないかという認識があります。実際にあからさまに行う差別や偏見は少なくなり、問題になった回数も少なくなりつつありますが、差別落書きや身元調査などは完全にはなくなっていません。その意味では、この数値が下がらない背景には、見えにくい差別を見ようとしている面が感じ取れます。

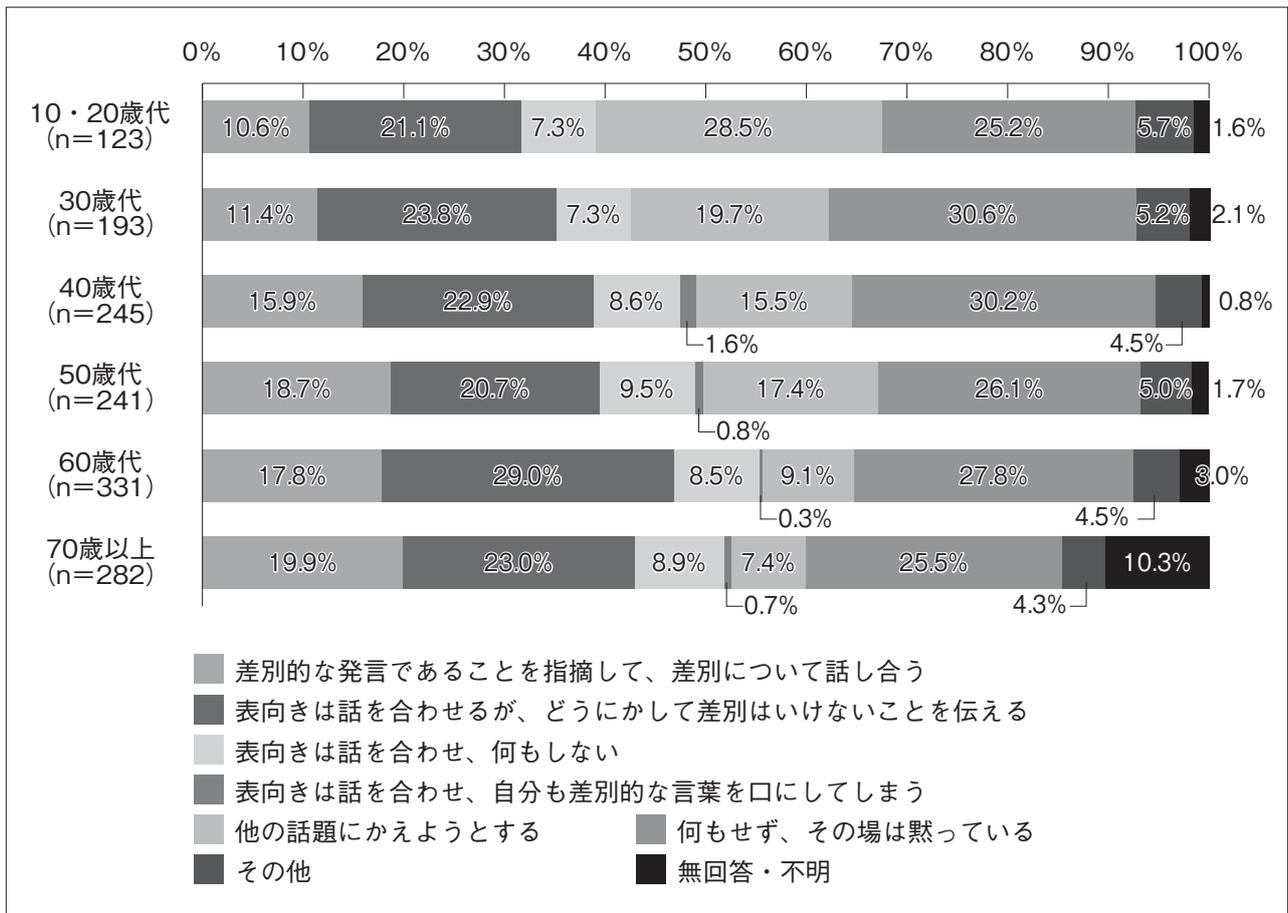
見えにくい差別を見ようとしていると判断できる理由に、同和教育・啓発の効果が比較的良好に表れている10歳代・20歳代の回答が、この問いに対しては、他の年代と同様、冷静に現実を見つめられていると思われる数値になっている点を挙げるすることができます。

5 同和地区に対する差別的発言を聞いた時とる態度

問 23 学校や職場、日常生活の中で、誰かが同和地区出身者に対する差別的な発言をした時、あなたはこういった態度を取ると思いますか。(○は1つだけ)

表2-56

		回 答 者 数	差別的な発言であることを指摘して、差別について話し合う	表向きは話を合わせるが、どうにかして差別はいけないことを伝える	表向きは話を合わせ、何もしない	表向きは話を合わせ、自分も差別的な言葉を口にしてしまう	他の話題にかえようとする	何もせず、その場は黙っている	その他	無 回 答 ・ 不 明
市 全 体		1,415 100.0% (100.0)	234 16.5% (17.4)	339 24.0% (22.6)	120 8.5% (8.9)	9 0.6% (0.4)	204 14.4% (13.3)	391 27.6% (25.0)	67 4.7% (6.0)	51 3.6% (6.5)
性 別	男 性	530 100.0% (100.0)	105 19.8% (20.7)	142 26.8% (22.5)	47 8.9% (11.1)	4 0.8% (0.8)	68 12.8% (9.6)	122 23.0% (22.5)	24 4.5% (6.2)	18 3.4% (6.6)
	女 性	885 100.0% (100.0)	129 14.6% (15.1)	197 22.3% (22.6)	73 8.2% (7.3)	5 0.6% (0.1)	136 15.4% (15.9)	269 30.4% (26.7)	43 4.9% (5.9)	33 3.7% (6.3)
年 齢 別	10 歳 代	123 100.0% (100.0)	13 10.6% (15.5)	26 21.1% (15.5)	9 7.3% (6.8)	0 0.0% (1.2)	35 28.5% (18.0)	31 25.2% (31.1)	7 5.7% (7.5)	2 1.6% (4.3)
	20 歳 代	193 100.0% (100.0)	22 11.4% (17.6)	46 23.8% (21.0)	14 7.3% (8.8)	0 0.0% (0.0)	38 19.7% (12.6)	59 30.6% (28.6)	10 5.2% (7.6)	4 2.1% (3.8)
	30 歳 代	245 100.0% (100.0)	39 15.9% (19.7)	56 22.9% (18.3)	21 8.6% (10.0)	4 1.6% (0.4)	38 15.5% (16.2)	74 30.2% (24.9)	11 4.5% (7.9)	2 0.8% (2.6)
	40 歳 代	241 100.0% (100.0)	45 18.7% (23.8)	50 20.7% (21.9)	23 9.5% (10.5)	2 0.8% (0.3)	42 17.4% (16.2)	63 26.1% (20.6)	12 5.0% (3.2)	4 1.7% (3.5)
	50 歳 代	331 100.0% (100.0)	59 17.8% (15.6)	96 29.0% (31.5)	28 8.5% (6.5)	1 0.3% (0.6)	30 9.1% (10.0)	92 27.8% (24.0)	15 4.5% (5.3)	10 3.0% (6.5)
	60 歳 代	282 100.0% (100.0)	56 19.9% (11.6)	65 23.0% (22.3)	25 8.9% (9.9)	2 0.7% (0.0)	21 7.4% (9.6)	72 25.5% (24.3)	12 4.3% (6.2)	29 10.3% (16.1)



では、誰かが同和地区出身者に対して差別的発言をしている場面に出合った場合、市民は、どんな態度をとるのでしょうか。表2-56に見ていきましょう。全体の傾向は、前回調査の時と大きな変化はありません。男性の方が女性より「差別的な発言であることを指摘して、差別について話し合う」「表向きは話を合わせるが、どうにかして差別はいけないことを伝える」と答えた人の比率が高くなります。

6 交流していた人が同和地区出身者であった場合にとる態度

問 24 日頃親しくつきあっている職場の友人や近所の人が同和地区出身者だとわかった場合、あなたはどのようにしますか。(○は1つだけ)

表2-57

		回 答 者 数	あ う こ れ ま で と 同 じ よ う に つ き あ う	一 度 は 考 え る が 、 変 わ ら ず に つ き あ お う と 思 う	つ き あ う こ と は 変 わ ら な い が 、 何 と な く 気 を つ か う と 思 う	つ き あ う こ と は 変 わ ら な い が 、 何 と な く 気 を つ か う と 思 う	表 面 的 に は つ き あ う が 、 で き る だ け つ き あ い は 避 け て い く と 思 う	つ き あ い は や め て し ま う と 思 う	そ の 他	無 回 答 ・ 不 明
市 全 体		1,415 100.0% (100.0)	1,004 71.0% (67.8)	210 14.8% (13.0)	124 8.8% (9.4)	27 1.9% (2.0)	7 0.5% (0.4)	16 1.1% (2.2)	27 1.9% (5.1)	
性 別	男 性	530 100.0% (100.0)	379 71.5% (67.6)	79 14.9% (12.5)	47 8.9% (9.0)	8 1.5% (2.9)	4 0.8% (0.5)	4 0.8% (1.9)	9 1.7% (5.7)	
	女 性	885 100.0% (100.0)	625 70.6% (68.0)	131 14.8% (13.4)	77 8.7% (9.8)	19 2.1% (1.4)	3 0.3% (0.3)	12 1.4% (2.4)	18 2.0% (4.7)	
年 齢 別	10 歳 代	123 100.0% (100.0)	103 83.7% (75.8)	9 7.3% (14.3)	6 4.9% (1.9)	0 0.0% (0.6)	1 0.8% (0.0)	1 0.8% (3.1)	3 2.4% (4.3)	
	20 歳 代	193 100.0% (100.0)	149 77.2% (74.0)	31 16.1% (9.5)	9 4.7% (8.4)	2 1.0% (2.3)	1 0.5% (0.4)	1 0.5% (2.3)	0 0.0% (3.1)	
	30 歳 代	245 100.0% (100.0)	183 74.7% (78.2)	33 13.5% (9.6)	20 8.2% (6.6)	1 0.4% (0.9)	0 0.0% (0.4)	4 1.6% (2.2)	4 1.6% (2.2)	
	40 歳 代	241 100.0% (100.0)	171 71.0% (67.6)	35 14.5% (16.5)	28 11.6% (7.9)	2 0.8% (2.5)	1 0.4% (0.3)	4 1.7% (1.3)	0 0.0% (3.8)	
	50 歳 代	331 100.0% (100.0)	213 64.4% (60.4)	64 19.3% (16.8)	32 9.7% (14.3)	12 3.6% (2.2)	3 0.9% (0.0)	4 1.2% (1.9)	3 0.9% (4.4)	
	60 歳 代	282 100.0% (100.0)	185 65.6% (58.2)	38 13.5% (10.3)	29 10.3% (13.0)	10 3.5% (2.7)	1 0.4% (1.0)	2 0.7% (2.7)	17 6.0% (12.0)	

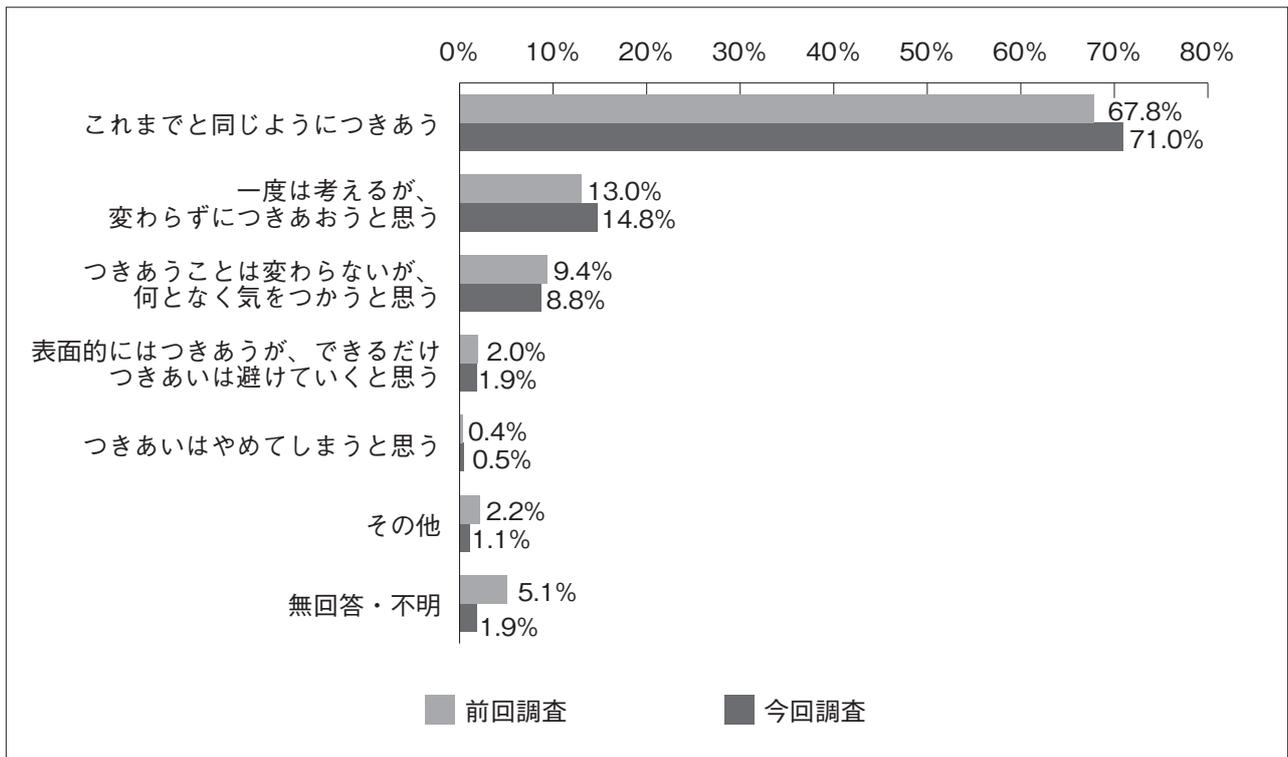


表2-57は、親しくつきあっていた人が同和地区出身者であった場合にとる態度を尋ねた結果をまとめたものです。前回調査と比べ、「その他」「無回答・不明」が減少し、「これまでと同じようにつきあう」「一度は考えるが、変わらずにつきあおうと思う」と答えた人が5.0ポイント増加しています。「表面的にはつきあうが、できるだけつきあいは避けていくと思う」「つきあいはやめてしまうと思う」と答えた人は2.4%で、前回調査と同じ数値です。交流を続けると答えた人が増加した分、同和問題に関する人権意識が浸透していると捉えてよいのではないかと思います。

性別に大きな差異はありません。年代別にみると、10歳代・20歳代で91.0%が前向きなのに対して、加齢とともに前向きな態度を示す数値が後退し、70歳以上では79.1%ですが、前回調査よりは向上しています。

7 子どもが同和地区出身者との結婚を希望した時との態度

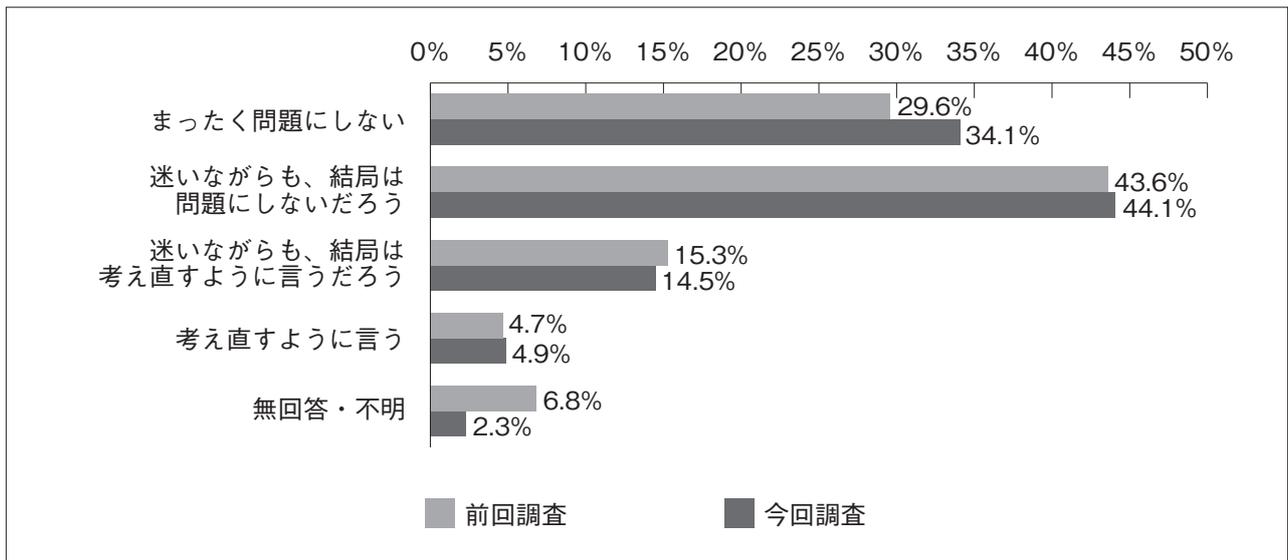
問 25 仮に、あなたのお子さんが、恋愛をし、結婚したいと言っている相手が同和地区出身者だとわかった場合、

※お子さんがいない場合は、いると仮定してお答えください。

(1) あなたはどんな態度を取ると思いますか。(○は1つだけ)

表2-58

		回 答 者 数	ま っ た く 問 題 に し な い	迷 い な が ら も 、 結 局 は 問 題 に し な い だ ら う	迷 い な が ら も 、 結 局 は 考 え 直 す よ う に 言 う だ ら う	考 え 直 す よ う に 言 う	無 回 答 ・ 不 明
市 全 体		1,415 100.0% (100.0)	483 34.1% (29.6)	624 44.1% (43.6)	205 14.5% (15.3)	70 4.9% (4.7)	33 2.3% (6.8)
性 別	男 性	530 100.0% (100.0)	212 40.0% (32.9)	197 37.2% (42.0)	80 15.1% (13.0)	32 6.0% (4.8)	9 1.7% (7.4)
	女 性	885 100.0% (100.0)	271 30.6% (27.4)	427 48.2% (44.7)	125 14.1% (17.0)	38 4.3% (4.6)	24 2.7% (6.3)
年 齢 別	10 歳 代	123 100.0% (100.0)	69 56.1% (48.4)	40 32.5% (33.5)	7 5.7% (10.6)	3 2.4% (0.6)	4 3.3% (6.8)
	20 歳 代	193 100.0% (100.0)	77 39.9% (34.0)	94 48.7% (48.9)	13 6.7% (12.2)	5 2.6% (1.1)	4 2.1% (3.8)
	30 歳 代	245 100.0% (100.0)	91 37.1% (30.6)	105 42.9% (51.1)	37 15.1% (10.5)	10 4.1% (2.6)	2 0.8% (5.2)
	40 歳 代	241 100.0% (100.0)	67 27.8% (28.6)	114 47.3% (47.3)	47 19.5% (16.2)	12 5.0% (3.8)	1 0.4% (4.1)
	50 歳 代	331 100.0% (100.0)	98 29.6% (26.2)	153 46.2% (41.7)	49 14.8% (18.1)	25 7.6% (7.2)	6 1.8% (6.9)
	60 歳 代	282 100.0% (100.0)	81 28.7% (19.5)	118 41.8% (36.6)	52 18.4% (20.5)	15 5.3% (9.9)	16 5.7% (13.4)



結婚は、人が暮らしを共にする最も密接で身近な交流関係をつくりだすきっかけになります。では、子どもの結婚に際して、相手が同和地区出身者であることがわかった場合、市民は、どんな態度をとると答えているのでしょうか。表2-58に見ていきましょう。表2-57の場合と同様、この問いに対しても「無回答・不明」は4.5ポイント減少し、「まったく問題にしない」「迷いながらも、結局は問題にしないだろう」と答えた人が5.0ポイント増加しています。この表からも、同和問題に関する人権意識が、相応に浸透していることが推察できます。男女の差異は、大きくありませんが、年代別では10歳代・20歳代と70歳以上の間に18.1ポイントの差異がみられます。この傾向も、表2-57と同様です。生涯学習の機会の充実など、より確実な同和教育や啓発が必要です。

同じ問いについて、では「あなたの親戚はどんな態度を取るとお思いますか」と尋ねた結果について表2-59を見ていきましょう。

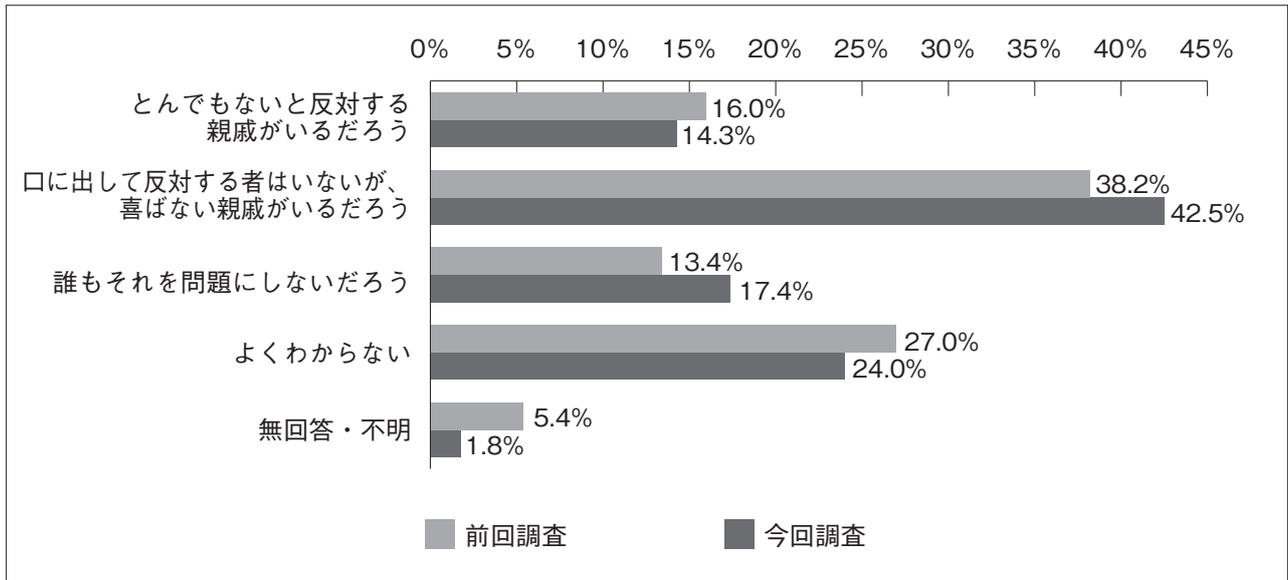
問 25 仮に、あなたのお子さんが、恋愛をし、結婚したいと言っている相手が同和地区出身者だとわかった場合、

※お子さんがいない場合は、いると仮定してお答えください。

(2) あなたの親戚はどんな態度を取るとおもいますか。(○は1つだけ)

表2-59

		回 答 者 数	と ん で も な い と 反 対 す る 親 戚 が い る だ ら う	口 に 出 し て 反 対 す る 者 は い な い が、 喜 ば な い 親 戚 が い る だ ら う	誰 も そ れ を 問 題 に し な い だ ら う	よ く わ か ら な い	無 回 答 ・ 不 明
市 全 体		1,415 100.0% (100.0)	203 14.3% (16.0)	602 42.5% (38.2)	246 17.4% (13.4)	339 24.0% (27.0)	25 1.8% (5.4)
性 別	男 性	530 100.0% (100.0)	67 12.6% (14.2)	232 43.8% (39.2)	105 19.8% (14.5)	117 22.1% (25.9)	9 1.7% (6.2)
	女 性	885 100.0% (100.0)	136 15.4% (17.3)	370 41.8% (37.6)	141 15.9% (12.6)	222 25.1% (27.7)	16 1.8% (4.9)
年 齢 別	10 歳 代	123 100.0% (100.0)	12 9.8% (11.2)	42 34.1% (27.3)	20 16.3% (20.5)	47 38.2% (36.0)	2 1.6% (5.0)
	20 歳 代						
	30 歳 代	193 100.0% (100.0)	26 13.5% (18.7)	73 37.8% (34.4)	43 22.3% (11.8)	50 25.9% (32.4)	1 0.5% (2.7)
	40 歳 代	245 100.0% (100.0)	55 22.4% (20.5)	100 40.8% (38.0)	39 15.9% (11.8)	48 19.6% (26.2)	3 1.2% (3.5)
	50 歳 代	241 100.0% (100.0)	41 17.0% (19.7)	119 49.4% (42.2)	30 12.4% (10.8)	51 21.2% (24.1)	0 0.0% (3.2)
	60 歳 代	331 100.0% (100.0)	44 13.3% (14.3)	149 45.0% (42.7)	59 17.8% (14.3)	72 21.8% (23.7)	7 2.1% (5.0)
70歳以上	282 100.0% (100.0)	25 8.9% (10.6)	119 42.2% (38.7)	55 19.5% (13.7)	71 25.2% (24.3)	12 4.3% (12.7)	



「よくわからない」と答えた人が、前回調査と同様に4分の1近くなりますが、それでも3.0ポイント減少し、「無回答・不明」も減っています。その分、「とんでもないと反対する親戚がいるだろう」と答えた人が若干ながら減少し、「口に出して反対する者はいないが、喜ばない親戚がいるだろう」と推測する人が増え、「誰もそれを問題にしないだろう」と答えた人が4.0ポイント増加しています。親戚関係者に対しても、「問題視しない」人が増えていると推測することができるようになっていることを示す数値と見ることができます。

8 同和地区に対する差別的態度や行動を解決できるかと問われたら

市民に、人権・同和問題について、一定程度の自覚が高まっていることを示す数値が続いて出されました。では、この流れにおいて、同和地区の人に対する差別はなくすることができると思うか否かについては、どう考えているでしょう。

問 27 あなたは、同和地区の人たちに対する就職差別や結婚差別は、将来なくすることができると思いますか。(○は1つだけ)

※この設問は前回調査にはありません。

表2-60

		回 答 者 数	そ う 思 う	ど ち ら か と い え ば そ う 思 う	ど ち ら か と い え ば そ う 思 わ な い	そ う 思 わ な い	わ か ら な い	差 別 が お こ っ て い る こ と を 知 ら な い	無 回 答 ・ 不 明
市 全 体		1,415 100.0%	348 24.6%	439 31.0%	139 9.8%	71 5.0%	259 18.3%	143 10.1%	16 1.1%
性 別	男 性	530 100.0%	140 26.4%	163 30.8%	49 9.2%	39 7.4%	86 16.2%	46 8.7%	7 1.3%
	女 性	885 100.0%	208 23.5%	276 31.2%	90 10.2%	32 3.6%	173 19.5%	97 11.0%	9 1.0%
年 齢 別	10 歳 代	123 100.0%	36 29.3%	31 25.2%	11 8.9%	4 3.3%	25 20.3%	15 12.2%	1 0.8%
	20 歳 代	193 100.0%	40 20.7%	58 30.1%	24 12.4%	15 7.8%	36 18.7%	20 10.4%	0 0.0%
	30 歳 代	245 100.0%	49 20.0%	80 32.7%	36 14.7%	13 5.3%	40 16.3%	25 10.2%	2 0.8%
	40 歳 代	241 100.0%	50 20.7%	91 37.8%	18 7.5%	12 5.0%	45 18.7%	23 9.5%	2 0.8%
	50 歳 代	331 100.0%	86 26.0%	102 30.8%	32 9.7%	14 4.2%	62 18.7%	33 10.0%	2 0.6%
	60 歳 代	282 100.0%	87 30.9%	77 27.3%	18 6.4%	13 4.6%	51 18.1%	27 9.6%	9 3.2%
70歳以上									

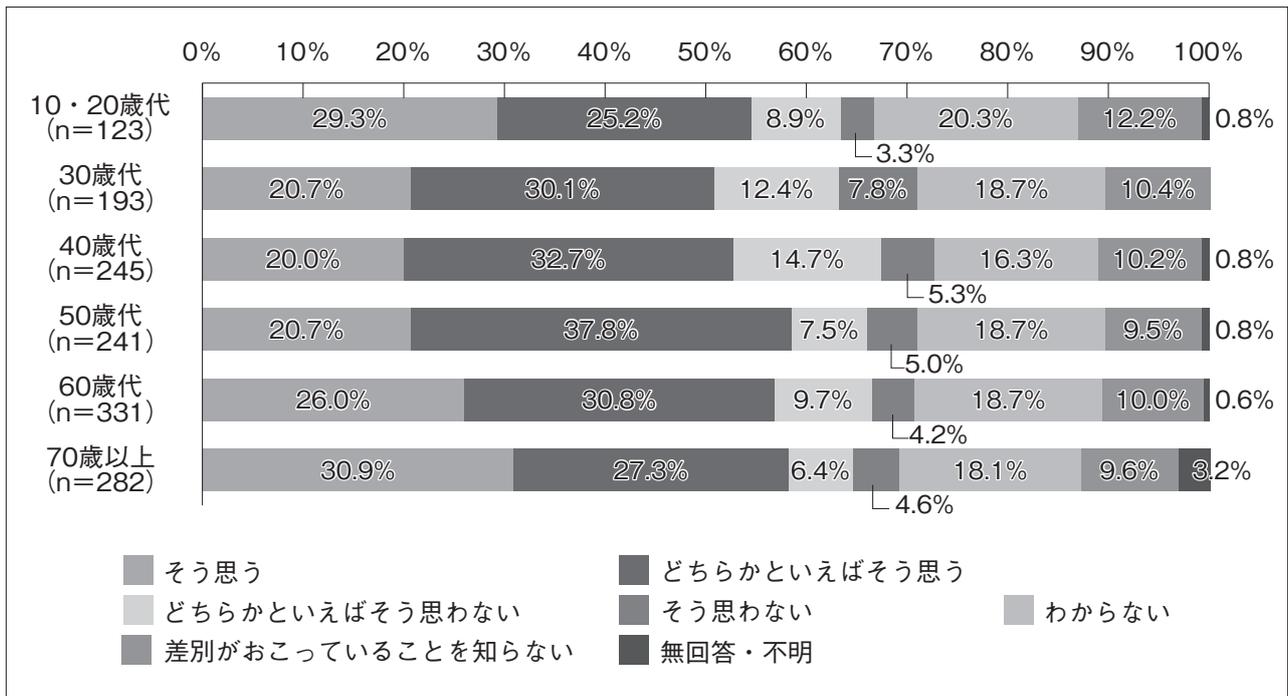


表2-60によれば、「そう思う」「どちらかといえばそう思う」と答えた人が55.6%に達します。「そう思わない」と答えた人は5.0%です。「わからない」と答えた人は18.3%です。全体的には差別をなくすることができると思えた人が過半数を超えており、人権意識の一定の高まりがここからもうかがえます。男女別に大きな差異はありません。年代別には、50歳代以上の人たちに、むしろ前向きな意識が見られます。

第6節 同和問題を解決する方法に関する認識

前節で、市民が同和問題に対してどのように認識しているかを見ました。結果的に、市民の人権意識は、少しずつではありますが向上していることがうかがえます。こうした事実に基づき、この節では、問題の解決に向けて、どうしたらよいと思っているかを探ります。もちろん、解決のためには市民一人ひとりが、他人事としてではなく、自分自身の問題であることを自覚しなければなりません。そのように変化する可能性を探ってみましょう。

1 同和地区出身者に対する差別について

問 26 同和地区出身者に対する差別について、A・B二人の意見が次のように分かれました。

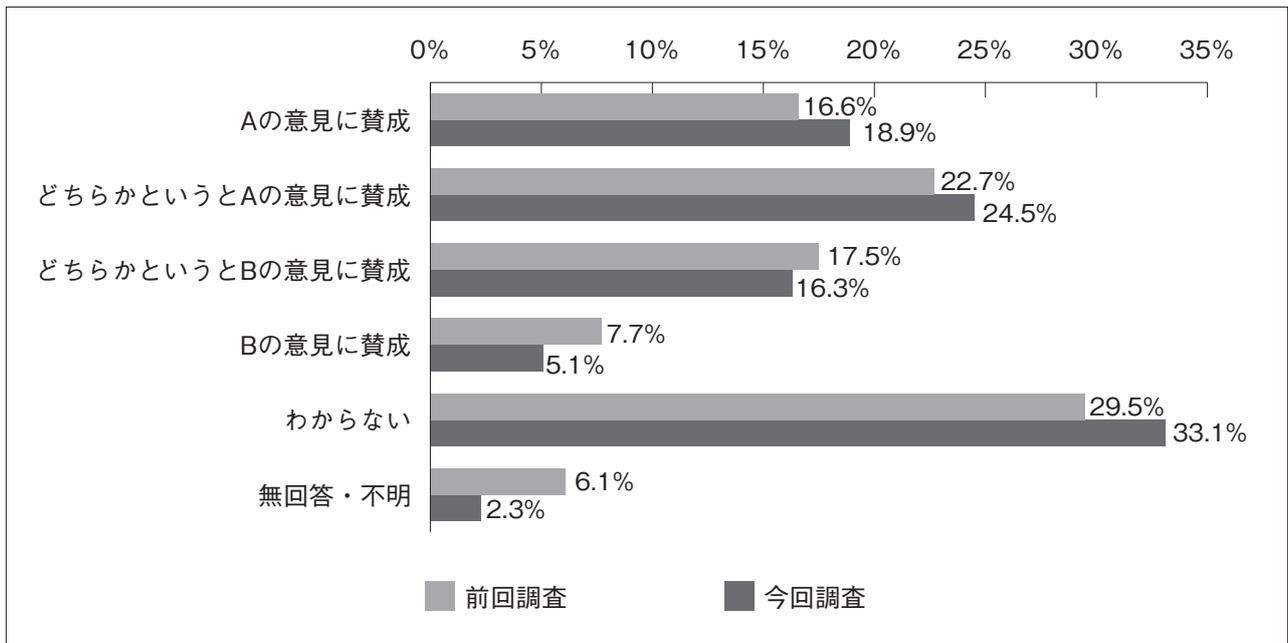
Aの意見：今日では差別は許されない状況にあるので、差別をする人がやがて孤立してしまう。

Bの意見：世間では、まだまだ差別が残っているので、差別をなくそうとする人が孤立してしまう。

あなたは、A・Bどちらの意見に近いですか。(○は1つだけ)

表2-61

		回答者数	Aの意見 に賛成	どちらか というと Aの意見 に賛成	どちらか というと Bの意見 に賛成	Bの意見 に賛成	わからない	無回答・ 不明
市 全 体		1,415 100.0% (100.0)	267 18.9% (16.6)	346 24.5% (22.7)	230 16.3% (17.5)	72 5.1% (7.7)	468 33.1% (29.5)	32 2.3% (6.1)
性 別	男 性	530 100.0% (100.0)	109 20.6% (19.3)	118 22.3% (21.8)	93 17.5% (16.4)	34 6.4% (9.0)	166 31.3% (29.2)	10 1.9% (4.5)
	女 性	885 100.0% (100.0)	158 17.9% (14.8)	228 25.8% (23.3)	137 15.5% (18.2)	38 4.3% (6.8)	302 34.1% (29.7)	22 2.5% (7.2)
年 齢 別	10 歳 代	123 100.0% (100.0)	19 15.4% (14.9)	29 23.6% (24.2)	29 23.6% (19.9)	10 8.1% (11.2)	35 28.5% (24.8)	1 0.8% (5.0)
	20 歳 代	193 100.0% (100.0)	37 19.2% (18.7)	40 20.7% (17.9)	43 22.3% (25.2)	4 2.1% (9.9)	67 34.7% (26.7)	2 1.0% (1.5)
	30 歳 代	245 100.0% (100.0)	45 18.4% (14.8)	63 25.7% (28.4)	53 21.6% (17.5)	9 3.7% (6.6)	72 29.4% (31.0)	3 1.2% (1.7)
	40 歳 代	241 100.0% (100.0)	43 17.8% (16.2)	73 30.3% (24.1)	42 17.4% (18.7)	15 6.2% (5.7)	65 27.0% (30.2)	3 1.2% (5.1)
	50 歳 代	331 100.0% (100.0)	59 17.8% (16.8)	80 24.2% (25.2)	43 13.0% (14.0)	17 5.1% (8.1)	125 37.8% (28.7)	7 2.1% (7.2)
	60 歳 代	282 100.0% (100.0)	64 22.7% (17.5)	61 21.6% (17.1)	20 7.1% (11.6)	17 6.0% (6.2)	104 36.9% (33.6)	16 5.7% (14.0)
70歳以上								



同和地区出身者に対する差別について、将来どのようになると思うかを尋ねた結果を、表2-61に示しましょう。差別する人が孤立するだろうと答えた人は43.4%（前回39.3%）、差別をなくそうとする人が孤立するだろうと答えた人が21.4%（前回25.2%）という結果です。性別に差異はありません。年代別では、10歳代・20歳代から50歳代までが同じような数値ですが、60歳代以後の年代で差別する人が孤立するだろうと見る人が多くなっています。

2 同和問題を解決する方法に関する認識

問 32 あなたは、同和問題の解決に向けて、次の意見に対してどう思いますか。①～⑨のすべてについてお答えください。(○はそれぞれ1つ)

表2-62

	回 答 者 数	そ う 思 う	そ う 思 う ど ち ら か と い え ば	ど ち ら か と い え ば そ う 思 わ な い	そ う 思 わ な い	わ か ら な い	無 回 答 ・ 不 明
①同和地区の住環境や生活の実態を改善する	1,415 100.0% (100.0)	250 17.7% (20.0)	444 31.4% (28.1)	146 10.3% (12.0)	86 6.1% (11.9)	406 28.7% (18.5)	83 5.9% (9.4)
②同和地区出身者が自立意識や生活の向上に努める	1,415 100.0% (100.0)	272 19.2% (21.1)	501 35.4% (33.1)	155 11.0% (10.3)	62 4.4% (6.6)	338 23.9% (19.6)	87 6.1% (9.4)
③学校教育・社会教育を通じて人権教育・啓発活動を積極的に行う	1,415 100.0% (100.0)	470 33.2% (22.5)	527 37.2% (32.5)	99 7.0% (12.5)	73 5.2% (8.3)	161 11.4% (14.2)	85 6.0% (10.0)
④市民が自由な意見交換できる環境をつくる	1,415 100.0% (100.0)	476 33.6% (31.8)	536 37.9% (35.3)	94 6.6% (6.5)	48 3.4% (4.9)	181 12.8% (12.5)	80 5.7% (9.1)
⑤市民一人ひとりが主体的に同和問題の学習を積み重ねる	1,415 100.0% (100.0)	276 19.5% (19.2)	531 37.5% (33.4)	172 12.2% (11.7)	103 7.3% (9.7)	243 17.2% (16.5)	90 6.4% (9.5)
⑥差別を禁止する法律を作り、救済制度を充実する	1,415 100.0% (100.0)	175 12.4% (10.3)	349 24.7% (19.2)	280 19.8% (19.7)	218 15.4% (20.9)	298 21.1% (20.6)	95 6.7% (9.3)
⑦そっとしておけば、自然と差別はなくなっていく	1,415 100.0% (100.0)	186 13.1% (16.0)	221 15.6% (18.5)	208 14.7% (12.3)	526 37.2% (32.1)	197 13.9% (13.0)	77 5.4% (8.1)
⑧同和地区と周辺地域の人々が交流して「まちづくり」を進める	1,415 100.0% (100.0)	269 19.0% (22.2)	533 37.7% (35.7)	150 10.6% (8.7)	76 5.4% (5.4)	308 21.8% (19.1)	79 5.6% (8.9)
⑨同和地区の人がかたまって住まないで、分散して住むようにする	1,415 100.0% (100.0)	258 18.2% (18.2)	406 28.7% (27.5)	170 12.0% (9.4)	126 8.9% (9.9)	379 26.8% (26.3)	76 5.4% (8.6)

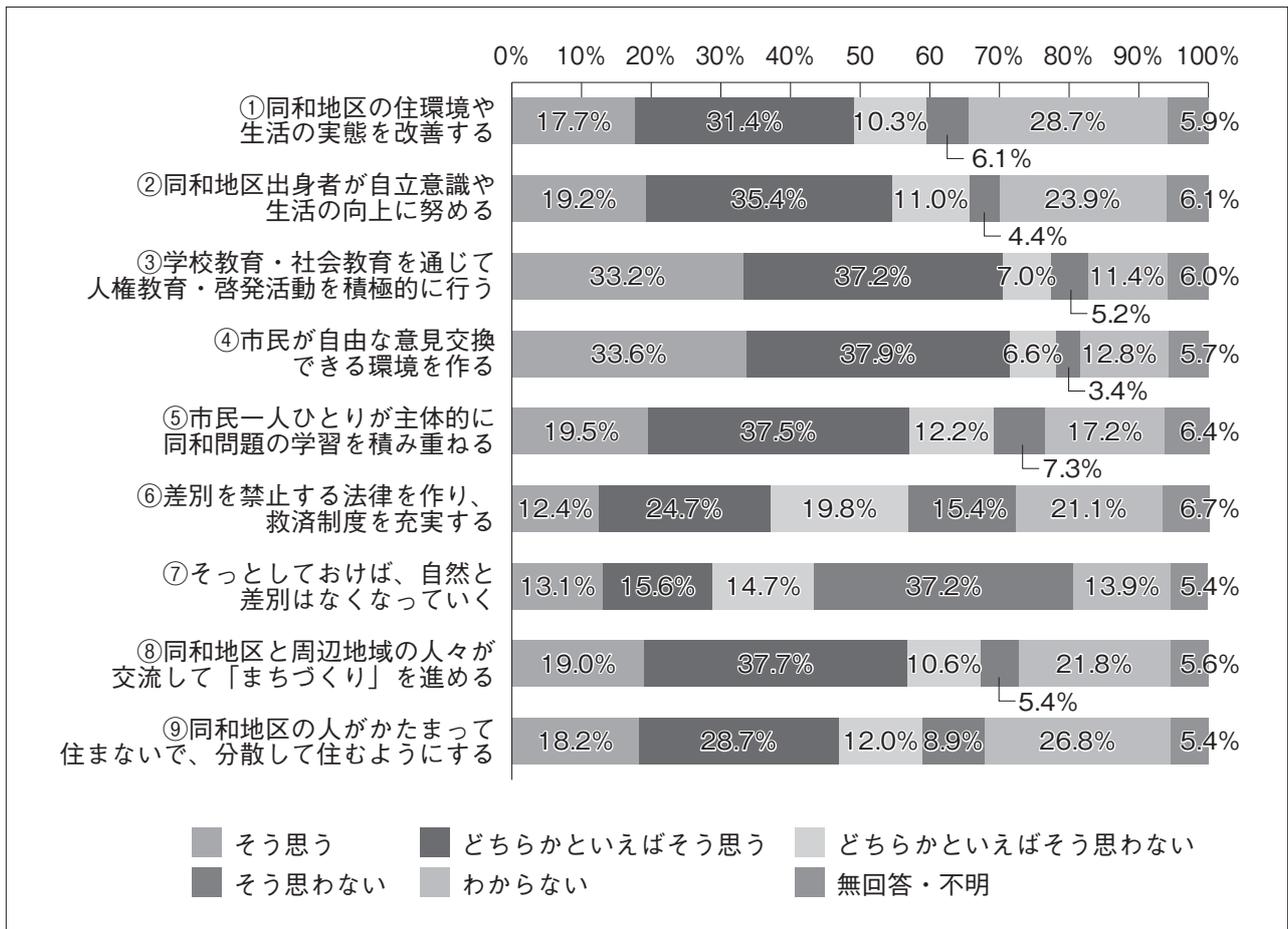


表2-62は、同和問題解決のためにと前置きして尋ねた9つの項目に対する賛否をまとめたものです。前回調査の結果と対比して、特徴が表れた部分について触れていきます。「同和地区の住環境や生活の実態を改善する」「同和地区出身者が自立意識や生活の向上に努める」「同和地区と周辺地域の人々が交流して『まちづくり』を進める」「同和地区の人がかたまって住まないで、分散して住むようにする」の4項目については、前回調査と大きな差異はありません。

これに対して、「学校教育・社会教育を通じて人権教育・啓発活動を積極的に行う」「市民が自由な意見交換できる環境をつくる」「市民一人ひとりが主体的に同和問題の学習を積み重ねる」「差別を禁止する法律をつくり、救済制度を充実する」の4項目については、前回調査よりも明らかに賛同者が増加したことが読み取れます。また、「そっとしておけば、自然と差別はなくなっていく」に対しては、「そう思う」「どちらかといえばそう思う」と答えた人が28.7%（前回34.5%）に減少しました。「そう思わない」「どちらかといえばそう思わない」と答えた人が51.9%（前回44.4%）に増加しています。同和教育・啓発の取り組みが効果を上げた側面がうかがえる数値です。

どの問いにも性別には大きな差異がありませんでした。年代別にみると、10歳代・20歳代ほど自己啓発学習などに前向きであり、加齢とともに「自然になくなる」と思う人が増大する傾向がうかがえました。10歳代・20歳代が教育や啓発に熱心な点に期待が持てます。

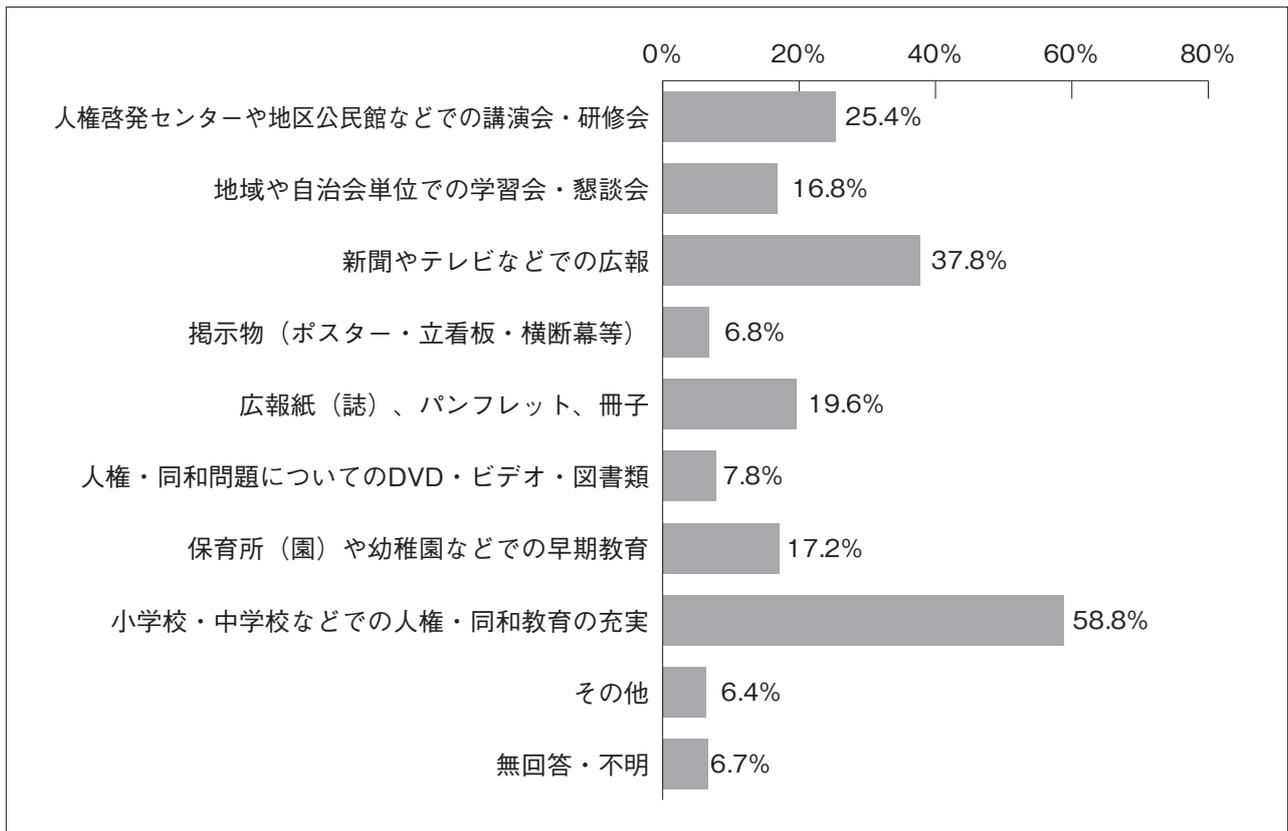
3 解決に役立つ方法について

問 31 あなたは、同和問題をはじめとする人権問題についての理解を深めるにあたって、どのようなものが役立つとお考えでしょうか。特に役立つと思われるものを選んでください。
(○は3つ以内)

※この設問は前回調査にはありません。

表2-63

		回 答 者 数	人権啓発センターや地区公民館などでの講演会・研修会	地域や自治会単位での学習会・懇談会	新聞やテレビなどでの広報	掲示物(ポスター・立看板・横断幕等)	冊子	広報紙(誌)、パンフレット、	V D・ビデオ・図書類	人権・同和問題についてのD	保育所(園)や幼稚園などでの早期教育	小学校・中学校などでの人権・同和教育の充実	その他	無 回 答 ・ 不 明
市 全 体		1,415 100.0%	359 25.4%	238 16.8%	535 37.8%	96 6.8%	277 19.6%	111 7.8%	244 17.2%	832 58.8%	91 6.4%	95 6.7%		
性 別	男 性	530 100.0%	132 24.9%	88 16.6%	205 38.7%	40 7.5%	113 21.3%	44 8.3%	89 16.8%	304 57.4%	43 8.1%	26 4.9%		
	女 性	885 100.0%	227 25.6%	150 16.9%	330 37.3%	56 6.3%	164 18.5%	67 7.6%	155 17.5%	528 59.7%	48 5.4%	69 7.8%		
年 齢 別	10 歳 代	123 100.0%	21 17.1%	7 5.7%	53 43.1%	11 8.9%	15 12.2%	13 10.6%	29 23.6%	87 70.7%	3 2.4%	8 6.5%		
	20 歳 代	193 100.0%	42 21.8%	30 15.5%	82 42.5%	16 8.3%	27 14.0%	11 5.7%	46 23.8%	130 67.4%	10 5.2%	13 6.7%		
	30 歳 代	245 100.0%	56 22.9%	33 13.5%	97 39.6%	19 7.8%	41 16.7%	15 6.1%	50 20.4%	159 64.9%	17 6.9%	9 3.7%		
	40 歳 代	241 100.0%	73 30.3%	47 19.5%	80 33.2%	17 7.1%	44 18.3%	21 8.7%	41 17.0%	151 62.7%	18 7.5%	12 5.0%		
	50 歳 代	331 100.0%	82 24.8%	59 17.8%	118 35.6%	25 7.6%	79 23.9%	29 8.8%	48 14.5%	200 60.4%	20 6.0%	20 6.0%		
	60 歳 代	282 100.0%	85 30.1%	62 22.0%	105 37.2%	8 2.8%	71 25.2%	22 7.8%	30 10.6%	105 37.2%	23 8.2%	33 11.7%		



前回調査の項目にはなかった問いですが、人権問題について理解を深める方法として役立つと思うものについて尋ねた結果を、表2-63に見てみましょう。数値の高い順に「小学校・中学校などでの人権・同和教育の充実」「新聞やテレビなどでの広報」「人権啓発センターや地区公民館などでの講演会・研修会」が上位に並びます。「広報紙（誌）、パンフレット、冊子」「保育所（園）や幼稚園などでの早期教育」「地域や自治会単位での学習会・懇談会」がそれらに続きます。